

Ⅱ. 子どもの生活などについて

1. 自分のこと

(1)自分のこと

(小学5年調査(N=718)・中学2年調査(N=481)・16・17歳調査(N=177)[問1]；おとな調査(N=870)[問1])

自分のことについて、「自分のことが好きだ」・「自分は人から必要とされている」・「自分のことを誰もわかってくれない」・「周りの人とあまり違わないようにしている」・「社会に役立つことをしたい」の5項目について、『そう思う』・『まあそう思う』・『あまりそう思わない』・『そう思わない』の4段階で尋ねた。

ア. 自分のことが好きだ(自己肯定感)

◎調査票別

「自分のことが好きだ」という自己肯定感について尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-1-1)。

『小学5年調査』では、『そう思う』(26.2%)・『まあそう思う』(39.6%)が65.8%で、自分のことを好きと『思う』が『思わない』よりも割合が高かった。

『中学2年調査』では、『あまりそう思わない』(40.5%)・『そう思わない』(22.0%)が62.5%で、自分のことを好きと『思わない』が『思う』よりも割合が高かった。

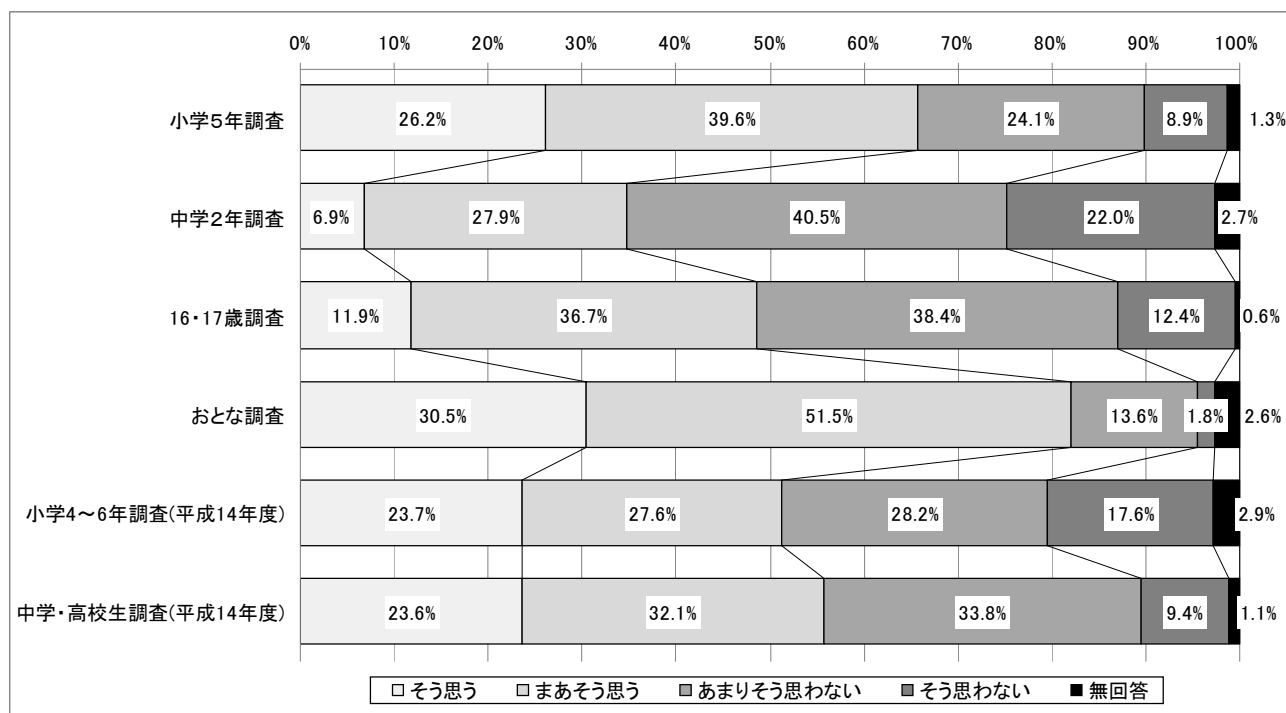
『16・17歳調査』では、『そう思う』(11.9%)・『まあそう思う』(36.7%)が48.6%、『あまりそう思わない』(38.4%)・『そう思わない』(12.4%)が50.8%で、自分のことを好きと『思う』・『思わない』がほぼ同じ割合であった。

『おとな調査』では、『そう思う』(30.5%)・『まあそう思う』(51.5%)が82.0%で、自分のことを好きと『思う』が大半であった。

『小学4～6年調査(平成14年度)』では、『そう思う』(23.7%)・『まあそう思う』(27.6%)が51.3%、『あまりそう思わない』(28.2%)・『そう思わない』(17.6%)が45.6%で、自分のことを好きと『思う』・『思わない』がほぼ同じ割合であった。

『中学・高校生調査(平成14年度)』では、『そう思う』(23.6%)・『まあそう思う』(32.1%)が55.8%、『あまりそう思わない』(33.8%)・『そう思わない』(9.4%)が43.2%で、自分のことを好きと『思う』が『思わない』よりも割合が高かった。

図表Ⅱ-1-1 調査票別の自分のことが好きだ



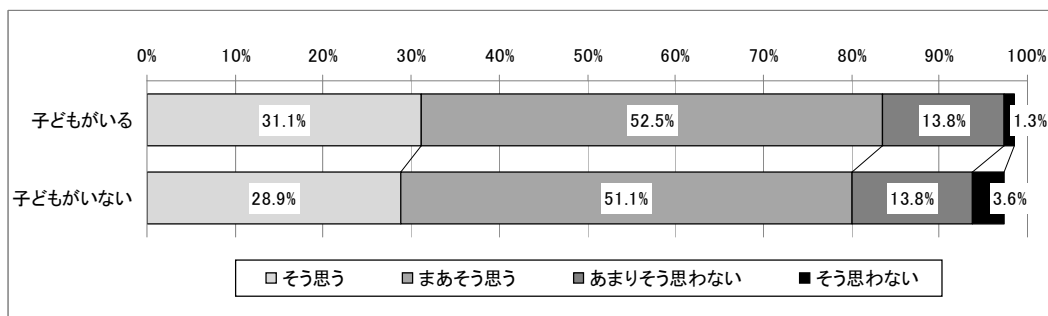
◎子どもの有無別(『おとな調査』のみ)

「自分のことが好きだ」かについて尋ねた結果の子どもの有無別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-1-2)。

『おとな調査』においては、「子どもがいる」では、『そう思う』(31.1%)・『まあそう思う』(52.5%)が8

3.6%で、自分のことを好きと思うが大半であった。さらに、「子どもがいない」でも、『そう思う』(28.9%)・『まあそう思う』(51.1%)が80.0%で、自分のことを好きと思うが大半であった。また、自分ことが好きと思うのは、「子どもがいる」・「子どもがいない」にかかわらずほぼ同じ割合であった。

図表Ⅱ－１－２ 子どもの有無別の自分のことが好きだ



イ. 自分は人から必要とされている

◎調査票別

「自分は人から必要とされている」かについて尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ－１－３)。

『小学5年調査』では、『そう思う』(13.4%)・『まあそう思う』(40.4%)が53.8%で、自分は人から必要とされていると『思う』が『思わない』よりも割合が高かった。

『中学2年調査』では、『あまりそう思わない』(42.8%)・『そう思わない』(16.0%)が58.8%で、自分は人から必要とされていると『思わない』が『思う』よりも割合が高かった。

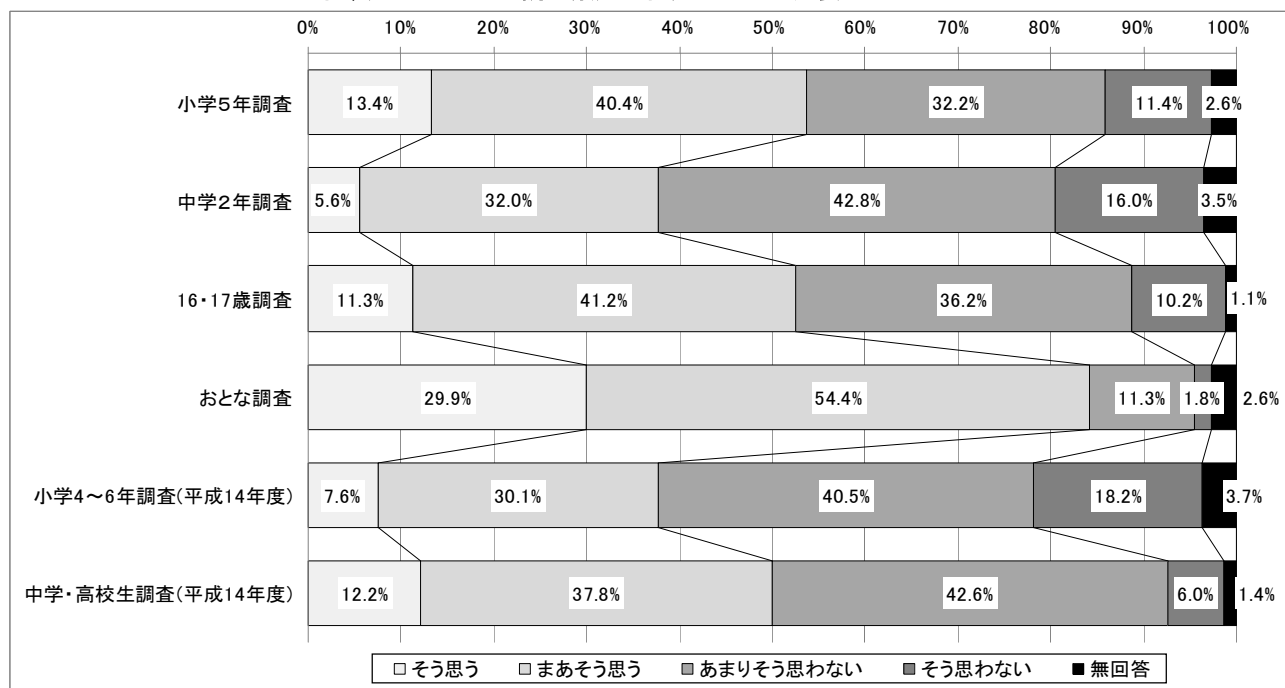
『16・17歳調査』では、『そう思う』(11.3%)・『まあそう思う』(41.2%)が52.5%で、『あまりそう思わない』(36.2%)・『そう思わない』(10.2%)が46.4%で、自分は人から必要とされていると『思う』・『思わない』がほぼ同じ割合であった。

『おとな調査』では、『そう思う』(29.9%)・『まあそう思う』(54.4%)が84.3%で、自分は人から必要とされていると思うが大半であった。

『小学4～6年調査(平成14年度)』では、『あまりそう思わない』(40.5%)・『そう思わない』(18.2%)が58.7%で、自分は人から必要とされていると『思わない』が『思う』よりも割合が高かった。

『中学・高校生調査(平成14年度)』では、『そう思う』(12.2%)・『まあそう思う』(37.8%)が50.0%で、『あまりそう思わない』(42.6%)・『そう思わない』(6.0%)が48.6%で、自分は人から必要とされていると『思う』・『思わない』がほぼ同じ割合であった。

図表Ⅱ－１－３ 調査票別の自分は人から必要とされている



◎自己肯定感(自分のことが好きだ)別

「自分は人から必要とされている」かについて尋ねた結果の自己肯定感(自分のことが好きだ)別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-1-4)。

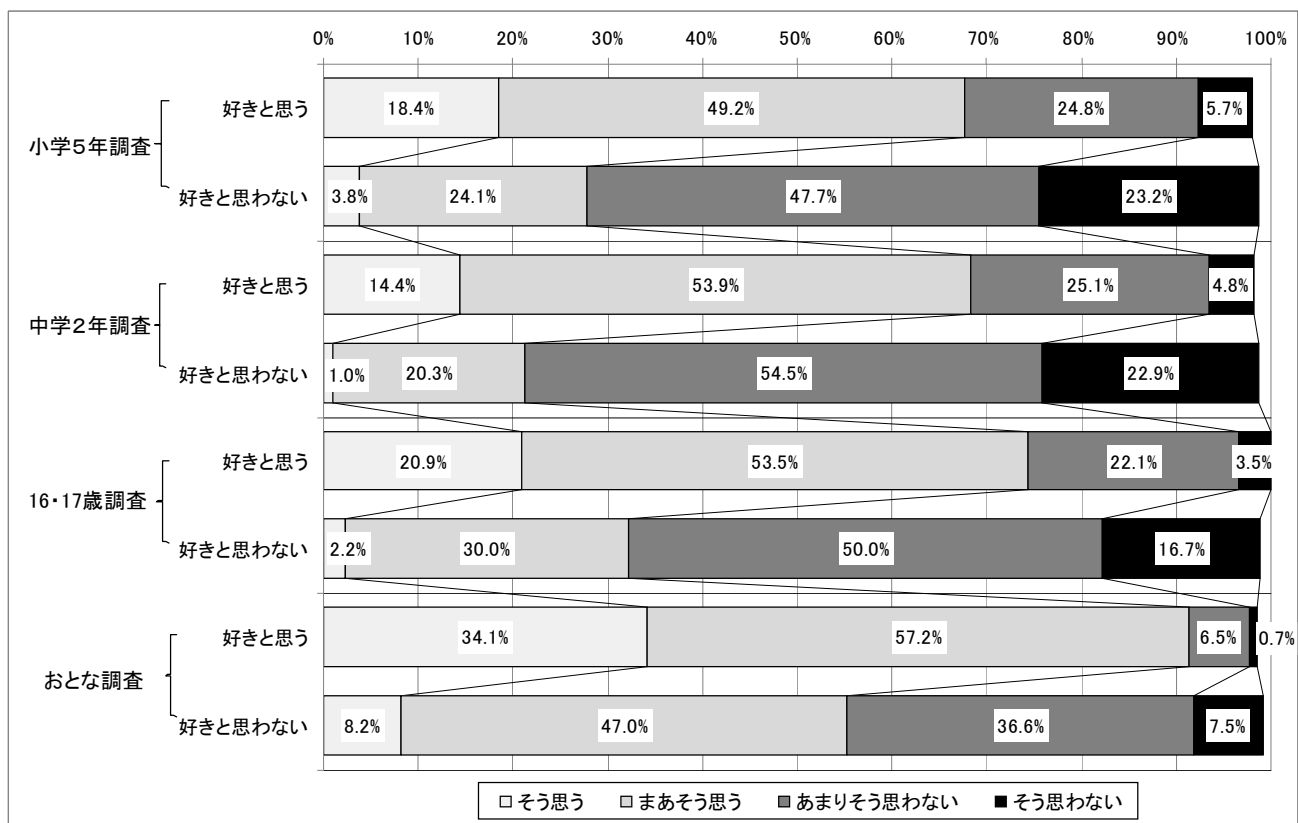
『小学5年調査』においては、「自分のことを好きと思う」では、自分は人から必要とされていると『そう思う』(18.4%)・『まあそう思う』(49.2%)が67.6%であった。逆に、「自分のことを好きと思わない」では、自分は人から必要とされていると『あまりそう思わない』(47.7%)・『そう思わない』(23.2%)が70.9%であった。また、自分は人から必要とされていると思うでは、「自分のことを好きと思う」(67.6%)が、「自分のことを好きと思わない」(27.9%)よりも割合が高かった。

『中学2年調査』においては、「自分のことを好きと思う」では、自分は人から必要とされていると『そう思う』(14.4%)・『まあそう思う』(53.9%)が68.3%であった。逆に、「自分のことを好きと思わない」では、自分は人から必要とされていると『あまりそう思わない』(54.5%)・『そう思わない』(22.9%)が77.4%であった。また、自分は人から必要とされていると思うでは、「自分のことを好きと思う」(68.3%)が、「自分のことを好きと思わない」(21.3%)よりも割合が高かった。

『16・17歳調査』においては、「自分のことを好きと思う」では、自分は人から必要とされていると『そう思う』(20.9%)・『まあそう思う』(53.5%)が74.4%であった。逆に、「自分のことを好きと思わない」では、自分は人から必要とされていると『あまりそう思わない』(50.0%)・『そう思わない』(16.7%)が66.7%であった。また、自分は人から必要とされていると思うでは、「自分のことを好きと思う」(74.4%)が、「自分のことを好きと思わない」(32.2%)よりも割合が高かった。

『おとな調査』においては、「自分のことを好きと思う」では、自分は人から必要とされていると『そう思う』(34.1%)・『まあそう思う』(57.2%)が91.3%であった。逆に、「自分のことを好きと思わない」では、自分は人から必要とされていると『そう思う』(8.2%)・『まあそう思う』(47.0%)が55.2%であった。また、自分は人から必要とされていると思うでは、「自分のことを好きと思う」(91.3%)が、「自分のことを好きと思わない」(55.2%)よりも割合が高かった。

図表Ⅱ-1-4 自己肯定感(自分のことが好きだ)別の自分は人から必要とされている

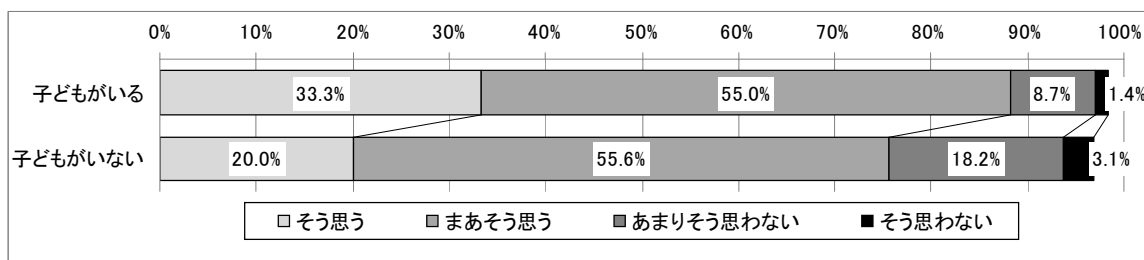


◎子どもの有無別(『おとな調査』のみ)

「自分は人から必要とされている」かについて尋ねた結果の子どもの有無別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-1-5)。

『おとな調査』においては、「子どもがいる」では、『そう思う』(33.3%)・『まあそう思う』(55.0%)が88.3%、「子どもがいない」では、『そう思う』(20.0%)・『まあそう思う』(55.6%)が75.6%であった。また、自分は人から必要とされていると思うでは、「子どもがいる」が「子どもがいない」よりも割合が高かった。

図表Ⅱ－１－５ 子どもの有無別の自分は人から必要とされている



ウ. 自分のことを誰もわかってくれない

◎調査票別

「自分のことを誰もわかってくれない」かについて尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ－１－６)。

『小学5年調査』では、『あまりそう思わない』(35.7%)・『そう思わない』(42.9%)が78.6%で、自分のことを誰もわかってくれないとは思わないものと思うよりも割合が高かった。

『中学2年調査』では、『あまりそう思わない』(47.2%)・『そう思わない』(29.3%)が76.5%で、自分のことを誰もわかってくれないとは思わないものと思うよりも割合が高かった。

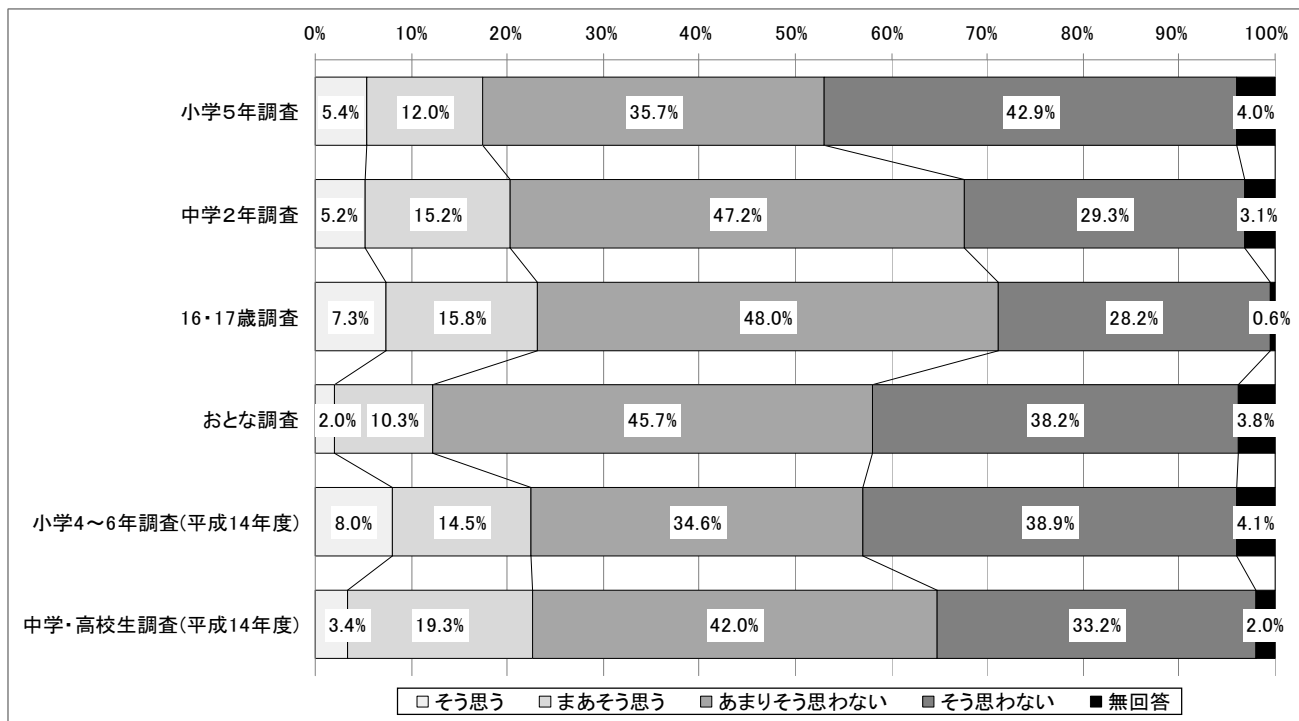
『16・17歳調査』では、『あまりそう思わない』(48.0%)・『そう思わない』(28.2%)が76.2%で、自分のことを誰もわかってくれないとは思わないものと思うよりも割合が高かった。

『おとな調査』では、『あまりそう思わない』(45.7%)・『そう思わない』(38.2%)が83.9%で、自分のことを誰もわかってくれないとは思わないものが大半であった。

『小学4～6年調査(平成14年度)』では、『あまりそう思わない』(34.6%)・『そう思わない』(38.9%)が73.5%で、自分のことを誰もわかってくれないとは思わないものと思うよりも割合が高かった。

『中学・高校生調査(平成14年度)』では、『あまりそう思わない』(42.0%)・『そう思わない』(33.2%)が75.2%で、自分のことを誰もわかってくれないとは思わないものと思うよりも割合が高かった。

図表Ⅱ－１－６ 調査票別の自分のことを誰もわかってくれない



◎自己肯定感(自分のことが好きだ)別

「自分のことを誰もわかってくれない」かについて尋ねた結果の自己肯定感(自分のことが好きだ)別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ－１－７)。

『小学5年調査』においては、「自分のことを好きと思う」では、自分のことを誰もわかってくれないと『あまりそう思わない』(37.3%)・『そう思わない』(46.4%)が83.7%であった。さらに、「自分のことを

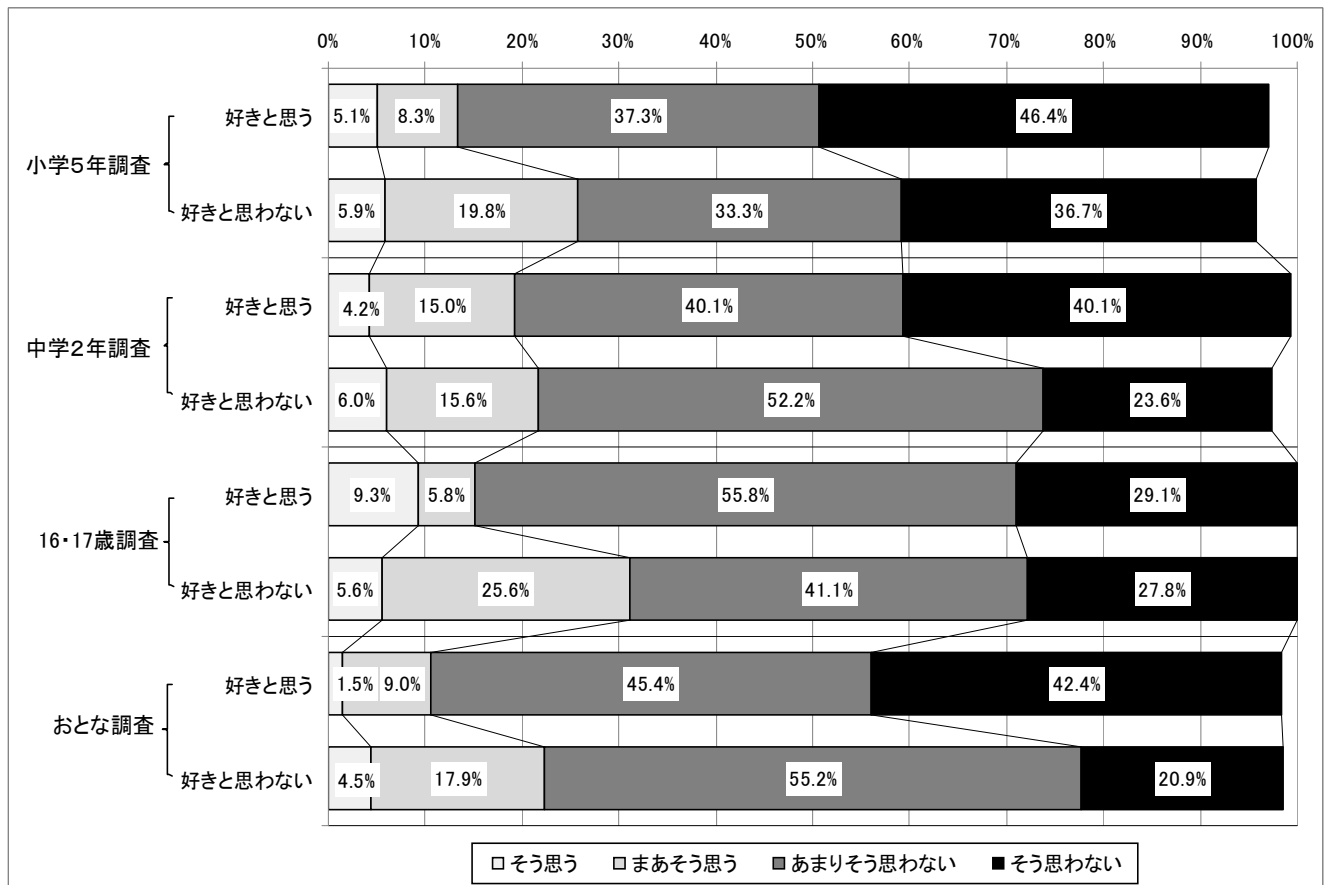
好きと思わない」では、自分のことを誰もわかってくれないと『あまりそう思わない』(33.3%)・『そう思わない』(36.7%)が70.0%であった。また、自分のことを誰もわかってくれないと思っていないでは、「自分のことを好きと思う」が「自分のことを好きと思わない」よりも割合が高かった。

『中学2年調査』においては、「自分のことを好きと思う」では、自分のことを誰もわかってくれないと『あまりそう思わない』(40.1%)・『そう思わない』(40.1%)が80.2%であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、自分のことを誰もわかってくれないと『あまりそう思わない』(52.2%)・『そう思わない』(23.6%)が75.8%であった。また、自分のことを誰もわかってくれないと思わないでは、「自分のことを好きと思わない」・「自分のことを好きと思う」ともほぼ同じであった。

『16・17歳調査』においては、「自分のことを好きと思う」では、自分のことを誰もわかってくれないと『あまりそう思わない』(55.8%)・『そう思わない』(29.1%)が84.9%であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、自分のことを誰もわかってくれないと『あまりそう思わない』(41.1%)『そう思わない』(27.8%)が68.9%であった。また、自分のことを誰もわかってくれないと思わないでは、「自分のことを好きと思う」が「自分のことを好きと思わない」よりも割合が高かった。

『おとな調査』においては、「自分のことを好きと思う」では、自分のことを誰もわかってくれないと『あまりそう思わない』(45.4%)・『そう思わない』(42.4%)が87.8%であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、自分のことを誰もわかってくれないと『あまりそう思わない』(55.2%)・『そう思わない』(20.9%)が76.1%であった。また、自分のことを誰もわかってくれないと思わないでは、「自分のことを好きと思う」が「自分のことを好きと思わない」よりも割合が高かった。

図表Ⅱ-1-7 自己肯定感(自分のことが好きだ)別自分のことを誰もわかってくれない

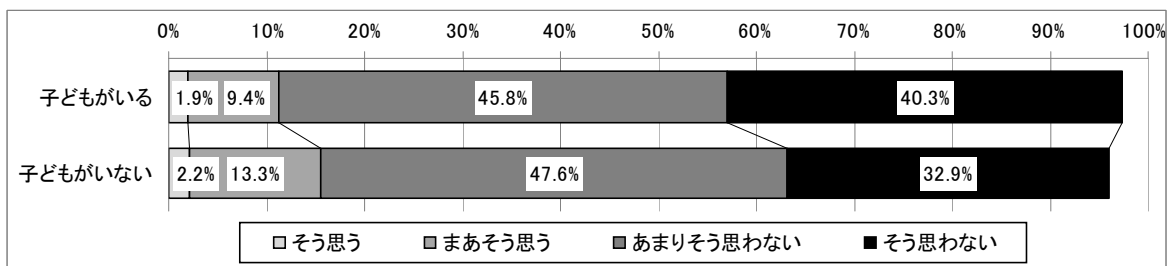


◎子どもの有無別(『おとな調査』のみ)

「自分のことを誰もわかってくれない」かについて尋ねた結果の子ども有無別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-1-8)。

『おとな調査』においては、「子どもがいる」では、『あまりそう思わない』(45.8%)・『そう思わない』(40.3%)が86.1%で、自分のことを誰もわかってくれないと『思わない』が『思う』よりも割合が高かった。さらに、「子どもがいない」でも、『あまりそう思わない』(47.6%)・『そう思わない』(32.9%)が80.5%で、自分のことを誰もわかってくれないと『思わない』が『思う』よりも割合が高かった。また、自分のことを誰もわかってくれないと思わないでは、「子どもがいる」・「子どもがいない」にかかわらずほぼ同じ割合であった。

図表Ⅱ-1-8 子どもの有無別の自分のことを誰もわかってくれない



エ. 周りの人とあまり違わないようにしている

◎調査票別

「周りの人とあまり違わないようにしている」について尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-1-9)。

『小学5年調査』では、『そう思う』(16.0%)・『まあそう思う』(27.4%)が43.4%、『あまりそう思わない』(28.8%)・『そう思わない』(21.9%)が50.7%で、周りの人とあまり違わないようにしていると『思う』・『思わない』がほぼ同じ割合であった。

『中学2年調査』では、『そう思う』(10.0%)・『まあそう思う』(35.6%)が45.6%、『あまりそう思わない』(34.5%)・『そう思わない』(15.8%)が50.3%で、周りの人とあまり違わないようにしていると『思う』・『思わない』がほぼ同じ割合であった。

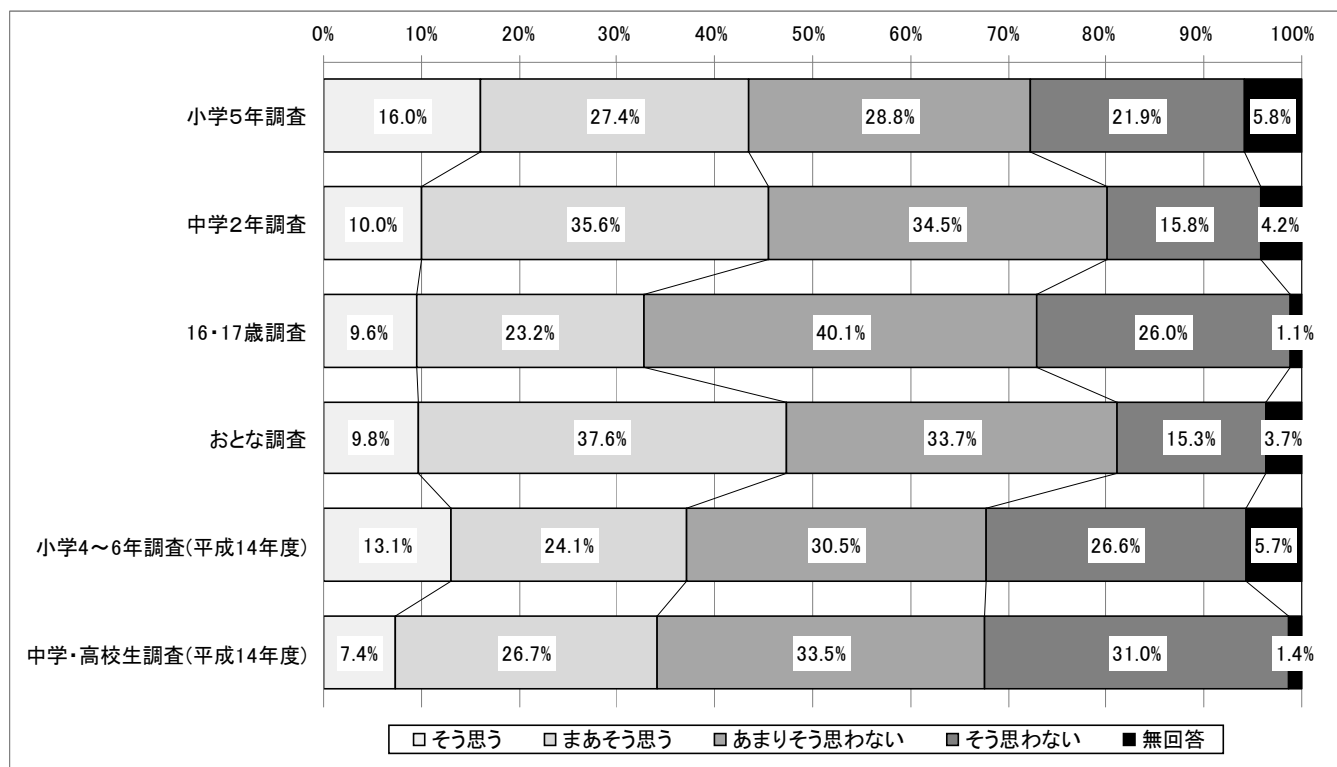
『16・17歳調査』では、『あまりそう思わない』(40.1%)・『そう思わない』(26.0%)が66.1%で、周りの人とあまり違わないようにしていると『思わない』の割合が高かった。

『おとな調査』では、『そう思う』(9.8%)・『まあそう思う』(37.6%)が47.4%、『あまりそう思わない』(33.7%)・『そう思わない』(15.3%)が49.0%で、周りの人とあまり違わないようにしていると『思う』・『思わない』がほぼ同じ割合であった。

『小学4～6年調査(平成14年度)』では、『あまりそう思わない』(30.5%)・『そう思わない』(26.6%)が57.1%で、周りの人とあまり違わないようにしていると『思わない』が『思う』よりも割合が高かった。

『中学・高校生調査(平成14年度)』では、『あまりそう思わない』(33.5%)『そう思わない』(31.0%)が64.5%で、周りの人とあまり違わないようにしていると『思わない』が『思う』よりも割合が高かった。

図表Ⅱ-1-9 調査票別の周りの人とあまり違わないようにしている



◎自己肯定感(自分のことが好きだ)別

「周りの人とあまり違わないようにしている」かについて尋ねた結果の自己肯定感(自分のことが好きだ)別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-1-10)。

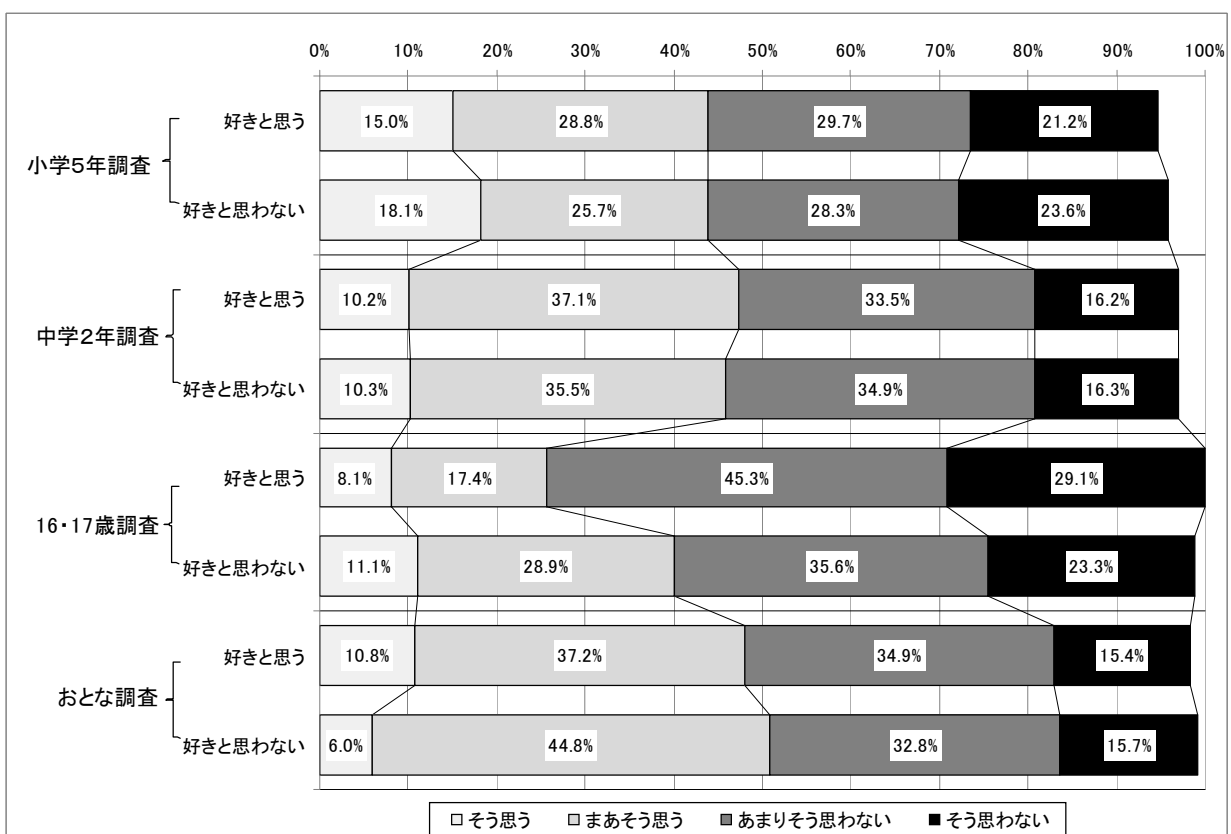
『小学5年調査』においては、「自分のことを好きと思う」では、『そう思う』(15.0%)・『まあそう思う』(28.8%)が43.8%、『あまりそう思わない』(29.7%)・『そう思わない』(21.2%)が50.9%で、周りの人とあまり違わないようにしていると『思う』・『思わない』がほぼ同じ割合であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」でも、『そう思う』(18.1%)・『まあそう思う』(25.7%)が43.8%、『あまりそう思わない』(28.3%)・『そう思わない』(23.6%)が51.9%で、周りの人とあまり違わないようにしていると『思わない』が『思う』がほぼ同じ割合であった。また、周りの人とあまり違わないようにしていると『思う』・『思わない』とともに、「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」がほぼ同じ割合であった。

『中学2年調査』においては、「自分のことを好きと思う」では、『そう思う』(10.2%)・『まあそう思う』(37.1%)が47.3%、『あまりそう思わない』(33.5%)・『そう思わない』(16.2%)が49.7%で、周りの人とあまり違わないようにしていると『思う』・『思わない』がほぼ同じ割合であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」でも、『そう思う』(10.3%)・『まあそう思う』(35.5%)が45.8%、『あまりそう思わない』(34.9%)・『そう思わない』(16.3%)が51.2%で、周りの人とあまり違わないようにしていると『思う』・『思わない』がほぼ同じ割合であった。また、周りの人とあまり違わないようにしていると『思う』・『思わない』とともに、「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」がほぼ同じ割合であった。

『16・17歳調査』においては、「自分のことを好きと思う」では、『あまりそう思わない』(45.3%)・『そう思わない』(29.1%)が74.4%で、周りの人とあまり違わないようにしていると『思わない』が『思う』(25.5%)よりも割合が高かった。さらに、「自分のことを好きと思わない」でも、『あまりそう思わない』(35.6%)・『そう思わない』(23.3%)が58.9%で、周りの人とあまり違わないようにしていると『思わない』が『思う』(40.0%)よりも割合が高かった。また、周りの人とあまり違わないようにしていると『思わない』では、「自分のことを好きと思う」が「自分のことを好きと思わない」よりも割合が高かった。

『おとな調査』においては、「自分のことを好きと思う」では、『そう思う』(10.8%)・『まあそう思う』(37.2%)が48.0%、『あまりそう思わない』(34.9%)・『そう思わない』(15.4%)が50.3%で、周りの人とあまり違わないようにしていると『思う』・『思わない』がほぼ同じ割合であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」でも、『そう思う』(6.0%)・『まあそう思う』(44.8%)が50.8%、『あまりそう思わない』(32.8%)・『そう思わない』(15.7%)が48.5%で、周りの人とあまり違わないようにしていると『思う』・『思わない』がほぼ同じ割合であった。また、周りの人とあまり違わないようにしていると『思う』・『思わない』とともに、「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」がほぼ同じ割合であった。

図表Ⅱ-1-10 自己肯定感(自分のことが好きだ)別の周りの人とあまり違わないようにしている

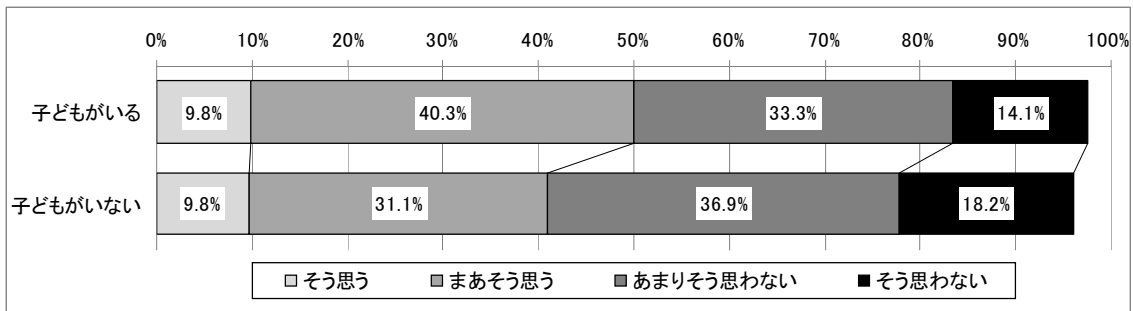


◎子どもの有無別(『おとな調査』のみ)

「周りの人とあまり違わないようにしている」かについて尋ねた結果の自己肯定感(自分のことが好きだ)別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-1-11)。

『おとな調査』においては、「子どもがいる」では、『そう思う』(9.8%)・『まあそう思う』(40.3%)が50.1%、『あまりそう思わない』(33.3%)・『そう思わない』(14.1%)が47.4%で、周りの人とあまり違わないようにしていると『思う』・『思わない』とともに、ほぼ同じ割合であった。さらに、「子どもがいない」では、『あまりそう思わない』(36.9%)・『そう思わない』(18.2%)が55.1%で、周りの人とあまり違わないようにしていると『思わない』が『思う』よりも割合が高かった。さらに、周りの人とあまり違わないようにしていると『思う』・『思わない』のどちらも、「子どもがいる」・「子どもがいない」にかかわらずほぼ同じ割合であった。

図表Ⅱ-1-11 子どもの有無別の周りの人とあまり違わないようにしている



オ. 社会に役立つことをしたい

◎調査票別

「社会に役立つことをしたい」かについて尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-1-12)。

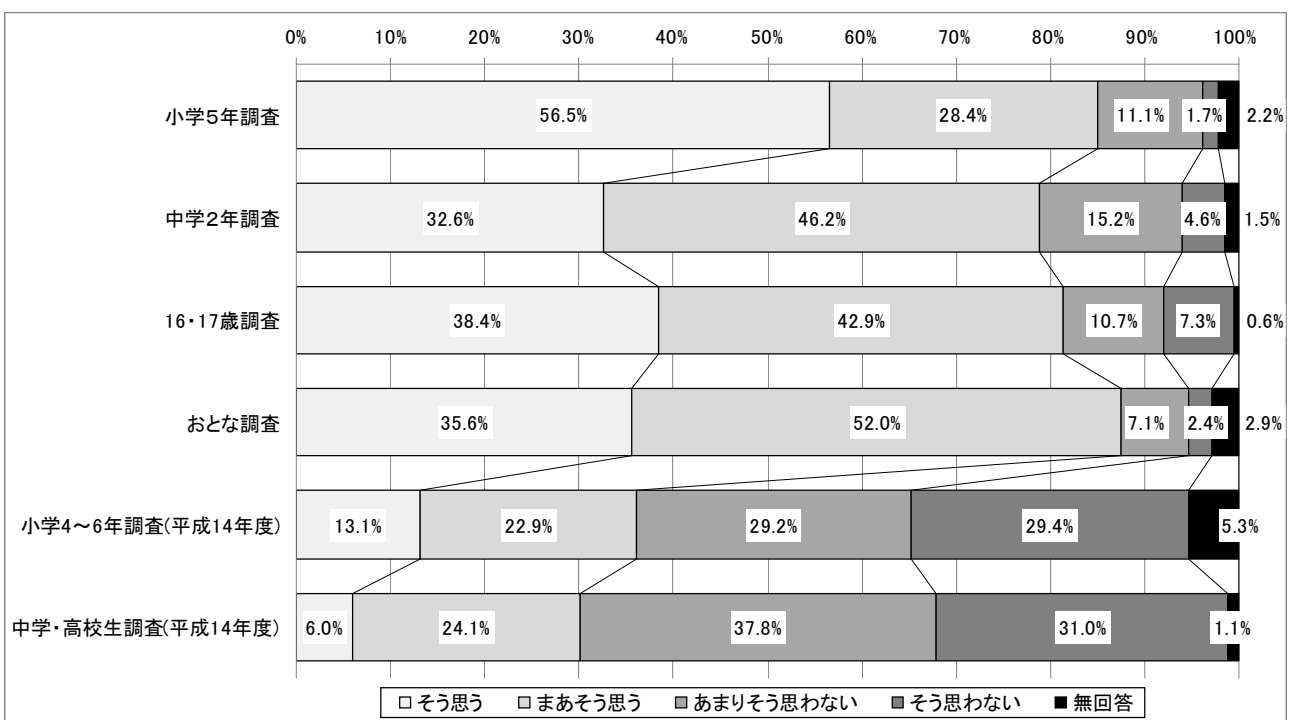
『小学5年調査』では、『そう思う』(56.5%)・『まあそう思う』(28.4%)が84.9%で、社会に役立つことをしたいと『思う』が『思わない』よりも割合が高かった。

『中学2年調査』では、『そう思う』(32.6%)・『まあそう思う』(46.2%)が78.8%で、社会に役立つことをしたいと『思う』が『思わない』よりも割合が高かった。

『16・17歳調査』では、『そう思う』(38.4%)・『まあそう思う』(42.9%)が81.3%で、社会に役立つことをしたいと『思う』が『思わない』よりも割合が高かった。

『おとな調査』では、『そう思う』(35.6%)・『まあそう思う』(52.0%)が87.6%で、社会に役立つことをしたいと『思う』が『思わない』よりも割合が高かった。

図表Ⅱ-1-12 調査票別の社会に役立つことをしたい



『小学4～6年調査(平成14年度)』では、『あまりそう思わない』(29.2%)・『そう思わない』(29.4%)が58.6%で、社会に役立つことをしたいと『思わない』が『思う』よりも割合が高かった。

『中学・高校生調査(平成14年度)』では、『あまりそう思わない』(37.8%)・『そう思わない』(31.0%)が68.8%で、社会に役立つことをしたいと『思わない』が『思う』よりも割合が高かった。

◎自己肯定感(自分のことが好きだ)別

「社会に役立つことをしたい」かについて尋ねた結果の自己肯定感(自分のことが好きだ)別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-1-13)。

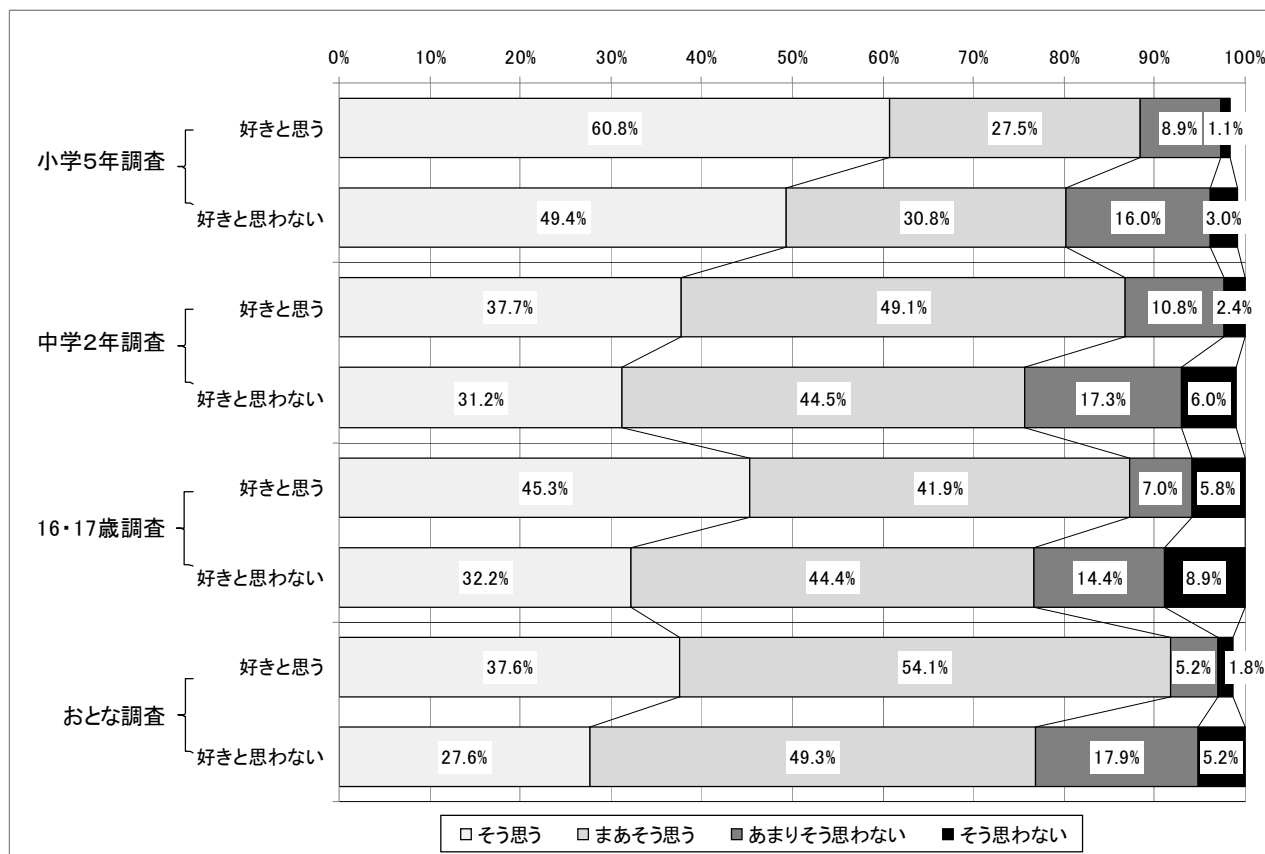
『小学5年調査』においては、「自分のことを好きと思う」では、『そう思う』(60.8%)・『まあそう思う』(27.5%)が88.3%で、社会に役立つことをしたいと思うのが大半であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」でも、『そう思う』(49.4%)・『まあそう思う』(30.8%)が80.3%で、社会に役立つことをしたいと思うのが大半であった。また、社会に役立つことをしたいと思うでは、「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」がほぼ同じ割合であった。

『中学2年調査』においては、「自分のことを好きと思う」では、『そう思う』(37.7%)・『まあそう思う』(49.1%)が86.8%で、社会に役立つことをしたいと思うのが大半であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」でも、『そう思う』(31.2%)・『まあそう思う』(44.5%)が75.7%で、社会に役立つことをしたいと『思う』が『思わない』よりも割合が高かった。また、社会に役立つことをしたいと思うでは、「自分のことを好きと思う」が「自分のことを好きと思わない」よりも割合が高かった。

『16・17歳調査』においては、「自分のことを好きと思う」では、『そう思う』(45.3%)・『まあそう思う』(41.9%)が87.2%で、社会に役立つことをしたいと思うのが大半であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」でも、『そう思う』(32.2%)・『まあそう思う』(44.4%)が76.6%で、社会に役立つことをしたいと『思う』が『思わない』よりも割合が高かった。また、社会に役立つことをしたいと思うでは、「自分のことを好きと思う」が「自分のことを好きと思わない」よりも割合が高かった。

『おとな調査』においては、「自分のことを好きと思う」では、『そう思う』(37.6%)・『まあそう思う』(54.1%)が91.7%で、社会に役立つことをしたいと思うものが大半であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」でも、『そう思う』(27.6%)・『まあそう思う』(49.3%)が76.9%で、社会に役立つことをしたいと『思う』が『思わない』よりも割合が高かった。また、社会に役立つことをしたいと思うでは、「自分のことを好きと思う」が「自分のことを好きと思わない」よりも割合が高かった。

図表Ⅱ-1-13 自己肯定感(自分のことが好きだ)別の社会に役立つことをしたい

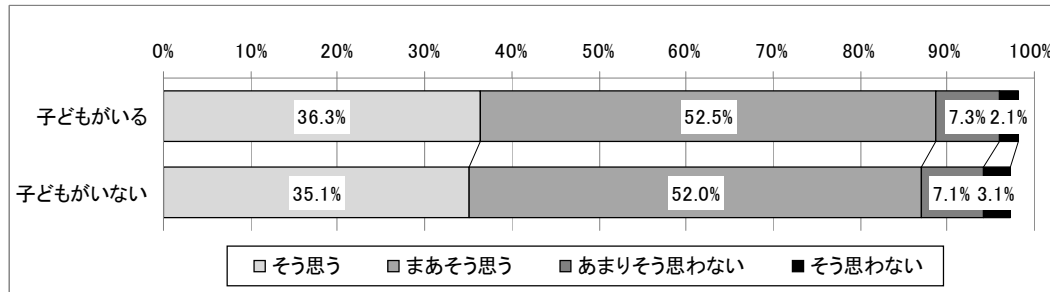


◎子どもの有無別(『おとな調査』のみ)

「社会に役立つことをしたい」かについて尋ねた結果の自己肯定感(自分のことが好きだ)別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-1-14)。

『おとな調査』においては、「子どもがいる」では、『そう思う』(36.3%)・『まあそう思う』(52.5%)が88.8%で、社会に役立つことをしたいと思うが大半であった。さらに、「子どもがいない」でも、『そう思う』(35.1%)・『まあそう思う』(52.0%)が87.1%で、社会に役立つことをしたいと思うが大半であった。また、社会に役立つことをしたいと思うでは、「子どもがいる」・「子どもがいない」にかかわらずほぼ同じ割合であった。

図表Ⅱ-1-14 子どもの有無別の社会に役立つことをしたい



以上から、『小学5年生調査』・『中学2年調査』・『おとな調査』の自己肯定感の強い回答者(「自分のことが好きだ」に『そう思う』・『まあそう思う』と回答した回答者で、これ以降も同じ)は、「自分は人から必要とされている」・「社会に役立つことをしたい」と思い、「自分のことを誰もわかってくれない」と思わないが多く、『16・17歳調査』の自己肯定感の強い回答者は、「自分は人から必要とされている」・「社会に役立つことをしたい」と思い、「自分のことを誰もわかってくれない」・「周りの人とあまり違わないようにしている」と思わないでいるのが多かった。また、自己肯定感の弱い回答者(「自分のことが好きだ」に『あまりそう思わない』・『そう思わない』と回答した回答者で、これ以降も同じ)の特徴は、『小学5年生調査』・『中学2年調査』では、「社会に役立つことをしたい」と思い、「自分は人から必要とされている」・「自分のことを誰もわかってくれない」と思わないでおり、『16・17歳調査』では、「社会に役立つことをしたい」と思い、「自分は人から必要とされている」・「自分のことを誰もわかってくれない」・「周りの人とあまり違わないようにしている」と思わないでおり、『おとな調査』では、「自分は人から必要とされている」・「社会に役立つことをしたい」と思い、「自分のことを誰もわかってくれない」と思わないでいるのが多かった。

よって、自己肯定感の強い回答者の特徴としては、自分は人から必要であると思ひ、自分のことを誰かがわかっていると思うなどというように、自己を肯定的に捉える傾向が強いといえよう。

(2)子どもが自分自身についてどう思っているか(おとな調査(N=870) [問2])

「子どもが、自分(子ども)自身のことについて、どう思っているか」について、「自分のことが好きだ、と知っていると思う」・「自分は人から必要とされている、と知っていると思う」・「自分のことを誰もわかってくれない、と知っていると思う」・「周りの人とあまり違わないようにしている、と知っていると思う」・「社会に役立つことをしたい、と知っていると思う」の5項目について、『そう思う』・『まあそう思う』・『あまりそう思わない』・『そう思わない』の4段階で尋ねた。

ア. 自分のことが好きだ、と知っていると思う

◎調査票別

「自分のことが好きだと思っていると思う」かについて尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-1-15)。

『おとな調査』においては、『そう思う』(33.4%)・『まあそう思う』(47.5%)が80.9%で、自分のことが好きだと思っていると『思う』が『思わない』よりも割合が高かった。

◎自己肯定感(自分のことが好きだ)別

「自分のことが好きだと思っていると思う」かについて尋ねた結果の自己肯定感(自分のことが好きだ)別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-1-15)。

『おとな調査』においては、「自分のことを好きと思う」では、『そう思う』(35.9%)・『まあそう思う』(49.9%)が88.8%で、自分のことが好きだと思っていると『思う』が大半であった。さらに、「自分のこと

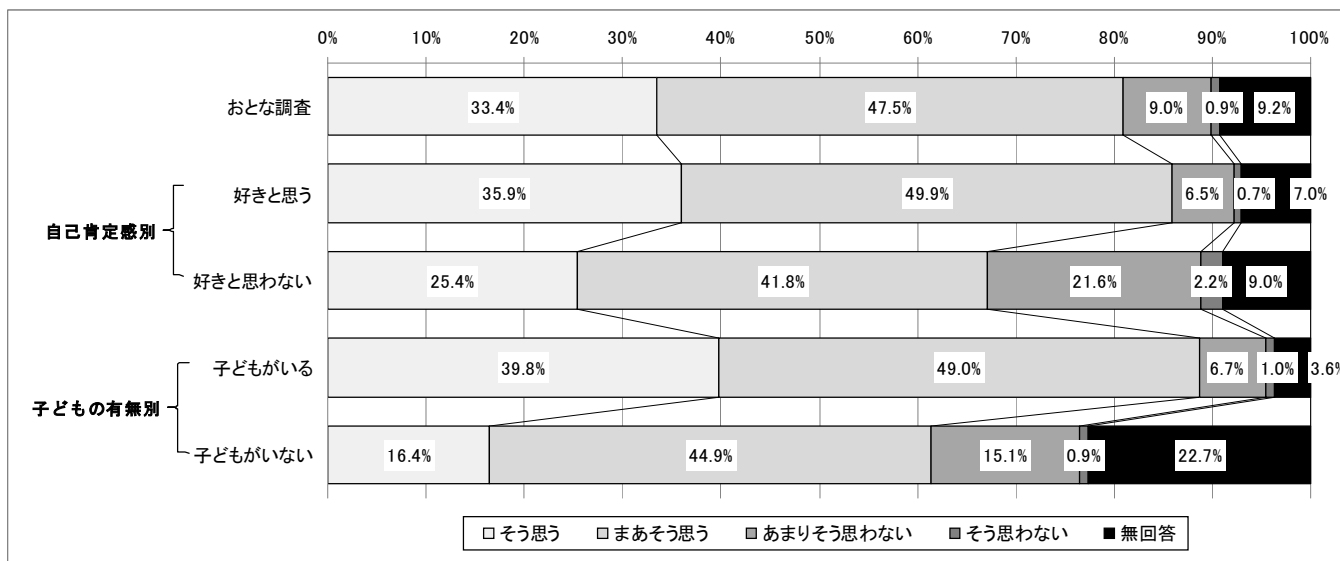
を好きと思わない」でも、『そう思う』(25.4%)・『まあそう思う』(41.8%)が77.2%で、自分のことが好きだと思っていると『思う』が『思わない』よりも割合が高かった。また、自分のことが好きだと思っていると思うでは、「自分のことを好きと思う」が「自分のことを好きと思わない」よりも割合が高かった。

◎子どもの有無別(『おとな調査』のみ)

「自分のことが好きだと思っていると思う」かについて尋ねた結果の子どもの有無別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-1-15)。

『おとな調査』においては、「子どもがいる」では、『そう思う』(39.8%)・『まあそう思う』(49.0%)とが88.8%で、自分のことが好きだと思っていると『思う』が大半であった。さらに、「子どもがいない」でも、『そう思う』(16.4%)・『まあそう思う』(44.9%)が51.3%で、自分のことが好きだと思っていると『思う』が『思わない』よりも割合が高かった。また、自分のことが好きだと思っていると思うでは、「子どもがいる」が「子どもがいない」よりも割合が高かった。なお、「子どもがいない」では『無回答』が22.7%あった。

図表Ⅱ-1-15 調査票別・自己肯定感(自分のことが好きだ)別・子どもの有無別の自分のことが好きだと思っていると思う



イ. 自分は人から必要とされている、と思っていると思う

◎調査票別

「自分は人から必要とされていると思っていると思う」かについて尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-1-16)。

『おとな調査』においては、『そう思う』(25.4%)・『まあそう思う』(48.0%)が73.4%で、自分は人から必要とされていると『思う』が『思わない』よりも割合が高かった。

◎自己肯定感(自分のことが好きだ)別

「自分は人から必要とされていると思っていると思う」かについて尋ねた結果の自己肯定感(自分のことが好きだ)別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-1-16)。

『おとな調査』においては、「自分のことを好きと思う」では、『そう思う』(27.9%)・『そう思わない』(50.1%)が78.0%で、自分は人から必要とされていると『思う』が『思わない』よりも割合が高かった。さらに、「自分のことを好きと思わない」でも、『そう思う』(14.9%)・『そう思わない』(42.5%)が57.4%で、自分は人から必要とされていると『思う』が『思わない』よりも割合が高かった。また、自分は人から必要とされていると『思う』が『思わない』よりも割合が高かった。また、自分は人から必要とされていると『思う』が『思わない』よりも割合が高かった。また、自分は人から必要とされていると『思う』が『思わない』よりも割合が高かった。

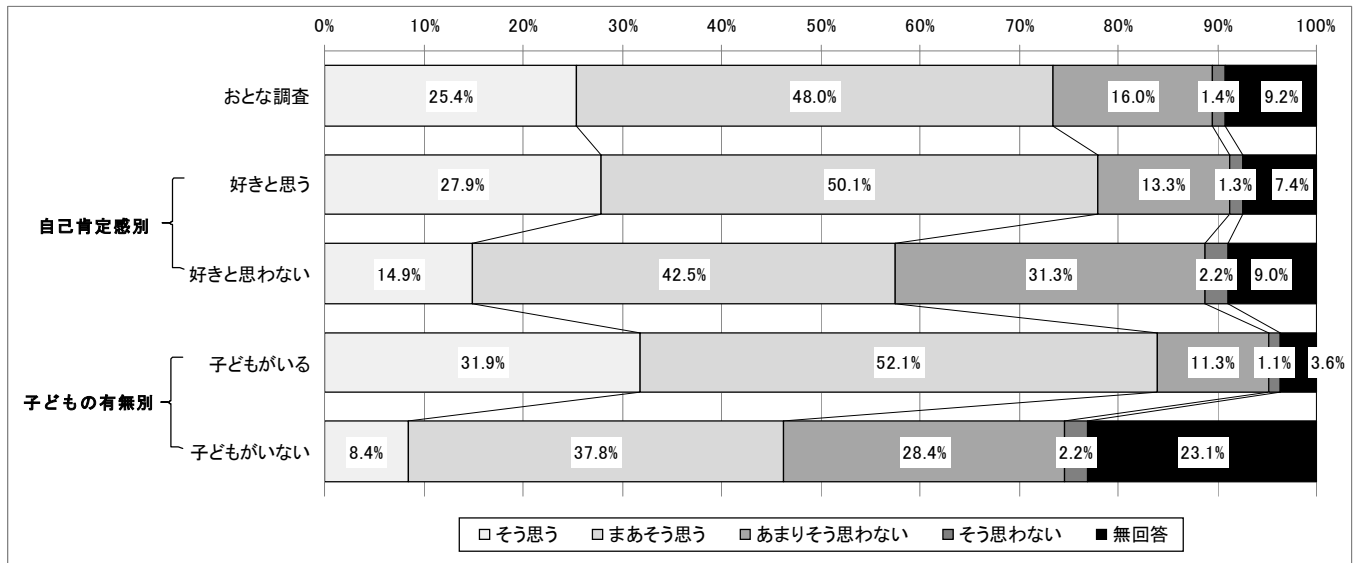
◎子どもの有無別(『おとな調査』のみ)

「自分は人から必要とされていると思っていると思う」かについて尋ねた結果の子どもの有無別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-1-16)。

『おとな調査』においては、「子どもがいる」では、『そう思う』(31.9%)・『まあそう思う』(52.1%)が84.0%で、自分は人から必要とされていると『思う』が大半だった。さらに、「子どもがいな

い』では、『そう思う』(8.4%)・『まあそう思う』(37.8%)が46.2%、『あまりそう思わない』(28.4%)・『そう思わない』(2.2%)が30.6%で、自分は人から必要とされていると思っていると『思う』が『思わない』よりも割合が高かった。また、自分は人から必要とされていると思うでは、「子どもがいる」が「子どもがいない」よりも割合が高かった。なお、「子どもがいない」では『無回答』が23.1%あった。

図表Ⅱ－１－１６ 調査票別・自己肯定感(自分のことが好きだ)別・子どもの有無別の
自分は人から必要とされていると思っていると思う



ウ. 自分を誰もわかってくれない、と思っていると思う

◎調査票別

「自分を誰もわかってくれないと思っていると思う」かについて尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ－１－１７)。

『おとな調査』においては、『あまりそう思わない』(40.5%)・『そう思わない』(32.2%)が72.7%で、自分を誰もわかってくれないと思っていると『思わない』が『思う』よりも割合が高かった。

◎自己肯定感(自分のことが好きだ)別

「自分を誰もわかってくれないと思っていると思う」かについて尋ねた結果の自己肯定感(自分のことが好きだ)別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ－１－１７)。

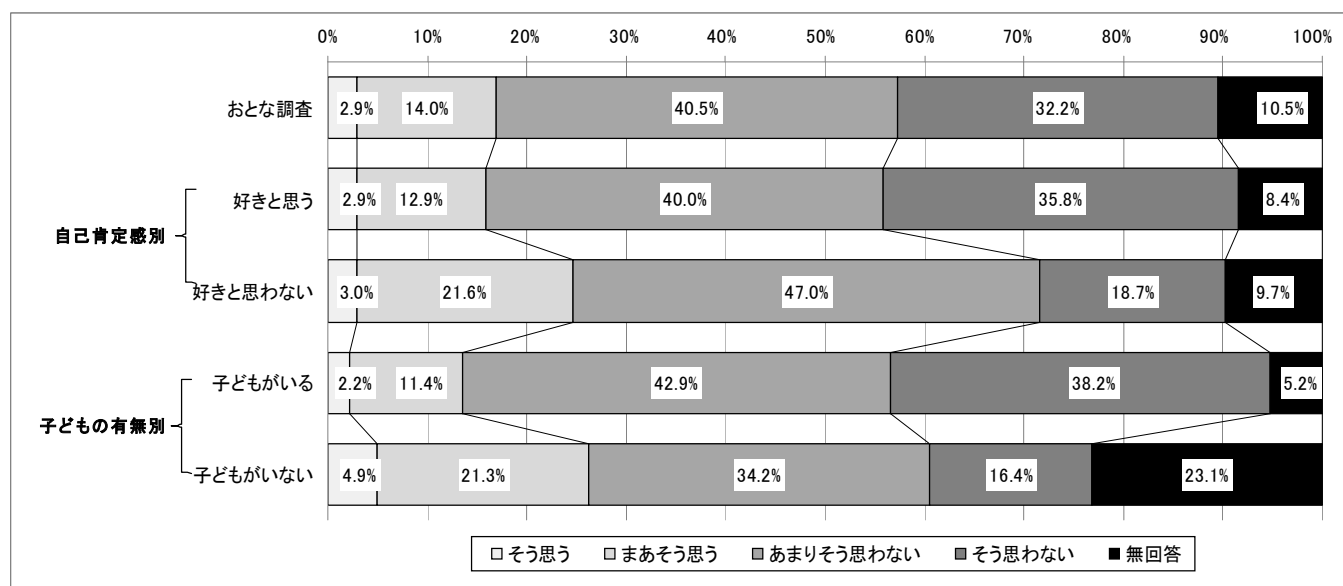
『おとな調査』においては、「自分を好きと思う」では、『あまりそう思わない』(40.0%)・『そう思わない』(35.8%)が75.8%で、自分を誰もわかってくれないと思っていると『思わない』が『思う』よりも割合が高かった。さらに、「自分を好きと思わない」では、『あまりそう思わない』(47.0%)・『そう思わない』(18.7%)が65.7%で、自分を誰もわかってくれないと思っていると『思わない』が『思う』よりも割合が高かった。また、自分を誰もわかってくれないと思わないでは、「自分を好きと思う」が「自分を好きと思わない」よりも割合が高かった。

◎子どもの有無別(『おとな調査』のみ)

「自分を誰もわかってくれないと思っていると思う」かについて尋ねた結果の子どもの有無別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ－１－１７)。

『おとな調査』においては、「子どもがいる」では、『あまりそう思わない』(42.9%)・『そう思わない』(38.2%)が81.1%で、自分を誰もわかってくれないと思っていると『思わない』が大半であった。さらに、「子どもがいない」でも、『あまりそう思わない』(34.2%)・『そう思わない』(16.4%)が50.6%、『そう思う』(4.9%)・『まあそう思う』(21.3%)が26.2%で、自分を誰もわかってくれないと思っていると『思わない』が『思う』よりも割合が高かった。また、自分を誰もわかってくれないと思わないのは、『子どもがいる』が「子どもがいない」よりも割合が高かった。なお、「子どもがいない」では『無回答』が23.1%あった。

図表Ⅱ－１－１７ 調査票別・自己肯定感(自分のことが好きだ)別・子どもの有無別の
自分のことを誰もわかってくれないと思っていると思う



エ. 周りの人とあまり変わらないようにしている、と思っていると思う

◎調査票別

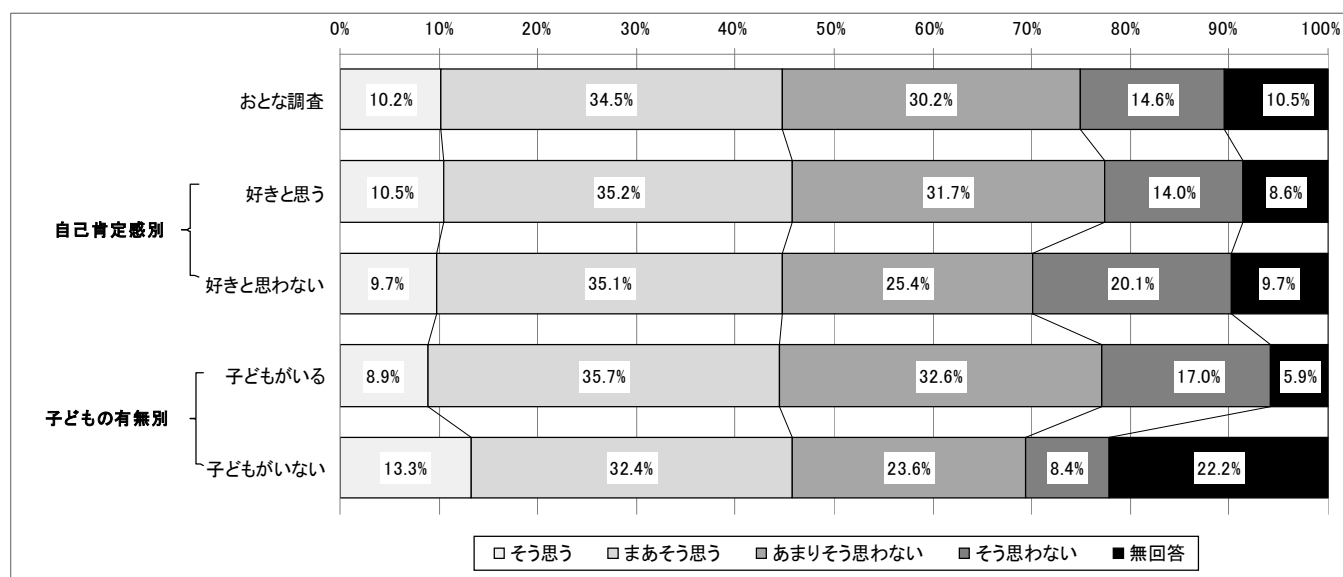
「周りの人とあまり変わらないようにしていると思っていると思う」かについて尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ－１－１８)。

『おとな調査』では、『そう思う』(10.2%)・『まあそう思う』(34.5%)が44.7%、『あまりそう思わない』(30.2%)・『そう思わない』(14.6%)が44.8%で、周りの人とあまり変わらないようにしていると思っていると『思う』・『思わない』がほぼ同じ割合であった。

◎自己肯定感(自分のことが好きだ)別

「周りの人とあまり変わらないようにしていると思っていると思う」かについて尋ねた結果の自己肯定感(自分のことが好きだ)別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ－１－１８)。

図表Ⅱ－１－１８ 調査票別・自己肯定感(自分のことが好きだ)別・子どもの有無別の
周りの人とあまり変わらないようにしていると思っていると思う



『おとな調査』においては、「自分のことを好きと思う」では、『そう思う』(10.5%)・『まあそう思う』(35.2%)が45.7%、『あまりそう思わない』(31.7%)・『そう思わない』(14.0%)が45.7%で、周りの人とあまり変わらないようにしていると思っていると『思う』・『思わない』がほぼ同じ割合であった。さらに、「自分のことを好きと

「思わない」では、『そう思う』(9.7%)・『まあそう思う』(35.1%)が44.8%、『あまりそう思わない』(25.4%)・『そう思わない』(20.1%)が45.5%で、周りの人とあまり違わないようにしていると思っていると『思う』・『思わない』がほぼ同じ割合であった。また、周りの人とあまり違わないようにしていると思うでは、「自分のことを好きと思う」が「自分のことを好きと思わない」よりも割合が高かった。

◎子どもの有無別(『おとな調査』のみ)

「周りの人とあまり違わないようにしていると思っていると思う」かについて尋ねた結果の子どもの有無別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-1-18)。

『おとな調査』においては、「子どもがいる」では、『そう思う』(8.9%)・『まあそう思う』(35.7%)が44.6%、『あまりそう思わない』(32.6%)・『そう思わない』(17.0%)が49.6%で、周りの人とあまり違わないようにしていると思っていると『思う』・『思わない』がほぼ同じ割合であった。さらに、「子どもがいない」でも、『そう思う』(13.3%)・『まあそう思う』(32.4%)が45.7%、『あまりそう思わない』(23.6%)・『そう思わない』(8.4%)が32.0%で、周りの人とあまり違わないようにしていると思っていると『思う』・『思わない』がほぼ同じ割合であった。また、周りの人とあまり違わないようにしていると思わないでは、「子どもがいる」が「子どもがいない」よりも割合が高かった。なお、「子どもがいない」では『無回答』が22.2%あった。

オ. 社会に役立つことをしたい、と思っていると思う

◎調査票別

「社会に役立つことをしたい、と思っていると思う」かについて尋ねた調査票別結果、以下のとおりであった(図表Ⅱ-1-19)。

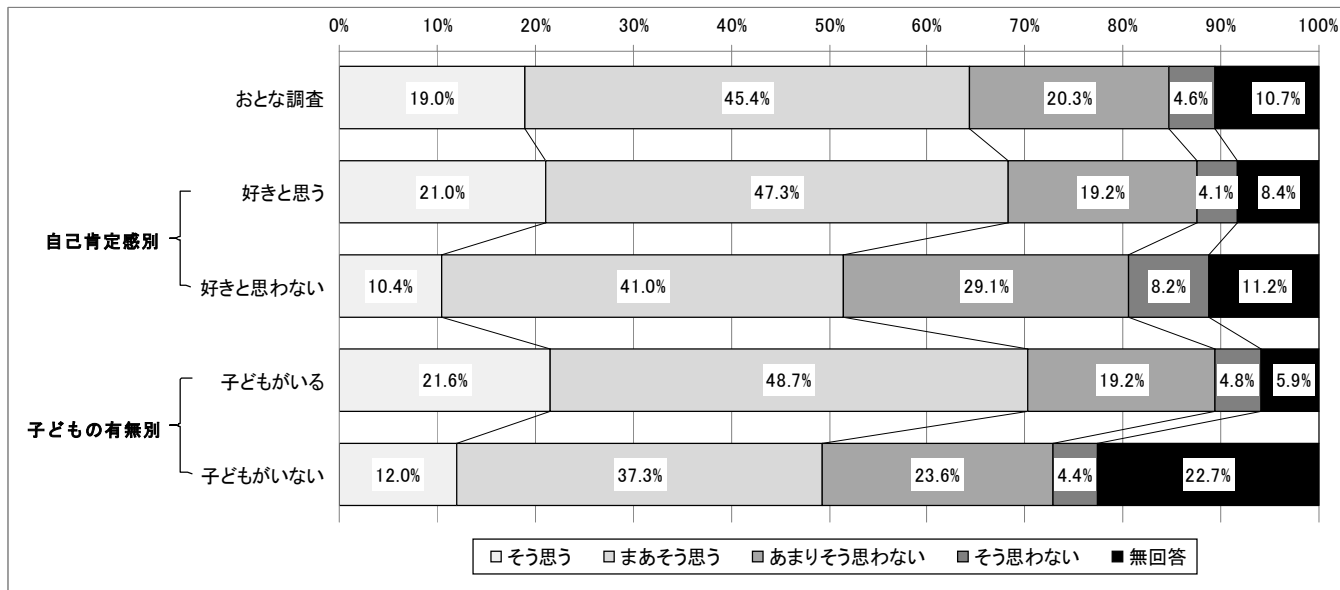
『おとな調査』では、『そう思う』(19.0%)・『まあそう思う』(45.4%)が64.4%で、社会に役立つことをしたいと思っていると『思う』が『思わない』よりも割合が高かった。

◎自己肯定感(自分のことが好きだ)別

「社会に役立つことをしたい、と思っていると思う」かについて尋ねた自己肯定感(自分のことが好きだ)別結果、以下のとおりであった(図表Ⅱ-1-19)。

『おとな調査』においては、「自分のことを好きと思う」では、『そう思う』(21.0%)・『そう思わない』(47.3%)が68.3%で、自分のことが好きだと思っていると『思う』が『思わない』よりも割合が高かった。さらに、「自分のことを好きと思わない」でも、『そう思う』(10.4%)・『そう思わない』(41.0%)が51.4%で、社会に役立つことをしたいと思っていると『思う』が『思わない』よりも割合が高かった。また、社会に役立つことをしたいと思っていると思うでは、「自分のことを好きと思う」が「自分のことを好きと思わない」よりも割合が高かった。

図表Ⅱ-1-19 調査票別・自己肯定感(自分のことが好きだ)別・子どもの有無別の社会に役立つことをしたいと思っていると思う



◎子どもの有無別(『おとな調査』のみ)

「社会に役立つことをしたい、と思っていると思う」かについて尋ねた子どもの有無別結果、以下のとおりであった(図表Ⅱ-1-19)。

『おとな調査』においては、「子どもがいる」では、『そう思う』(21.6%)・『まあそう思う』(48.7%)が70.3%、『あまりそう思わない』(19.2%)・『そう思わない』(4.8%)が24.0%で、社会に役立つことをしたいと思っていると『思う』が『思わない』よりも割合が高かった。さらに、「子どもがいない」では、『そう思う』(12.0%)・『まあそう思う』(37.3%)が49.3%、『あまりそう思わない』(23.6%)・『そう思わない』(4.4%)とが28.1%で、社会に役立つことをしたいと思っていると『思う』が『思わない』よりも割合が高かった。また、社会に役立つことをしたいと思っていると思うのは、『子どもがいる』が『子どもがいない』よりも割合が高かった。なお、「子どもがいない」では『無回答』が22.7%あった。

以上から、『おとな調査』の自己肯定感の強い回答者は、「自分のことが好きだ」・「自分は人から必要とされている」・「社会に役立つことをしたい」と思い、「自分のことを誰もわかってくれない」と思わないが多く、自己肯定感の弱い回答者も同じ傾向があった。

よって、自己肯定感の強い回答者の特徴としては、自分は人から必要であると思い、自分のことを誰かがわかっていると思うなどという自己を肯定的捉える傾向がみられ、自己肯定感の強い回答者のほうがその傾向が強いといえよう。

2. 子どもが、楽しく夢中になれると感じるとき

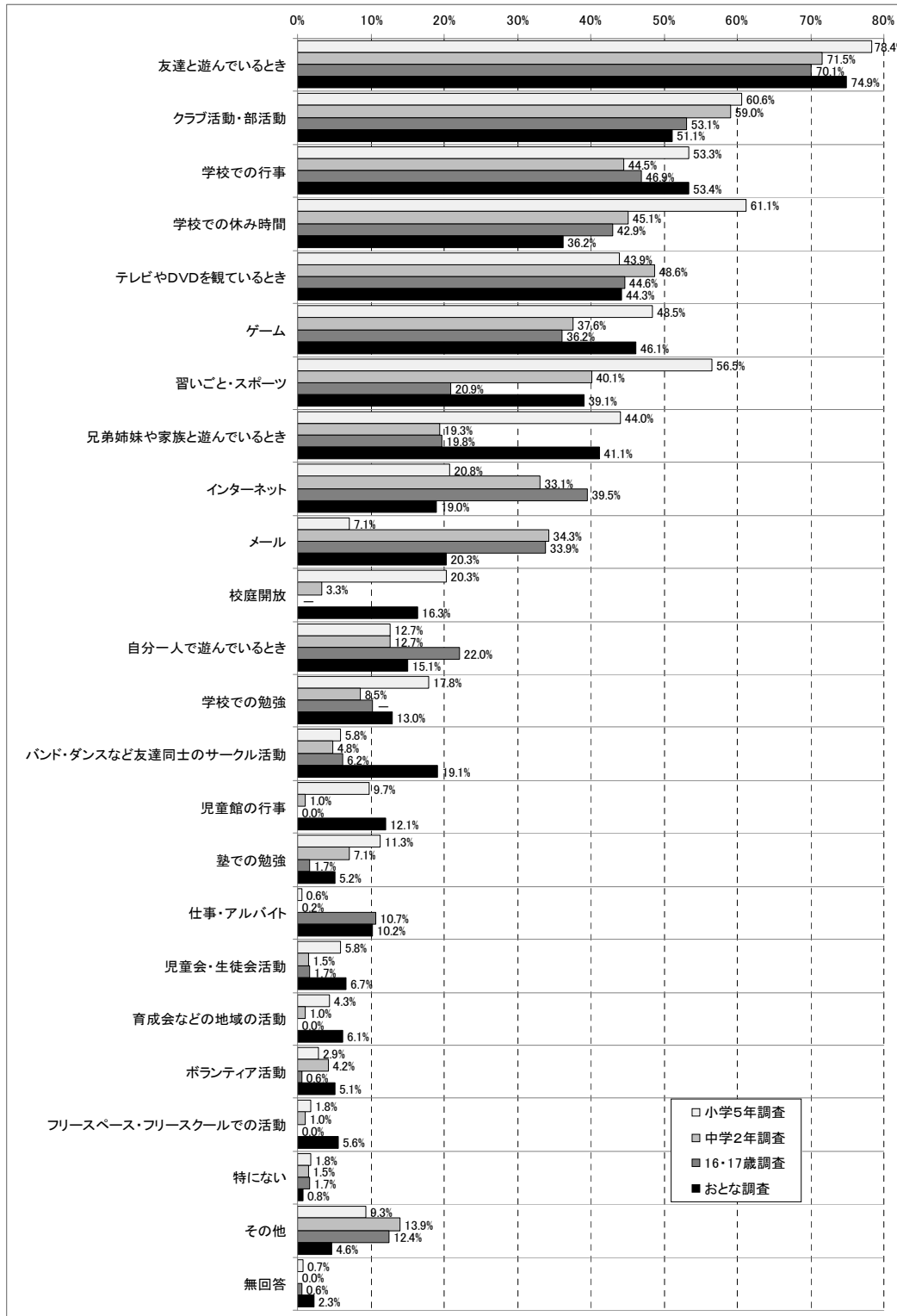
(小学5年調査(N=718)・中学2年調査(N=481)・16・17歳調査(N=177) [問2] ; おとな調査(N=870) [問3])

「あなたが楽しく夢中になれると感じるとき」(小学5年調査・中学2年調査・16・17歳調査)、「子どもが楽しく夢中になれると感じるとき」(おとな調査)について複数回答で尋ねた。なお、各調査の項目数は、『小学5年調査』では23項目、『中学2年調査』では23項目、『16・17歳調査』では22項目(欠如項目:『校庭開放』)、『おとな調査』では23項目である。

◎調査票別

子どもが、「楽しく夢中になれると感じるとき」について尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-2-1)。

図表Ⅱ-2-1 調査票別の楽しく夢中になれると感じるとき



『小学5年調査』における「楽しく夢中になれるとき」の上位5位は、『友だちと遊んでいるとき』『学校での休み時間』『クラブ活動・部活動』『習いごと・スポーツ』『学校での行事』の順であり、『特にない』が1.8%であった。

『中学2年調査』における「楽しく夢中になれるとき」の上位5位は、『友だちと遊んでいるとき』『クラブ活動・部活動』『テレビやDVDを観ているとき』『学校での休み時間』『学校での行事』の順であり、『特にない』が1.5%であった。

『16・17歳調査』における「楽しく夢中になれる」の上位5位は、『友だちと遊んでいるとき』『クラブ活動・部活動』『テレビやDVDを観ているとき』『学校での行事』『学校での休み時間』の順であり、『特にない』が1.7%であった。なお、『育成会などの地域の活動』『フリースペース・フリースクールでの活動』『児童館の行事』は、0.0%であった。

『おとな調査』における「楽しく夢中になれる」の上位5位は、『友だちと遊んでいるとき』『学校での行事』『クラブ活動・部活動』『ゲーム』『テレビやDVDを観ているとき』の順であり、『特にない』が0.8%であった。

◎自己肯定感(自分のことが好きだ)別

子どもが、「楽しく夢中になれると感じるとき」について尋ねた結果の自己肯定感(自分のことが好きだ)別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-2-2)。

『小学5年調査』における「楽しく夢中になれる」の上位5位は、「自分のことを好きと思う」では、『友だちと遊んでいるとき』『学校での休み時間』『クラブ活動・部活動』『習いごと・スポーツ』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『友だちと遊んでいるとき』『クラブ活動・部活動』『学校での休み時間』『習いごと・スポーツ』『学校での行事』の順であった。また、『兄弟姉妹や家族と遊んでいるとき』(思う:55.9%>思わない:37.6%)では、「自分のことを好きと思う」が「自分のことを好きと思わない」よりも割合が高かった。なお、「自分のことを好きと思わない」では『仕事・アルバイト』が、0.0%であった。

『中学2年調査』における「楽しく夢中になれる」の上位5位は、「自分のことを好きと思う」では、『友だちと遊んでいるとき』『クラブ活動・部活動』『学校での行事』『学校での休み時間』『習いごと・スポーツ』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『友だちと遊んでいるとき』『クラブ活動・部活動』『テレビやDVDを観ているとき』『学校での休み時間』『学校での行事』の順であった。また、『学校での行事』(思う:50.9%>思わない:40.9%)・『学校での勉強』(思う:15.0%>思わない:5.0%)では、「自分のことを好きと思う」が「自分のことを好きと思わない」よりも割合が高かった。逆に、『テレビやDVDを観ているとき』(思わない:53.5%>思う:41.9%)では、「自分のことを好きと思わない」が「自分のことを好きと思う」よりも割合が高かった。なお、「自分のことを好きと思う」では『育成会などの地域の活動』『仕事・アルバイト』『フリースペース・フリースクールでの活動』が、0.0%であった。

図表Ⅱ-2-2 自己肯定感(自分のことが好きだ)別の楽しく夢中になれると感じるとき

	小学5年生調査		中学2年調査		16・17歳調査		おとな調査	
	好きと思う	好きと思わない	好きと思う	好きと思わない	好きと思う	好きと思わない	好きと思う	好きと思わない
友だちと遊んでいるとき	①79.0%	①78.5%	①73.1%	①70.8%	①65.1%	①75.6%	①75.9%	①77.6%
クラブ活動・部活動	③61.4%	②60.8%	②62.3%	②57.1%	②60.5%	③46.7%	③52.5%	②48.5%
学校での行事	⑤55.9%	⑤48.9%	③50.9%	⑤40.9%	③51.2%	⑥43.3%	②55.1%	②48.5%
学校での休み時間	②62.9%	③59.1%	④48.5%	④43.5%	④40.7%	④45.6%	⑧36.9%	⑦37.3%
テレビやDVDを観ているとき	⑧44.7%	⑦43.5%	⑥41.9%	③53.5%	⑤38.4%	< ②51.1%	⑤45.0%	⑤45.5%
ゲーム	⑥49.4%	⑥46.8%	⑦38.9%	⑦37.5%	⑥37.2%	⑧35.6%	④47.1%	④46.3%
習いごと・スポーツ	④59.3%	④52.3%	⑤43.7%	⑥38.2%	⑩18.6%	⑩23.3%	⑦40.8%	⑧32.8%
兄弟姉妹や家族と遊んでいるとき	⑦48.1%	> ⑧37.6%	⑩21.0%	⑩17.9%	⑪17.4%	⑪22.2%	⑥42.1%	⑥42.5%
インターネット	⑪19.5%	⑨23.2%	⑨32.3%	⑨33.6%	⑦33.7%	< ④45.6%	⑪19.2%	⑨20.1%
メール	4.9%	⑫11.8%	⑧33.5%	⑧35.2%	⑧27.9%	< ⑦40.0%	⑨21.2%	⑪18.7%
校庭開放	⑩21.0%	⑩19.4%	4.8%	2.3%	—	—	⑬16.0%	⑩19.4%
自分一人で遊んでいるとき	⑬12.7%	⑪13.1%	⑬10.8%	⑪14.3%	⑨19.8%	⑨24.4%	⑫16.5%	9.7%
学校での勉強	⑨21.2%	⑬11.4%	⑪15.0%	> 5.0%	⑫15.1%	5.6%	⑭13.5%	⑬11.9%
バンド・ダンスなど友だち同士のサークル活動	4.7%	8.4%	3.6%	5.3%	3.5%	8.9%	⑩19.9%	⑫17.2%
児童館の行事	9.5%	⑮10.5%	0.6%	1.0%	0.0%	0.0%	⑮12.8%	9.7%
塾での勉強	⑫13.1%	8.0%	9.0%	6.0%	2.3%	1.1%	5.6%	2.2%
児童会・生徒会活動	5.9%	5.9%	1.2%	1.7%	2.3%	1.1%	7.2%	4.5%
育成会などの地域の活動	4.7%	3.8%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	5.8%	8.2%
仕事・アルバイト	0.6%	0.0%	0.0%	0.3%	8.1%	⑬13.3%	⑯10.8%	8.2%
ボランティア活動	2.8%	3.4%	4.8%	3.7%	1.2%	0.0%	5.2%	5.2%
フリースペース・フリースクールでの活動	1.7%	1.7%	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%	5.8%	6.0%
特にない	1.5%	2.5%	0.6%	2.0%	0.0%	3.3%	0.6%	1.5%
その他	8.1%	⑬11.4%	⑫13.8%	⑪14.3%	9.3%	⑫15.6%	5.3%	1.5%
総数	472	237	167	301	86	90	713	134

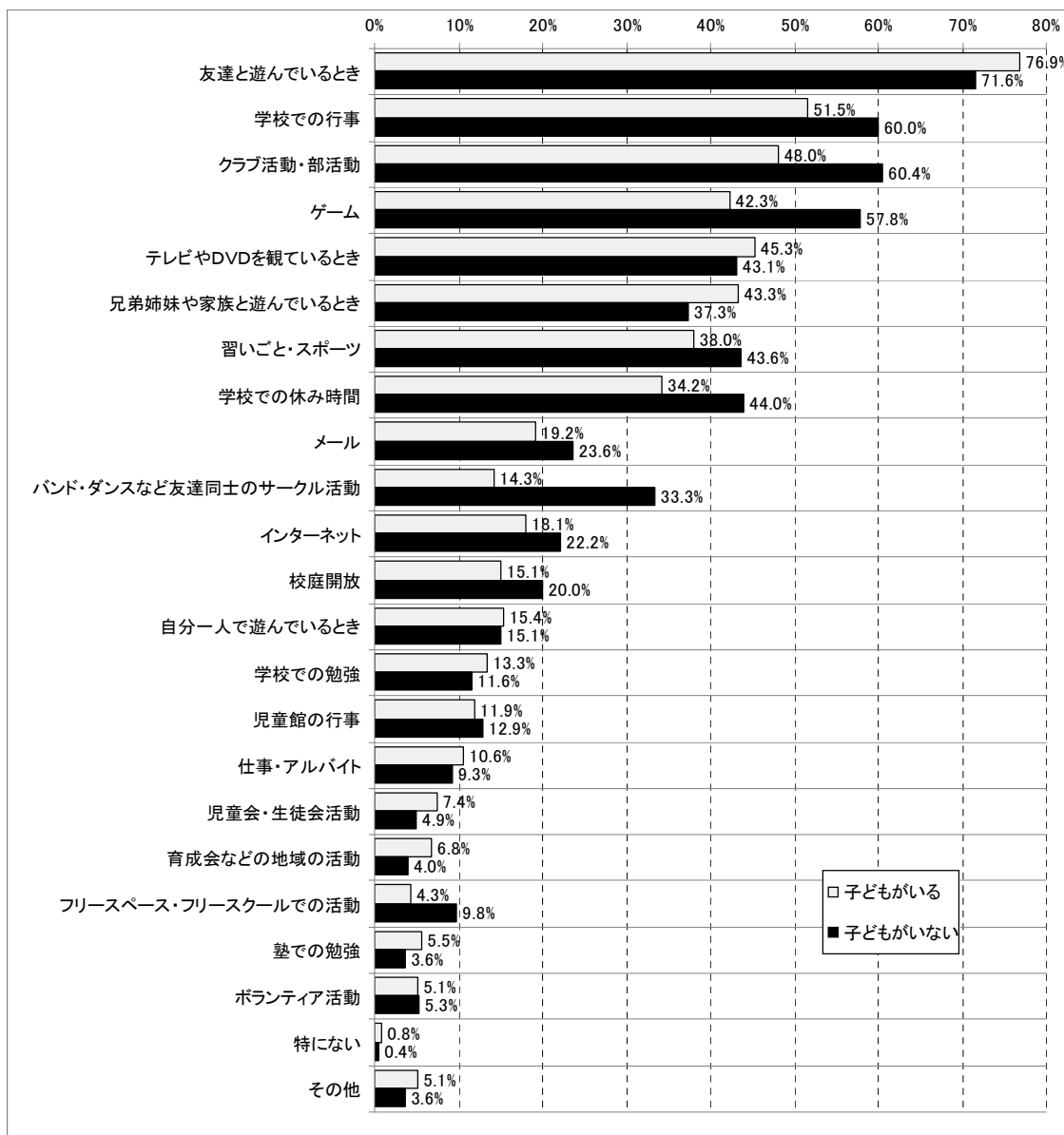
『16・17歳調査』における「楽しく夢中になれる」の上位5位は、「自分のことを好きと思う」では、『友だちと遊んでいるとき』・『クラブ活動・部活動』・『学校での行事』・『学校での休み時間』・『テレビやDVDを観ているとき』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『友だちと遊んでいるとき』・『テレビやDVDを観ているとき』・『クラブ活動・部活動』・『学校での休み時間』・『インターネット』の順であった。また、『クラブ活動・部活動』（思う:60.5%>思わない:46.7%）では、「自分のことを好きと思う」が「自分のことを好きと思わない」よりも割合が高かった。逆に、『テレビやDVDを観ているとき』（思う:51.1%>思わない:38.4%）・『インターネット』（思う:45.6%>思わない:33.7%）・『メール』（思う:40.0%>思わない:27.9%）では、「自分のことを好きと思わない」が「自分のことを好きと思う」よりも割合が高かった。なお、「自分のことを好きと思う」では『特にない』が、「自分のことを好きと思わない」では『ボランティア活動』が、「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」では『児童館の行事』・『育成会などの地域の活動』・『フリースペース・フリースクールでの活動』が、0.0%であった。

『おとな調査』における「楽しく夢中になれる」の上位5位は、「自分のことを好きと思う」では、『友だちと遊んでいるとき』・『学校での行事』・『クラブ活動・部活動』・『ゲーム』・『テレビやDVDを観ているとき』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『友だちと遊んでいるとき』・『学校での行事』・『クラブ活動・部活動』・『ゲーム』・『テレビやDVDを観ているとき』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とがほぼ同じ割合であった。

◎子どもの有無別（『おとな調査』のみ）

子どもが、「楽しく夢中になれると感じるとき」について尋ねた結果の自己肯定感（自分のことが好きだ）別は、以下のとおりであった（図表Ⅱ－２－３）。

図表Ⅱ－２－３ 子どもの有無別の楽しく夢中になれると感じるとき



『おとな調査』における「楽しく夢中になれる」の上位5位は、「子どもがいる」では、『友だちと遊んでいるとき』・『学校での行事』・『クラブ活動・部活動』・『ゲーム』・『テレビやDVDを観ているとき』の順であった。さらに、「子どもがいる」では、『友だちと遊んでいるとき』・『学校での行事』・『クラブ活動・部活動』・『ゲーム』・『テレビやDVDを観ているとき』の順であった。また、『クラブ活動・部活動』（いない:60.4%>いる:48.0%）・『ゲーム』（いない:57.8%>いる:42.3%）・『バンド・ダンスなど友だち同士のサークル活動』（いない:33.3%>いる:14.3%）では、「子どもがいない」が「子どもがいる」よりも割合が高かった。

以上から、自己肯定感の強い回答者は、『小学5年調査』では、「友だちと遊んでいるとき」、「学校での休み時間」、「クラブ活動・部活動」、「学校での行事」、「習いごと・スポーツ」などに楽しく夢中になるものが多く、自己肯定感の弱い回答者もほぼ同様であった。『中学2年調査』の自己肯定感の強い回答者は、「友だちと遊んでいるとき」、「クラブ活動・部活動」、「学校での行事」、「学校での休み時間」、「習いごと・スポーツ」などに楽しく夢中になるものが多く、自己肯定感の弱い回答者では「テレビやDVDを観ているとき」が多く、それ以外は自己肯定感の強い回答者とほぼ同様な傾向であった。『16・17歳調査』では、「友だちと遊んでいるとき」、「クラブ活動・部活動」、「学校での行事」、「学校での休み時間」などの他に「テレビやDVDを観ているとき」などに楽しく夢中になるものが多く、自己肯定感の弱い回答者では「インターネット」が多く、それ以外は自己肯定感の強い回答者とほぼ同様な傾向であった。『おとな調査』では、「友だちと遊んでいるとき」、「学校での行事」、「クラブ活動・部活動」、「ゲーム」、「テレビやDVDを観ているとき」などに楽しく夢中になる傾向がみられ、自己肯定感の弱い回答者もほぼ同様な傾向であった。

よって、自己肯定感の強い回答者の特徴としては、友人と遊ぶことや学校での勉強以外のことなどに楽しく夢中になれると感じるようである。さらに、年齢を経るに従って、テレビやDVDの勧賞、ゲームやインターネットが楽しく夢中になれると感じているといえよう。

3. 子どもが、疲れること・不安に思うこと

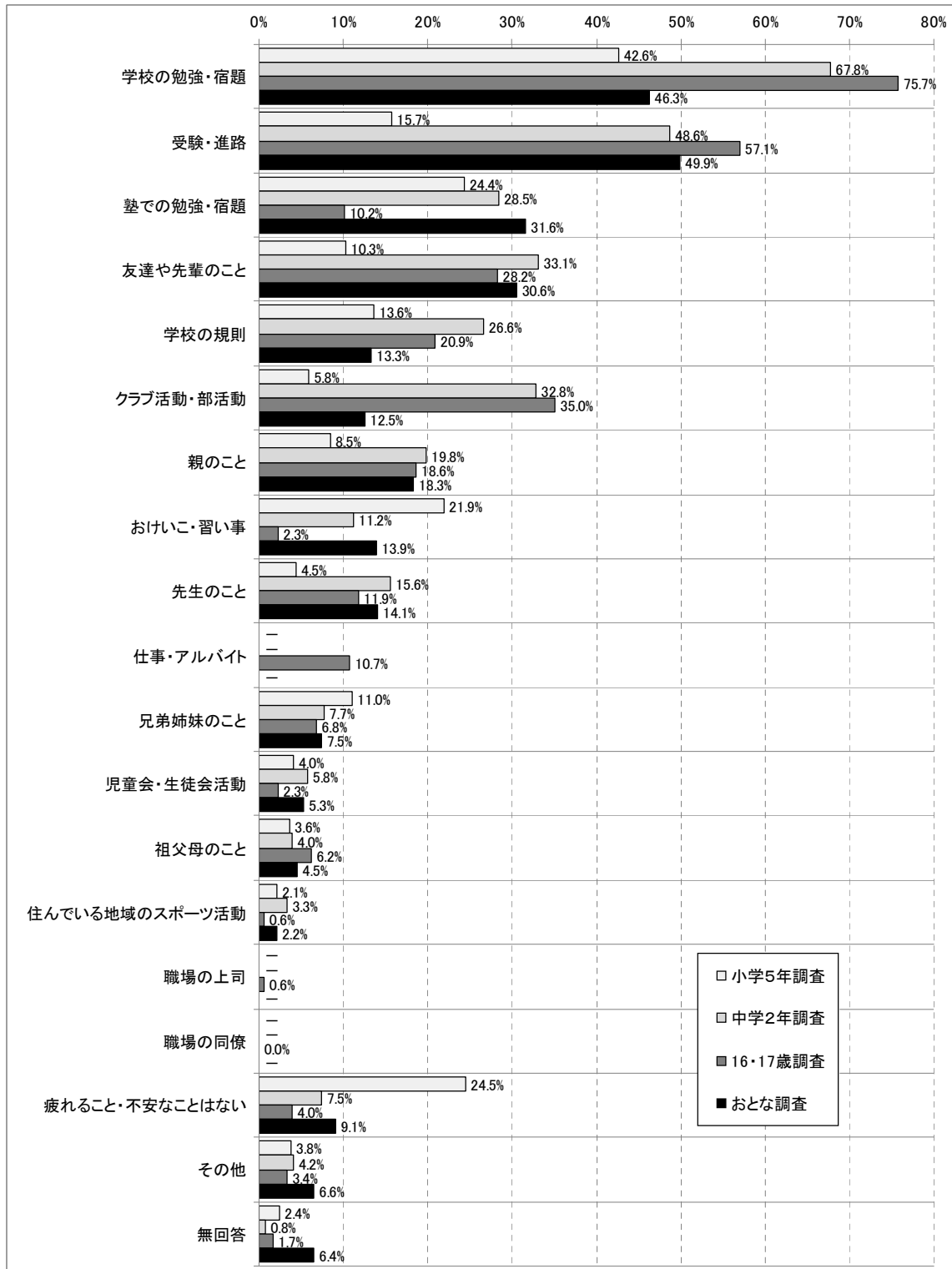
(小学5年調査(N=718)・中学2年調査(N=481)・16・17歳調査(N=177) [問3] ; おとな調査(N=870) [問4])

「あなたが、疲れること、不安に思うこと」(小学5年調査・中学2年調査・16・17歳調査)、「子どもが疲れること、不安に思うこと」(おとな調査)について複数回答で尋ねた。なお、各調査の項目数は、『小学5年調査』では15項目(欠如項目:『仕事・アルバイト』・『職場の同僚』・『職場の上司』)、『中学2年調査』では15項目(欠如項目:『仕事・アルバイト』・『職場の同僚』・『職場の上司』)、『16・17歳調査』では18項目、『おとな調査』では15項目(欠如項目:『仕事・アルバイト』・『職場の同僚』・『職場の上司』)である。

◎調査票別

子どもが、「疲れること・不安に思うこと」について尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-3-1)。

図表Ⅱ-3-1 調査票別の疲れること・不安に思うこと



『小学5年調査』における「疲れること・不安に思うこと」の上位5位は、『学校の勉強・宿題』・『受験・進路』・『塾での勉強・宿題』・『おけいこ・習い事』・『疲れること・不安なことではない』の順であった。

『中学2年調査』における「疲れること・不安に思うこと」の上位5位は、『学校の勉強・宿題』・『受験・進路』・『友だちや先輩のこと』・『クラブ活動・部活動』・『塾での勉強・宿題』の順であり、『疲れること・不安なことではない』が7.5%であった。

『16・17歳調査』における「疲れること・不安に思うこと」の上位5位は、『学校の勉強・宿題』・『受験・進路』・『クラブ活動・部活動』・『友だちや先輩のこと』・『学校の規則』の順であり、『疲れること・不安なことではない』が4.0%であった。なお、『職場の同僚』が、0.0%であった。

『おとな調査』における「疲れること・不安に思うこと」の上位5位は、『受験・進路』・『学校の勉強・宿題』・『塾での勉強・宿題』・『友だちや先輩のこと』・『親のこと』の順であり、『疲れること・不安なことではない』が9.1%であった。

◎自己肯定感(自分のことが好きだ)別

子どもが、「疲れること・不安に思うこと」について尋ねた結果の自己肯定感(自分のことが好きだ)別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-3-2)。

『小学5年調査』における「疲れること・不安に思うこと」の上位5位は、「自分のことを好きと思う」では、『学校の勉強・宿題』・『疲れること・不安なことではない』・『塾での勉強・宿題』・『おけいこ・習い事』・『受験・進路』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『学校の勉強・宿題』・『塾での勉強・宿題』・『おけいこ・習い事』・『学校の規則』・『受験・進路』の順であった。また、『学校の勉強・宿題』(思う:51.9%>思わない:37.5%)では、「自分のことを好きと思う」が「自分のことを好きと思わない」より割合が高かった。逆に、『疲れること・不安なことではない』(思わない:29.4%>思う:15.2%)では、「自分のことを好きと思わない」が「自分のことを好きと思う」よりも割合が高かった。

『中学2年調査』における「疲れること・不安に思うこと」の上位5位は、「自分のことを好きと思う」では、『学校の勉強・宿題』・『受験・進路』・『クラブ活動・部活動』・『塾での勉強・宿題』・『友だちや先輩のこと』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『学校の勉強・宿題』・『受験・進路』・『友だちや先輩のこと』・『クラブ活動・部活動』・『塾での勉強・宿題』の順であった。また、『友だちや先輩のこと』(思う:39.5%>思わない:23.4%)・『学校の規則』(思う:30.6%>思わない:19.2%)・『親のこと』(思う:25.9%>思わない:9.6%)では、「自分のことを好きと思う」が「自分のことを好きと思わない」よりも割合が高かった。

図表Ⅱ-3-2 自己肯定感(自分のことが好きだ)別の疲れること・不安に思うこと

	小学5年生調査		中学2年調査		16・17歳調査		おとな調査	
	好きと思う	好きと思わない	好きと思う	好きと思わない	好きと思う	好きと思わない	好きと思う	好きと思わない
学校の勉強・宿題	①37.5%	< ①51.9%	①62.9%	①71.4%	①73.3%	①78.9%	②47.1%	①47.8%
受験・進路	⑤15.3%	⑤16.9%	②43.7%	②51.8%	②57.0%	②57.8%	①51.8%	②45.5%
塾での勉強・宿題	③22.2%	②28.7%	④24.6%	⑤31.6%	7.0%	13.3%	③31.6%	③33.6%
友だちや先輩のこと	7.4%	16.5%	⑤23.4%	< ③39.5%	④22.1%	< ④34.4%	③31.6%	④30.6%
学校の規則	11.7%	④18.1%	19.2%	< ⑥30.6%	⑤19.8%	⑤22.2%	13.7%	13.4%
クラブ活動・部活動	6.8%	4.2%	③29.9%	④34.2%	③32.6%	③37.8%	12.6%	14.2%
親のこと	6.4%	12.7%	9.6%	< ⑦25.9%	17.4%	⑥20.0%	⑤18.1%	⑤21.6%
おけいこ・習い事	④19.7%	③25.7%	7.2%	14.0%	1.2%	3.3%	14.6%	11.9%
疲れること・不安なことではない	②29.4%	> 15.2%	10.2%	6.0%	7.0%	1.1%	8.7%	11.9%
先生のこと	4.2%	5.1%	10.8%	18.9%	14.0%	10.0%	14.6%	14.2%
仕事・アルバイト	—	—	—	—	7.0%	14.4%	—	—
兄弟姉妹のこと	9.3%	13.9%	6.0%	9.0%	4.7%	8.9%	7.6%	8.2%
児童会・生徒会活動	3.8%	4.6%	5.4%	6.3%	2.3%	2.2%	5.5%	5.2%
祖父母のこと	3.0%	5.1%	5.4%	3.3%	7.0%	5.6%	4.5%	4.5%
住んでいる地域のスポーツ活動	2.3%	1.7%	3.0%	3.7%	1.2%	0.0%	2.4%	1.5%
職場の上司	—	—	—	—	0.0%	1.1%	—	—
職場の同僚	—	—	—	—	0.0%	0.0%	—	—
その他	4.0%	3.4%	6.6%	3.0%	4.7%	2.2%	6.9%	6.0%
総数	472	237	167	301	86	90	713	134

『16・17歳調査』における「疲れること・不安に思うこと」の上位5位は、「自分のことを好きと思う」では、『学校の勉強・宿題』・『受験・進路』・『クラブ活動・部活動』・『友だちや先輩のこと』・『学校の規則』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『学校の勉強・宿題』・『受験・進路』・『クラブ活動・

部活動』・『友だちや先輩のこと』・『学校の規則』の順であった。また、『友だちや先輩のこと』（思わない:34.4%>思う:22.1%）では、「自分のことを好きと思わない」が「自分のことを好きと思う」よりも割合が高かった。なお、「自分のことを好きと思う」では『職場の上司』が、「自分のことを好きと思わない」では『住んでいる地域のスポーツ活動』が、「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」では『職場の同僚』が、0.0%であった。

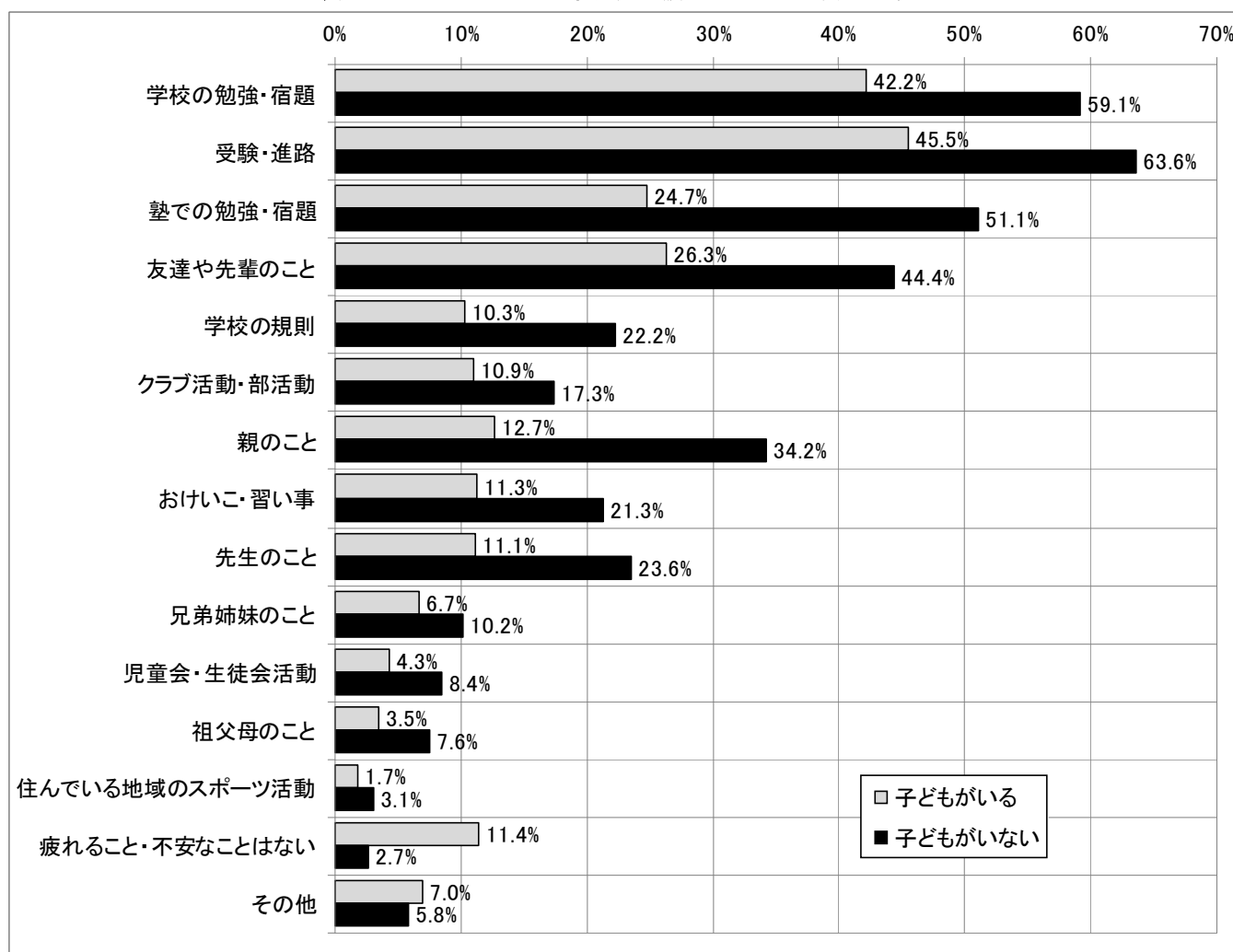
『おとな調査』における「疲れること・不安に思うこと」の上位5位は、「自分のことを好きと思う」では、『受験・進路』・『学校の勉強・宿題』・『塾での勉強・宿題』・『友だちや先輩のこと』・『親のこと』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『学校の勉強・宿題』・『受験・進路』・『塾での勉強・宿題』・『友だちや先輩のこと』・『親のこと』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とがほぼ同じ割合であった。

◎子どもの有無別（『おとな調査』のみ）

子どもが、「疲れること・不安に思うこと」について尋ねた結果の子どもの有無別は、以下のとおりであった（図表Ⅱ-3-3）。

『おとな調査』における「疲れること・不安に思うこと」の上位5位は、「子どもがいる」では、『受験・進路』・『学校の勉強・宿題』・『友だちや先輩のこと』・『塾での勉強・宿題』・『親のこと』の順であった。さらに、「子どもがいない」では、『受験・進路』・『学校の勉強・宿題』・『塾での勉強・宿題』・『友だちや先輩のこと』・『親のこと』の順であった。また、『受験・進路』（いない:63.6%>いる:45.5%）・『学校の勉強・宿題』（いない:59.1%>いる:42.2%）・『塾での勉強・宿題』（いない:51.1%>いる:24.7%）・『友だちや先輩のこと』（いない:44.4%>いる:26.3%）・『親のこと』（いない:34.2%>いる:12.7%）・『先生のこと』（いない:23.6%>いる:11.1%）・『学校の規則』（いない:22.2%>いる:10.3%）・『おけいこ・習い事』（いない:21.3%>いる:11.3%）は、「子どもがいない」が「子どもがいる」よりも割合が高かった。

図表Ⅱ-3-3 子どもの有無別の疲れること・不安に思うこと



以上から、自己肯定感の強い回答者は、『小学5年調査』では、「学校の勉強・宿題」・「受験・進路」など学校での勉強関係及び塾や習いごとなどに疲れること・不安に思う回答者が多く、その反面、「疲れること・不安なことはない」回答者も多かった。自己肯定感が弱い回答者は、学校での勉強関係、及び塾や習いごとなどが疲れることや不安に思うものが多かった。『中学2年調査』・『16・17歳調査』でも、学校での勉強関係、友人・先輩関係などに疲れること・不安に思うものが多いが、『中学2年調査』では塾での勉強・宿題、『16・17歳調査』では学校の規則が疲れることや不安に思うものが多く、自己肯定感が弱い回答者は、自己肯定感が強う回答者と同様な傾向であった。『おとな調査』では、学校での勉強関係や友人・先輩関係だけではなく、親のことが疲れることや不安に思う回答者が多く、自己肯定感が弱い回答者は、自己肯定感が強う回答者と同様な傾向であった。

よって、自己肯定感の強い回答者の特徴としては、学校での勉強・宿題など学校関係のことや塾・習いごとなどに疲れや不安を感じ、年齢を経るに従って、友人・先輩関係、学校の規則などに対して疲れや不安を感じる傾向がみうけられるといえよう。

4. 子どもが、ホッとできるとき

(小学5年調査(N=718)・中学2年調査(N=481)・16・17歳調査(N=177) [問4] ; おとな調査(N=870) [問5])

「あなたがホッとできるとき」(小学5年調査・中学2年調査・16・17歳調査)、「子どもがホッとできるとき」(おとな調査)について複数回答で尋ねた。なお、各調査の項目数は、『小学5年調査』では28項目(欠如項目:『職場にいるとき』)、『中学2年調査』では28項目(欠如項目:『職場にいるとき』)、『16・17歳調査』では28項目(欠如項目:『学童クラブにいるとき』)、『おとな調査』では29項目である。

◎調査票別

子どもが、「ホッとできるとき」について尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-4-1・図表Ⅱ-4-2)。

『小学5年調査』における「ホッとできるとき」の上位5位は、『友だちと遊んだりしているとき』・『寝ているとき』・『家族と遊んだり話したりしているとき』・『お風呂に入っているとき』・『家族と出かけるとき』の順であった。さらに、『何もしないでいるとき』が17.0%、『特にない』が1.3%であった。

『中学2年調査』における「ホッとできるとき」の上位5位は、『寝ているとき』・『友だちと遊んだりしているとき』・『自分の部屋にいるとき』・『お風呂に入っているとき』・『一人になってぼーっとしているとき』の順であった。さらに、『何もしないでいるとき』が21.8%、『特にない』が1.5%であった。

『16・17歳調査』における「ホッとできるとき」の上位5位は、『寝ているとき』・『自分の部屋にいるとき』・『友だちと遊んだりしているとき』・『一人になってぼーっとしているとき』・『お風呂に入っているとき』の順であった。さらに、『何もしないでいるとき』が35.6%、『特にない』が1.7%であった。なお、『児童館にいるとき』・『公民館・地区会館にいるとき』が、0.0%であった。

『おとな調査』における「ホッとできるとき」の上位5位は、『友だちと遊んだりしているとき』・『家族と遊んだり話したりしているとき』・『寝ているとき』・『自分の部屋にいるとき』・『お風呂に入っているとき』の順であった。さらに、『何もしないでいるとき』が13.1%、『特にない』が1.3%であった。

『小学4～6年調査(平成14年度)』における「ホッとできるとき」の上位5位は、『寝ているとき』・『友だちと遊んだりしているとき』・『お風呂に入っているとき』・『自分の部屋にいるとき』・『家族と遊んだり話したりしているとき』の順であった。さらに、『何もしないでいるとき』が26.8%であった。

『中学・高校生調査(平成14年度)』における「ホッとできるとき」の上位5位は、『寝ているとき』・『友だちと遊んだりしているとき』・『自分の部屋にいるとき』・『お風呂に入っているとき』・『一人になってぼーっとしているとき』の順であった。さらに、『何もしないでいるとき』が、25.3%であった。

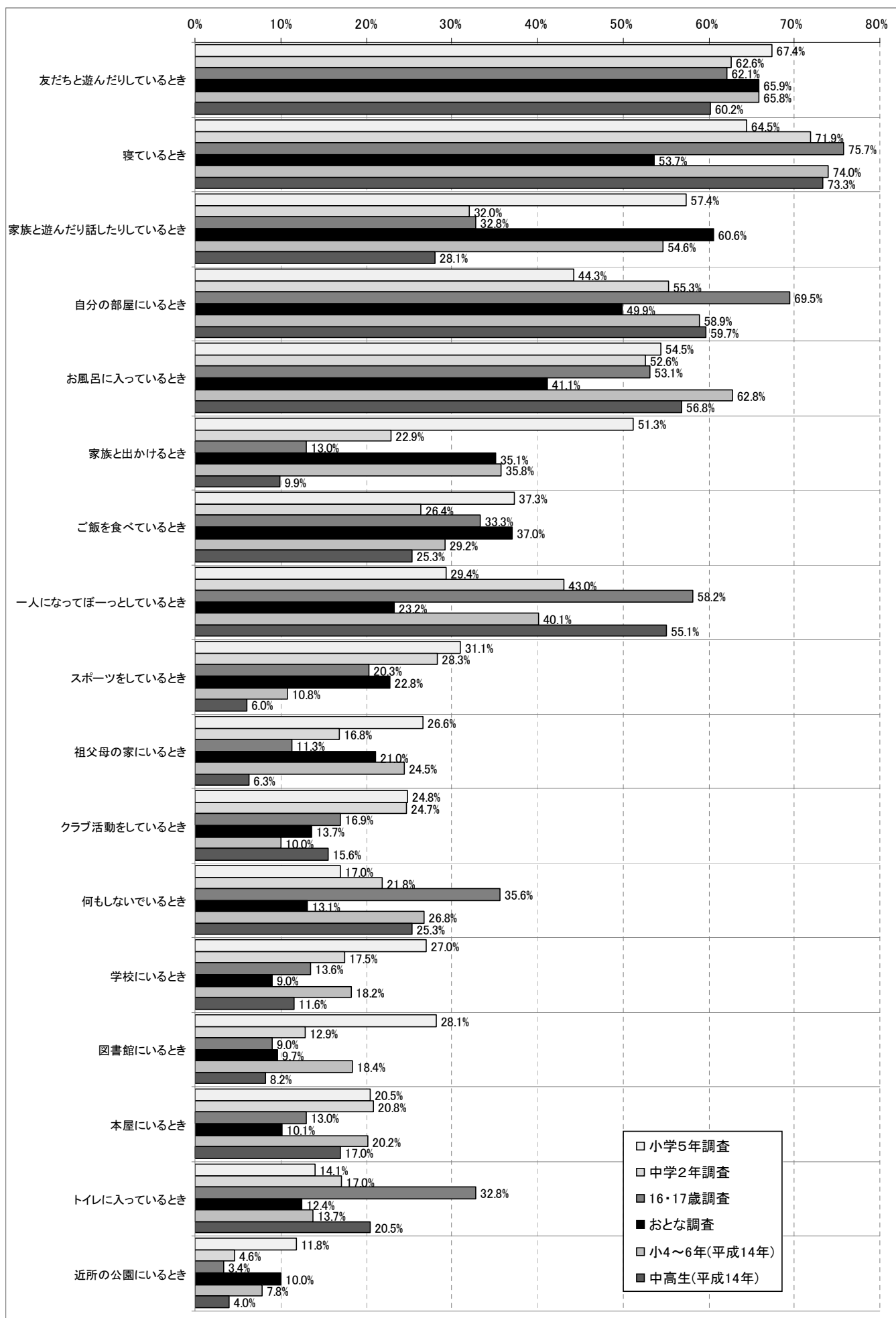
◎自己肯定感(自分のことが好きだ)別

子どもが、「ホッとできるとき」について尋ねた結果の自己肯定感(自分のことが好きだ)別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-4-3)。

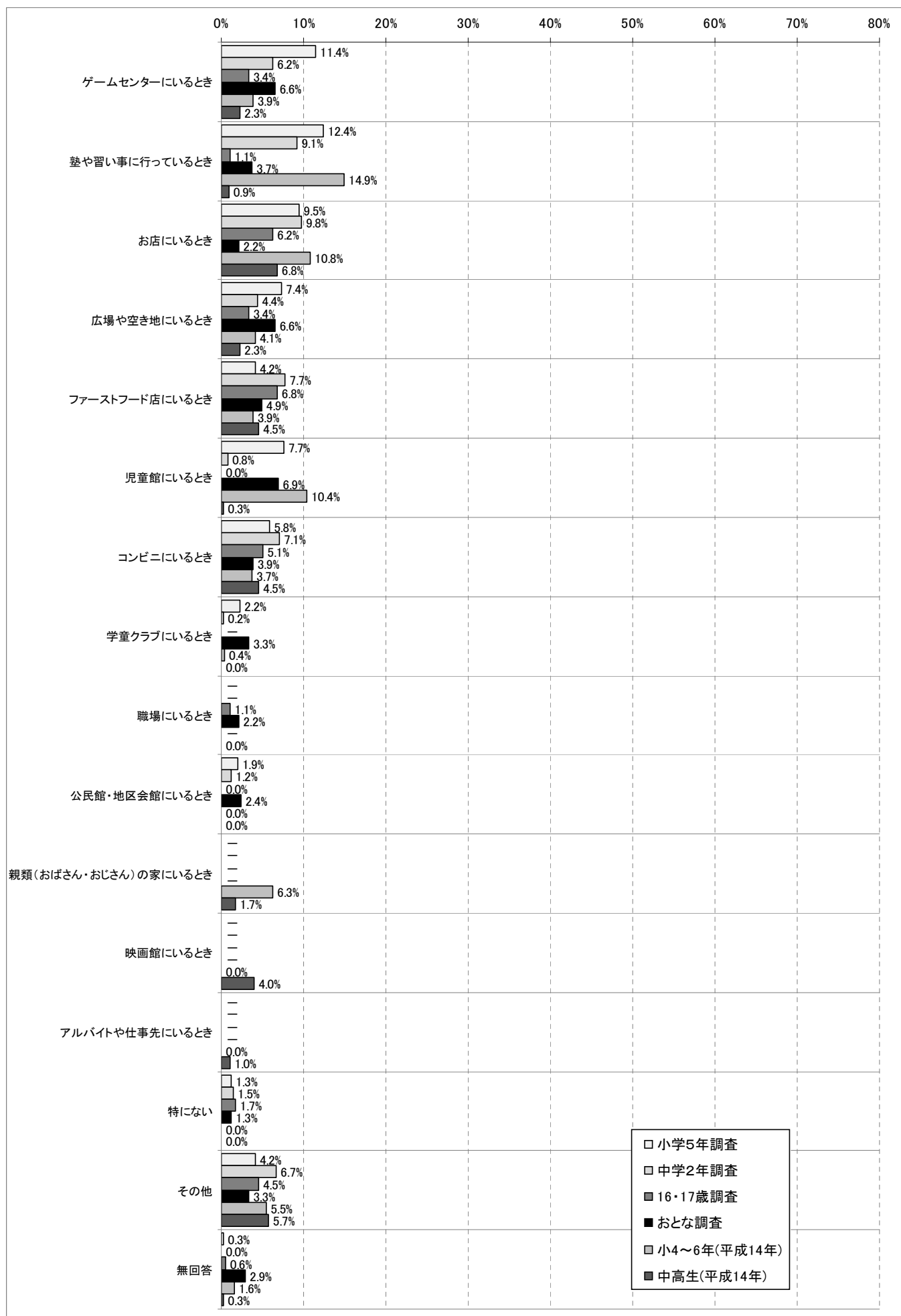
『小学5年調査』における「ホッとできるとき」の上位5位は、「自分のことを好きと思う」では、『友だちと遊んだりしているとき』・『寝ているとき』・『家族と遊んだり話したりしているとき』・『お風呂に入っているとき』・『家族と出かけるとき』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『友だちと遊んだりしているとき』・『寝ているとき』・『お風呂に入っているとき』・『家族と遊んだり話したりしているとき』・『家族と出かけるとき』の順であった。また、『家族と遊んだり話したりしているとき』(思う:61.4%>思わない:51.1%)『ご飯を食べている時』(思う:41.1%>思わない:30.0%)『学校にいるとき』(思う:31.1%>思わない:19.8%)では、「自分のことを好きと思う」が「自分のことを好きと思わない」よりも割合が高かった。

『中学2年調査』における「ホッとできるとき」の上位5位は、「自分のことを好きと思う」では、『寝ているとき』・『友だちと遊んだりしているとき』・『自分の部屋にいるとき』・『お風呂に入っているとき』・『一人になってぼーっとしているとき; 家族と遊んだり話したりしているとき』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『寝ているとき』・『友だちと遊んだりしているとき』・『自分の部屋にいるとき』・『お風呂に入っているとき』・『一人になってぼーっとしているとき』の順であった。また、『家族と遊んだり話したりしているとき』(思う:38.9%>思わない:27.9%)では、「自分のことを好きと思う」が「自分のことを好きと思わない」より割合が高かった。逆に、『何もしないでいるとき』(思わない:25.9%>思う:15.0%)では、「自分のことを好きと思わない」が「自分のことを好きと思う」よりも割合が高かった。なお、「自分のことを好きと思う」では『公民館・地区会館にいるとき』・『特にない』が、「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」では『学童クラブにいるとき』が、0.0%であった。

図表Ⅱ-4-1 調査票別のホッとできるとき-その1



図表Ⅱ-4-2 調査票別のホッとできるとき-その2



『16・17歳調査』における「ホッとできるとき」の上位5位は、「自分のことを好きと思う」では、『寝ているとき』・『自分の部屋にいるとき』・『友だちと遊んだりしているとき』・『一人になってぼーっとしているとき』・『お風呂に入っているとき』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『寝ているとき』・『自分の部屋にいるとき』・『一人になってぼーっとしているとき』・『友だちと遊んだりしているとき』・『お風呂に入っているとき』の順であった。また、『家族と遊んだり話したりしているとき』（思う:38.4%>思わない:27.8%）『スポーツをしているとき』（思う:25.6%>思わない:15.6%）では、「自分のことを好きと思う」が「自分のことを好きと思わない」よりも割合が高かった。なお、「自分のことを好きと思う」では『職場にいるとき』・『特にない』が、0.0%であった。

『おとな調査』における「ホッとできるとき」の上位5位は、「自分のことを好きと思う」では、『友だちと遊んだりしているとき』・『家族と遊んだり話したりしているとき』・『寝ているとき』・『自分の部屋にいるとき』・『お風呂に入っているとき』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『友だちと遊んだりしているとき』・『家族と遊んだり話したりしているとき』・『寝ているとき』・『自分の部屋にいるとき』・『ご飯を食べているとき』の順であった。また、『お風呂に入っているとき』（思う:43.3%>思わない:34.3%）『家族と出かけるとき』（思う:37.4%>思わない:26.9%）では、「自分のことを好きと思う」が「自分のことを好きと思わない」よりも割合が高かった。

図表Ⅱ-4-2 自己肯定感(自分のことが好きだ)別のホッとできるとき

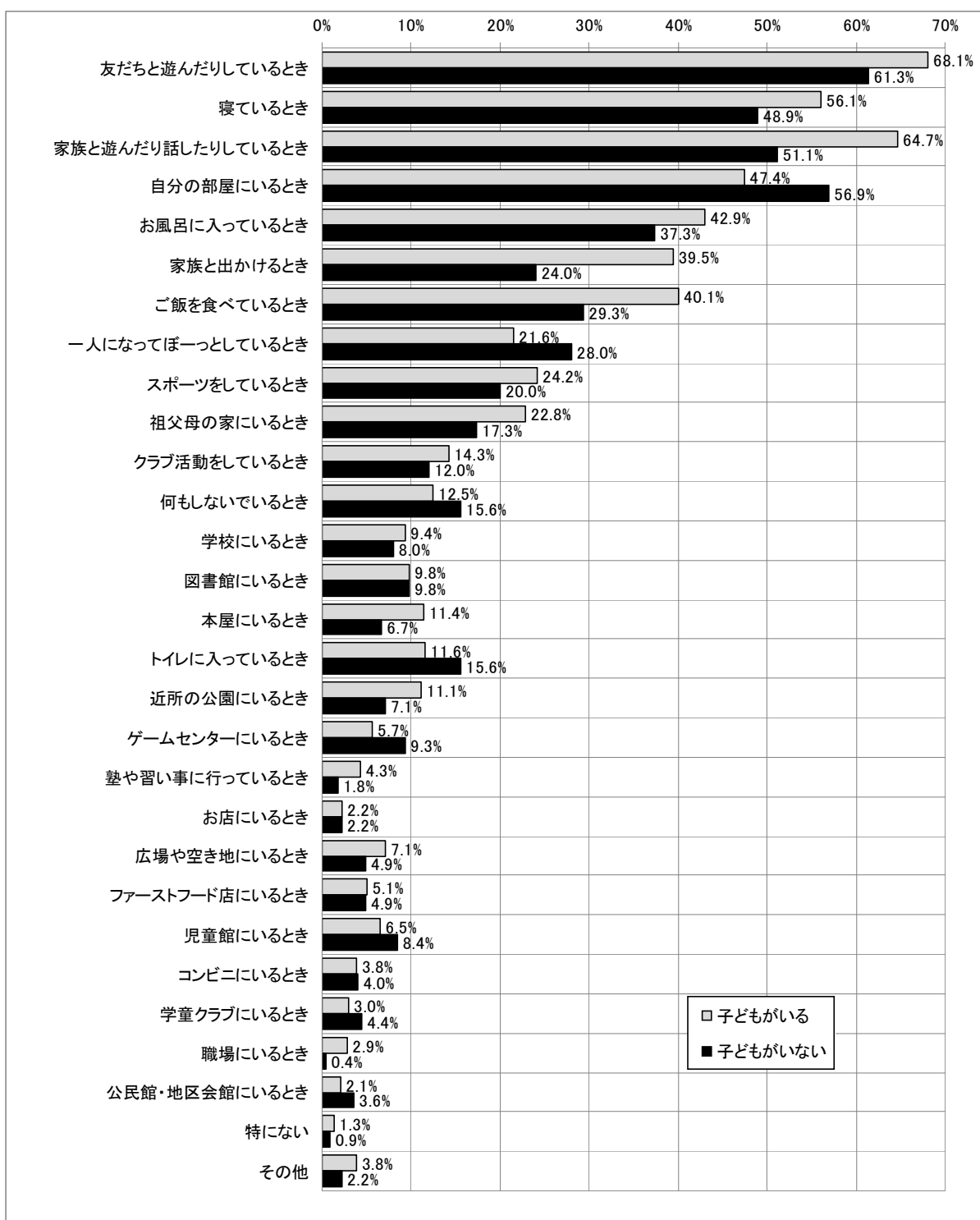
	小学5年生調査		中学2年調査		16・17歳調査		おとな調査	
	好きと思う	好きと思わない	好きと思う	好きと思わない	好きと思う	好きと思わない	好きと思う	好きと思わない
友だちと遊んだりしているとき	①68.4%	①65.8%	②67.1%	②59.8%	③62.8%	④62.2%	①66.8%	①68.7%
寝ているとき	②65.9%	②62.9%	①71.9%	①72.1%	①73.3%	①78.9%	③54.4%	②54.5%
家族と遊んだり話したりしているとき	③61.4% >	④51.1%	⑤38.9% >	⑥27.9%	⑥38.4% >	⑨27.8%	②63.0%	②54.5%
自分の部屋にいるとき	⑥43.0%	⑥47.7%	③58.1%	③53.8%	②67.4%	②72.2%	④51.9%	④44.0%
お風呂に入っているとき	④55.9%	③51.9%	④55.1%	④50.8%	④53.5%	⑤53.3%	⑤43.3% >	⑥34.3%
家族と出かけるとき	⑤53.2%	⑤48.5%	⑩26.9%	20.6%	9.3%	⑩16.7%	⑦37.4% >	⑦26.9%
ご飯を食べているとき	⑦41.1% >	⑦30.0%	⑧30.5%	⑧25.2%	⑦36.0%	⑧31.1%	⑥38.1%	⑤35.1%
一人になってぼーっとしているとき	⑩29.9%	⑧29.1%	⑤38.9%	⑤46.5%	④53.5%	③63.3%	⑧24.7%	⑧18.7%
スポーツをしているとき	③32.6%	⑨27.8%	⑦34.7%	⑧25.2%	⑩25.6% >	15.6%	⑨23.7%	⑧18.7%
祖父母の家にいるとき	⑩28.6%	22.8%	20.4%	15.3%	8.1%	14.4%	⑩22.7%	⑩15.7%
クラブ活動をしているとき	⑬26.9%	20.7%	⑩26.9%	⑩24.3%	18.6%	15.6%	14.2%	11.9%
何もしないでいるとき	16.7%	17.3%	15.0% <	⑦25.9%	⑦36.0%	⑥35.6%	14.2%	9.7%
学校にいるとき	⑨31.1% >	19.8%	⑨28.1%	12.3%	18.6%	8.9%	9.3%	8.2%
図書館にいるとき	29.7%	⑩25.7%	12.0%	13.6%	12.8%	5.6%	10.4%	6.0%
本屋にいるとき	20.8%	20.7%	18.0%	21.9%	17.4%	8.9%	11.1%	4.5%
トイレに入っているとき	15.5%	11.4%	20.4%	15.3%	⑨31.4%	⑦34.4%	13.5%	9.0%
近所の公園にいるとき	13.1%	9.7%	2.4%	6.0%	2.3%	4.4%	10.0%	11.2%
ゲームセンターにいるとき	11.2%	11.8%	4.2%	7.6%	3.5%	3.3%	6.3%	7.5%
塾や習い事に行っているとき	13.6%	9.3%	13.2%	7.0%	1.2%	1.1%	3.5%	4.5%
お店にいるとき	9.5%	9.7%	8.4%	11.0%	4.7%	7.8%	2.1%	3.0%
広場や空き地にいるとき	7.2%	8.0%	4.2%	4.7%	4.7%	2.2%	6.7%	6.7%
ファーストフード店にいるとき	4.7%	3.0%	5.4%	9.0%	8.1%	5.6%	4.9%	6.0%
児童館にいるとき	8.7%	5.9%	1.2%	0.7%	—	—	6.7%	9.0%
コンビニにいるとき	5.7%	6.3%	4.2%	8.6%	8.1%	2.2%	3.9%	3.7%
学童クラブにいるとき	2.3%	1.7%	0.0%	0.0%	—	—	3.1%	5.2%
職場にいるとき	—	—	—	—	0.0%	2.2%	2.4%	0.7%
公民館・地区会館にいるとき	2.3%	1.3%	0.0%	2.0%	—	—	2.2%	3.7%
特にない	1.5%	0.8%	0.0%	2.3%	0.0%	3.3%	1.4%	0.7%
その他	3.0%	6.8%	6.0%	7.3%	2.3%	6.7%	3.2%	4.5%
総数	472	237	167	301	86	90	713	134

◎子どもの有無別(『おとな調査』のみ)

子どもが、「ホッとできるとき」について尋ねた結果の子どもの有無別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-4-3)。

『おとな調査』における「ホッとできるとき」の上位5位は、「子どもがいる」では、『友だちと遊んだりしているとき』・『家族と遊んだり話したりしているとき』・『寝ているとき』・『自分の部屋にいるとき』・『お風呂に入っているとき』の順であった。さらに、「子どもがいる」では、『友だちと遊んだりしているとき』・『自分の部屋にいるとき』・『家族と遊んだり話したりしているとき』・『寝ているとき』・『お風呂に入っているとき』の順であった。また、『家族と遊んだり話したりしているとき』（いる:64.7%>いない:51.1%）『家族と出かけるとき』（いる:39.5%>いない:24.0%）『ご飯を食べているとき』（いる:40.1%>いない:29.3%）は、「子どもがいる」が「子どもがいない」よりも割合が高かった。

図表Ⅱ-4-3 子どもの有無別のホッとできるとき



以上から、自己肯定感の強い回答者は、『小学5年調査』では、友だちとの遊び、「家族との遊びや会話・家族との外出、入浴、就寝のときにホッとできるもの」が多く、自己肯定感の弱い回答者でも同様な傾向であった。『中学2年調査』・『16・17歳調査』では、友だちとの遊び、家族との遊びや会話、自分の部屋、入浴・就寝、一人になってぼーっとしているときに、ホッとできるものも多く、自己肯定感の弱い回答者でも同様な傾向であった。『おとな調査』では、友だちとの遊び、家族との遊びや会話、自分の部屋、就寝しているときに、ホッとできるものも多く、さらに自己肯定感の強い回答者では入浴が、自己肯定感の弱い回答者では食事がホッとできるときと思っているものが多かった。

よって、自己肯定感の強い回答者の特徴としては、主に家庭を中心に友だち関係の中でホッとしており、家庭特に、自分の部屋を中心とした生活の場がホッとできる場であるといえよう。

5. 子どもが、何でも話せる人

(小学5年調査(N=718)・中学2年調査(N=481)・16・17歳調査(N=177) [問5] ; おとな調査(N=870) [問6])

「自分が話したいことをなんでも話せる人」(小学5年調査・中学2年調査・16・17歳調査)、「子どもにとって、自分が話したいことをなんでも話せる人」(おとな調査)について複数回答で尋ねた。なお、各調査の項目数は、『小学5年調査』では9項目(欠如項目:『職場の同僚』『職場の上司』)、『中学2年調査』では9項目(欠如項目:『職場の同僚』『職場の上司』)、『16・17歳調査』では11項目、『おとな調査』では8項目(欠如項目:『先輩・後輩』『職場の同僚』『職場の上司』)であった。

◎調査票別

子どもにとって、「自分が話したいことをなんでも話せる人」について尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-5-1)。

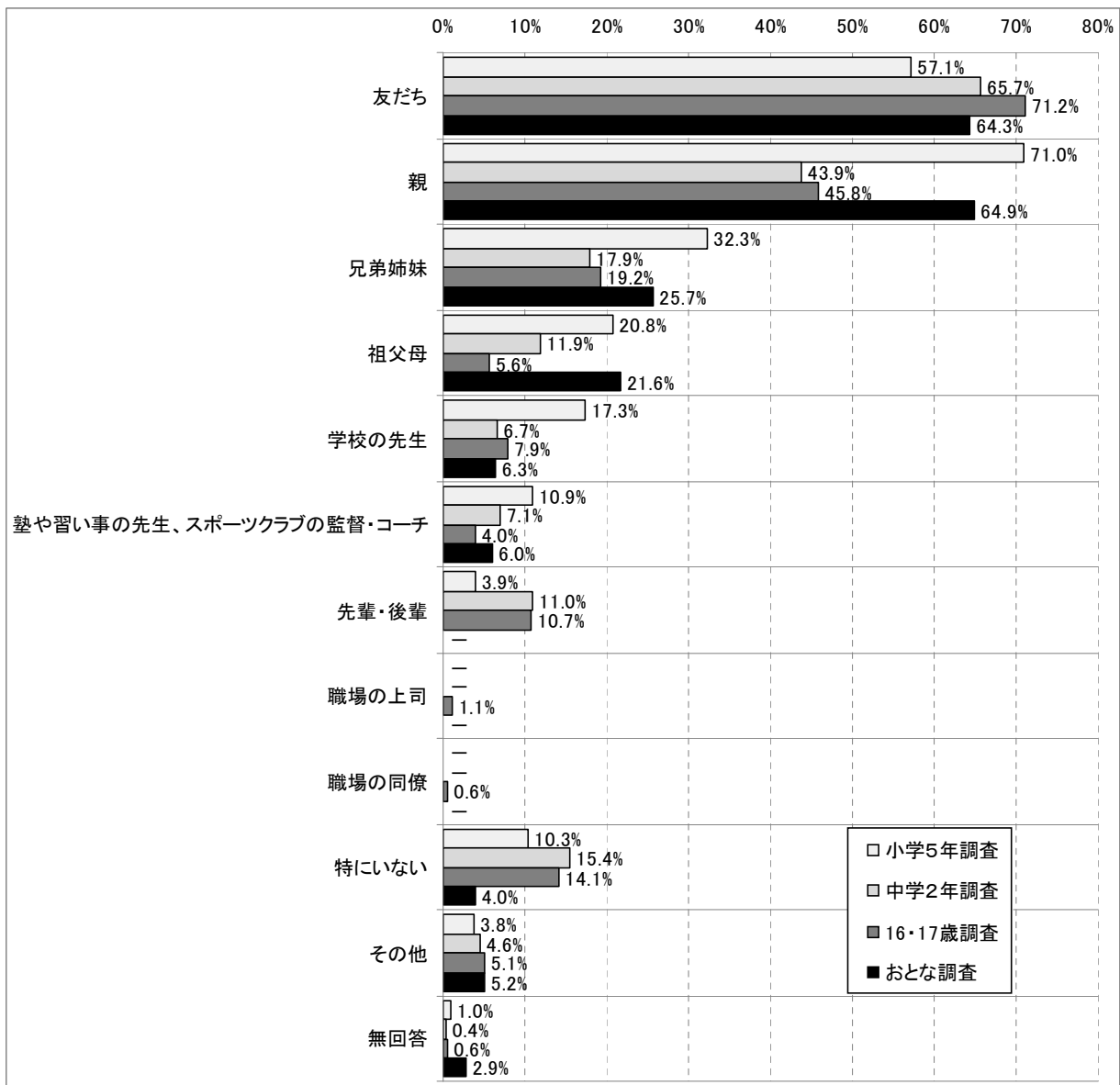
『小学5年調査』における「自分が話したいことをなんでも話せる人」の上位3位は、『親』・『友だち』・『兄弟姉妹』の順であり、『特にない』が10.3%であった。

『中学2年調査』における「自分が話したいことをなんでも話せる人」の上位3位は、『友だち』・『親』・『兄弟姉妹』の順であり、『特にない』が15.4%であった。

『16・17歳調査』における「自分が話したいことをなんでも話せる人」の上位3位は、『友だち』・『親』・『兄弟姉妹』の順であり、『特にない』が14.1%であった。

『おとな調査』における「自分が話したいことをなんでも話せる人」の上位3位は、『親』・『友だち』・『兄弟姉妹』の順であり、『特にない』が4.0%であった。

図表Ⅱ-5-1 調査票別の自分が話したいことをなんでも話せる人



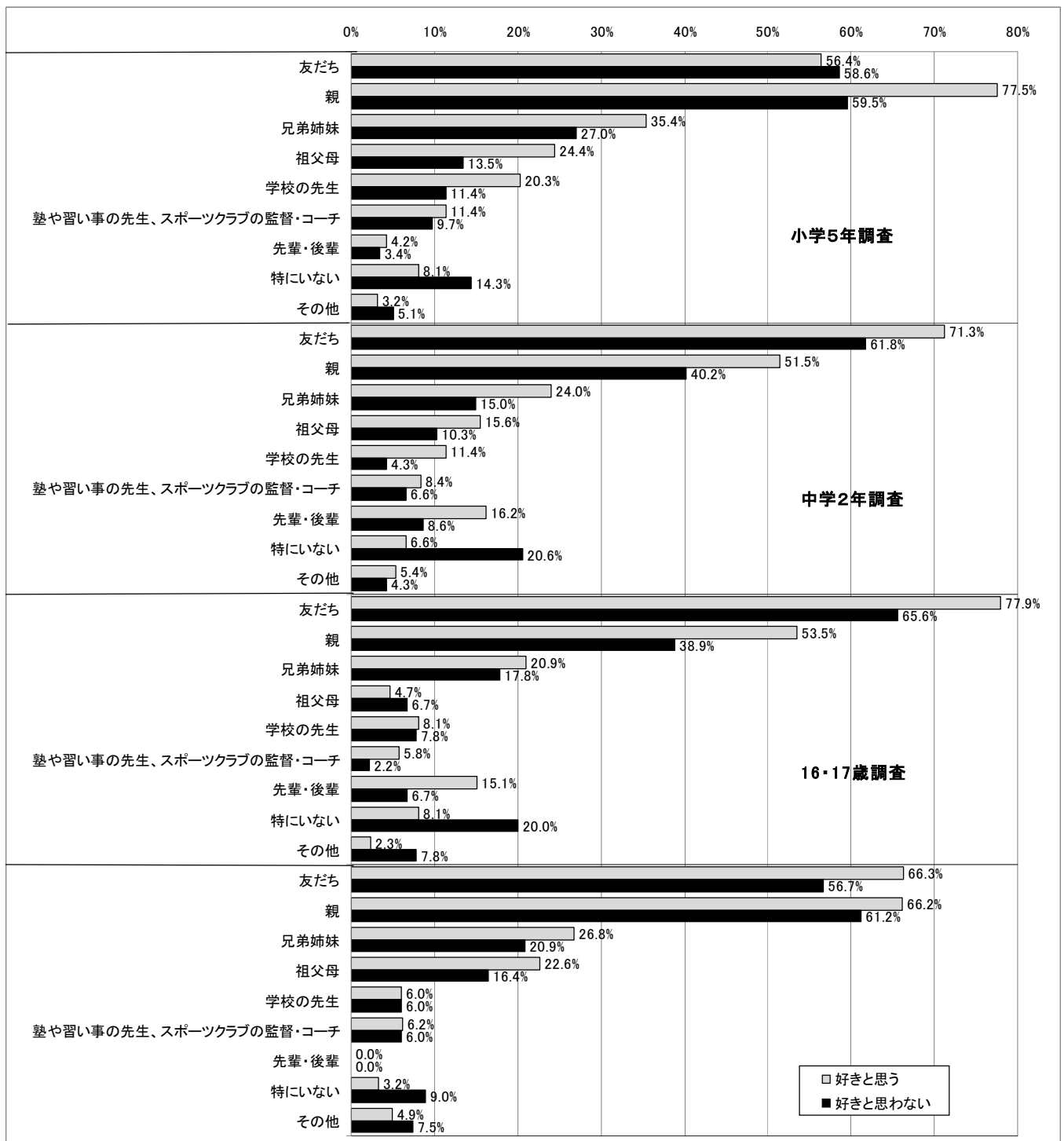
◎自己肯定感(自分のことが好きだ)別

子どもにとって、「自分が話したいことをなんでも話せる人」について尋ねた結果の自己肯定感(自分のことが好きだ)別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-5-2)。

『小学5年調査』における「自分が話したいことをなんでも話せる人」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」では、『親』・『友だち』・『兄弟姉妹』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『親』・『友だち』・『兄弟姉妹』の順であった。また、『親』(思う:77.5%>思わない:59.5%)・『祖父母』(思う:24.4%>思わない:13.5%)では、「自分のことを好きと思う」が「自分のことを好きと思わない」よりも割合が高かった。

『中学2年調査』における「自分が話したいことをなんでも話せる人」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」では、『友だち』・『親』・『兄弟姉妹』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『友だち』・『親』・『兄弟姉妹』の順であった。また、『親』(思う:51.5%>思わない:40.2%)では、「自分のことを好きと思う」が「自分のことを好きと思わない」よりも割合が高かった。逆に、『特にない』(思わない:20.6%>思う:6.6%)では、「自分のことを好きと思わない」が「自分のことを好きと思う」よりも割合が高かった。

図表Ⅱ-5-2 自己肯定感(自分のことが好きだ)別の自分が話したいことをなんでも話せる人



『16・17歳調査』における「自分が話したいことをなんでも話せる人」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」では、『友だち』・『親』・『兄弟姉妹』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『友だち』・『親』・『兄弟姉妹』の順であった。また、『友だち』(思う:77.9%>思わない:65.6%)・『親』(思う:53.5%>思わない:38.9%)では、「自分のことを好きと思う」が「自分のことを好きと思わない」よりも割合が高かった。逆に、『特にない』(思わない:20.0%>思う:8.1%)では、「自分のことを好きと思わない」が「自分のことを好きと思う」よりも割合が高かった。なお、「自分のことを好きと思う」では『職場の上司』・『職場の同僚』が、0.0%であった。

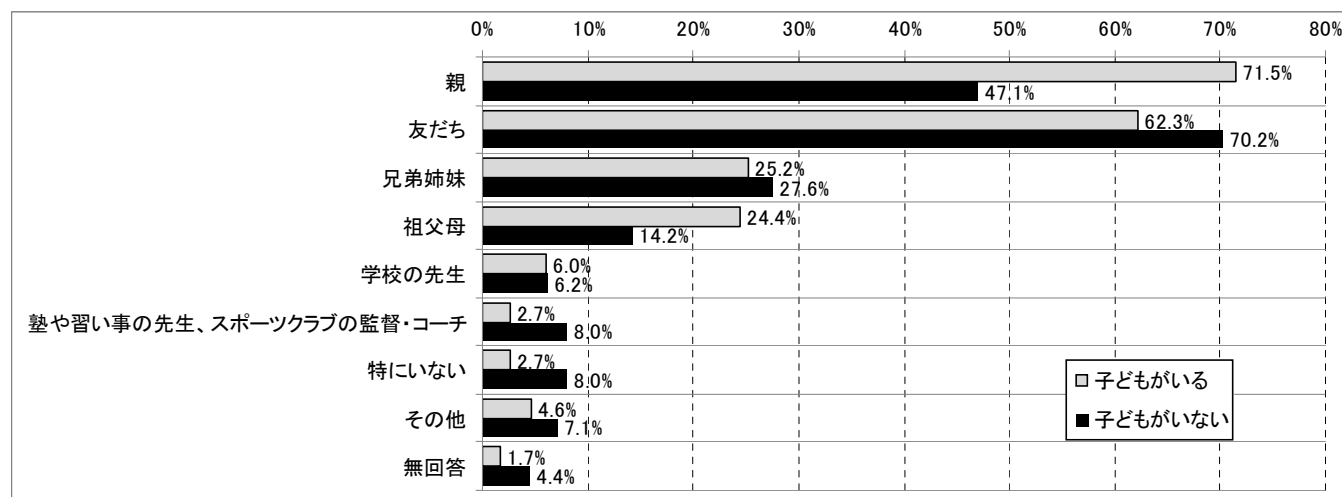
『おとな調査』における「自分が話したいことをなんでも話せる人」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」では、『友だち』・『親』・『兄弟姉妹』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『親』・『友だち』・『兄弟姉妹』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とがほぼ同じ割合であった。

◎子どもの有無別(『おとな調査』のみ)

子どもにとって、「自分が話したいことをなんでも話せる人」について尋ねた結果の自己肯定感(自分のことが好きだ)別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-5-3)。

『おとな調査』における「自分が話したいことをなんでも話せる人」の上位3位は、「子どもがいる」では、『親』『友だち』『兄弟姉妹』の順であった。さらに、「子どもがいる」では、『友だち』『親』『兄弟姉妹』の順であった。また、『親』(いる:71.5%>いない:47.1%)・『祖父母』(いる:24.4%>いない:14.2%)は、「子どもがいる」が「子どもがいない」よりも高い割合であった。

図表Ⅱ-5-3 子どもの有無別の自分が話したいことをなんでも話せる人



以上から、自己肯定感の強い回答者は、『小学5年調査』・『おとな調査』では、「親」・「兄弟姉妹」、「友だち」を自分が話したいことを何でも話せる人にあげるのが多く、自己肯定感の弱い回答者でも同様な傾向であった。『中学2年調査』・『16・17歳調査』でも、「親」・「兄弟姉妹」、「友だち」をあげているのが多いが、自己肯定感の弱い回答者では、自分が話したいことをなんでも話せる人が特にないが多く、それ以外は自己肯定感の強い回答者と同様な傾向であった。

よって、自己肯定感の強い回答者の特徴としては、親・兄弟姉妹の家族や友だちを話したいことを何でも話せる人としてあげている。

6. 子どもが、友だちや先輩などからされた「つらくてどうしようもないこと」

(1) つらくてどうしようもないこと

(小学5年調査(N=718)・中学2年調査(N=481)・16・17歳調査(N=177) [問6]; おとな調査(N=870) [問7])

「過去または現在に、友だちや先輩などから、『つらくてどうしようもないこと』をされたことがあるか」(小学5年調査・中学2年調査・16・17歳調査)、「子どもが、友だちや先輩などから、『つらくてどうしようもないこと』をされたことがあるか」(おとな調査)について複数回答で尋ねた。なお、各調査の項目数は、『小学5年調査』、『中学2年調査』、『16・17歳調査』、『おとな調査』とも9項目である。

◎調査票別

子どもが、「友だちや先輩などから、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」について尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-6-1)。

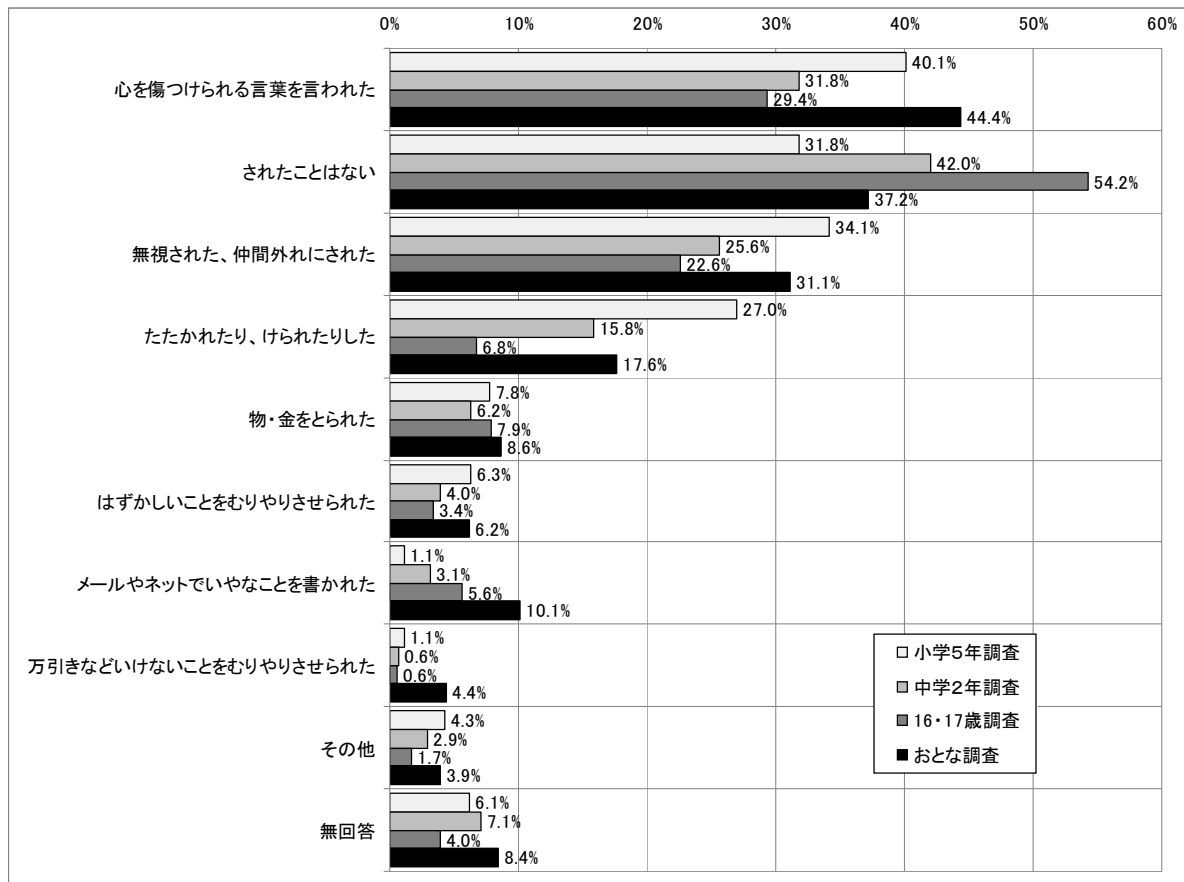
『小学5年調査』における「友だちや先輩などから、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、『心を傷つけられる言葉を言われた』・『無視された、仲間外れにされた』・『されたことはない』の順であった。

『中学2年調査』における「友だちや先輩などから、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『無視された、仲間外れにされた』の順であった。

『16・17歳調査』における「友だちや先輩などから、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『無視された、仲間外れにされた』の順であった。

『おとな調査』における「友だちや先輩などから、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、『心を傷つけられる言葉を言われた』・『されたことはない』・『無視された、仲間外れにされた』の順であった。

図表Ⅱ-6-1 調査票別の友だちや先輩などから『つらくてどうしようもないこと』をされたこと



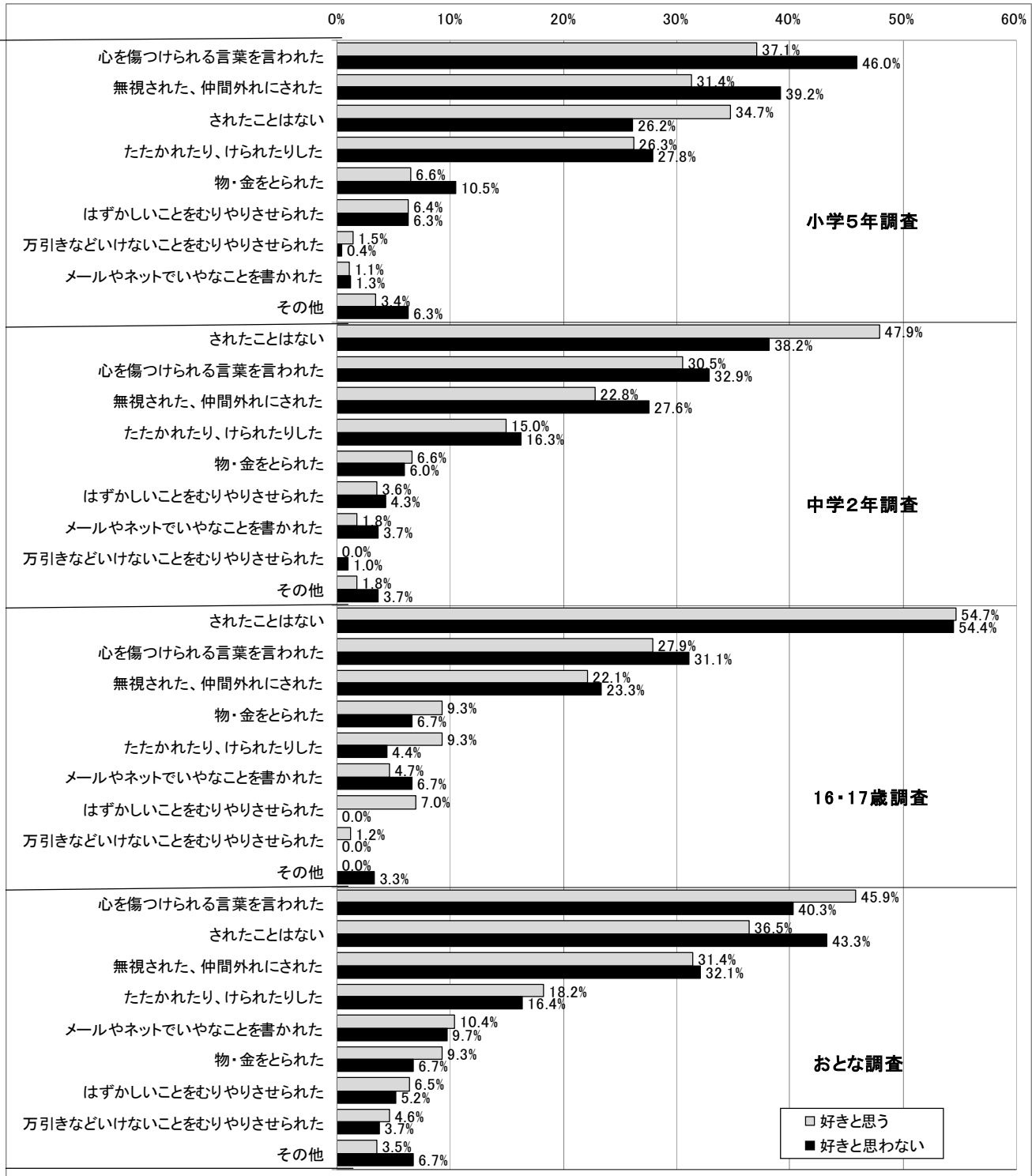
◎自己肯定感(自分のことが好きだ)別

子どもが、「友だちや先輩などから、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」について尋ねた結果の自己肯定感(自分のことが好きだ)別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-6-2)。

『小学5年調査』における「友だちや先輩などから、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」では、『心を傷つけられる言葉を言われた』・『されたことはない』・『無視された、仲間外れにされた』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『心を傷つけられる言葉を言われた』・『無視された、仲間外れにされた』・『たたかれたり、けられたりした』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とがほぼ同じ割合であった。

『中学2年調査』における「友だちや先輩などから、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」では、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『無視された、仲間外れにされた』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『無視された、仲間外れにされた』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とがほぼ同じ割合であった。なお、「自分のことを好きと思う」では『万引きなどいけないことをむりやりさせられた』が、0.0%であった。

図表Ⅱ-6-2 自己肯定感(自分のことが好きだ)別の友だちや先輩などから『つらくてどうしようもないこと』をされたこと



『16・17歳調査』における「友だちや先輩などから、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」では、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『無視された、仲間外れにされた』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『無視された、仲間外れにされた』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とがほぼ同じ割合であった。なお、「自分のことを好きと思う」では『その他』が、「自分のことを好きと思わない」では『はずかしいことをむりやりさせられた』・『万引きなどいけないことをむりやりさせられた』が、0.0%であった。

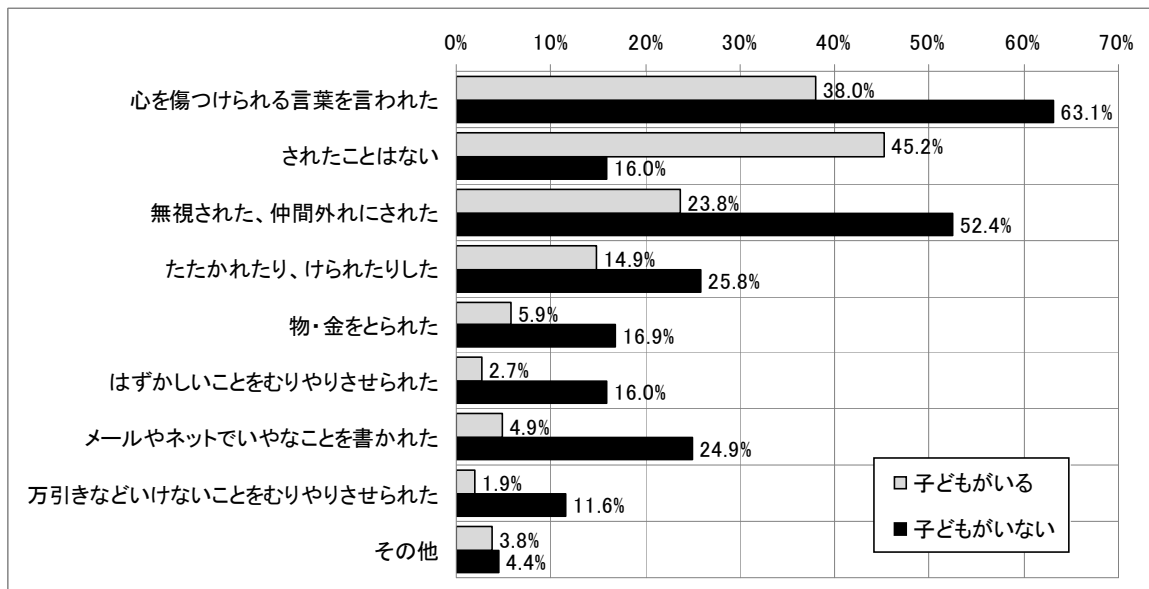
『おとな調査』における「友だちや先輩などから、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」では、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『無視された、仲間外れにされた』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『無視された、仲間外れにされた』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とがほぼ同じ割合であった。

◎子どもの有無別（『おとな調査』のみ）

子どもが、「友だちや先輩などから、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」について尋ねた結果の子どもの有無別は、以下のとおりであった（図表Ⅱ-6-3）。

『おとな調査』における「友だちや先輩などから、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、「子どもがいる」では、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『無視された、仲間外れにされた』の順であった。さらに、「子どもがいる」では、『心を傷つけられる言葉を言われた』・『無視された、仲間外れにされた』・『たたかれたり、けられたりした』の順であった。また、『されたことはない』（いる：45.2%>いない：16.0%）は、「子どもがいる」が「子どもがいない」よりも高い割合であった。逆に、『心を傷つけられる言葉を言われた』（いない：63.1%>いる：38.0%）・『無視された、仲間外れにされた』（いない：52.4%>いる：23.8%）『たたかれたり、けられたりした』（いない：14.9%>いる：25.8%）『物・金をとられた』（いない：5.9%>いる：16.9%）・『はずかしいことをむりやりさせられた』（いない：2.7%>いる：16.0%）・『メールやネットでいやなことを書かれた』（いない：4.9%>いる：24.9%）は、「子どもがいない」が「子どもがいる」よりも割合が高かった。

図表Ⅱ-6-3 子どもの有無別の友だちや先輩などから『つらくてどうしようもないこと』をされたこと



(2)その時の対応法(小学5年調査(N=446)・中学2年調査(N=245)・16・17歳調査(N=74) [問6-1])

「友だちや先輩などから、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」に回答した対象者に対して、「『つらくてどうしようもないこと』をされたとき、どうしたか(対応法)」について複数回答で尋ねた。なお、各調査の項目数は、『小学5年調査』、『中学2年調査』、『16・17歳調査』とも9項目である。

◎調査票別

子どもが、『つらくてどうしようもないこと』をされたときの対応』について尋ねた結果の調査票別は、

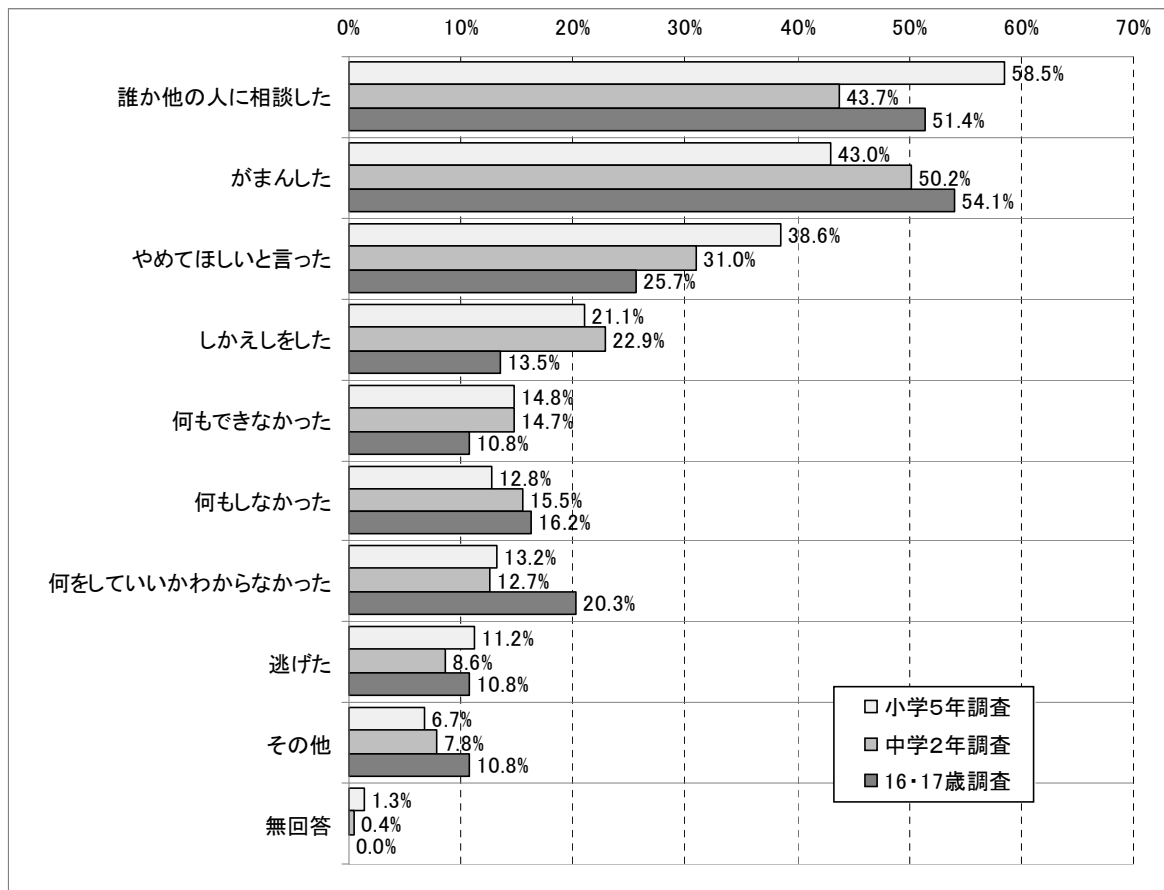
以下のとおりであった(図表Ⅱ-6-4)。

『小学5年調査』における「『つらくてどうしようもないこと』をされたときの対応」の上位3位は、『誰か他の人に相談した』・『がまんした』・『やめてほしいと言った』の順であった。さらに、『何もできなかった』が14.8%、『何もしなかった』が12.8%であった。

『中学2年調査』における「『つらくてどうしようもないこと』をされたときの対応」の上位3位は、『がまんした』・『誰か他の人に相談した』・『やめてほしいと言った』の順であった。さらに、『何もできなかった』が14.7%、『何もしなかった』が15.5%であった。

『16・17歳調査』における「『つらくてどうしようもないこと』をされたときの対応」の上位3位は、『がまんした』・『誰か他の人に相談した』・『やめてほしいと言った』の順であった。さらに、『何もできなかった』が10.8%、『何もしなかった』が16.2%であった。

図表Ⅱ-6-4 調査票別の『つらくてどうしようもないこと』をされたときの対応



◎自己肯定感(自分のことが好きだ)別

子どもが、「『つらくてどうしようもないこと』をされたときの対応」について尋ねた結果の自己肯定感(自分のことが好きだ)別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-6-5)。

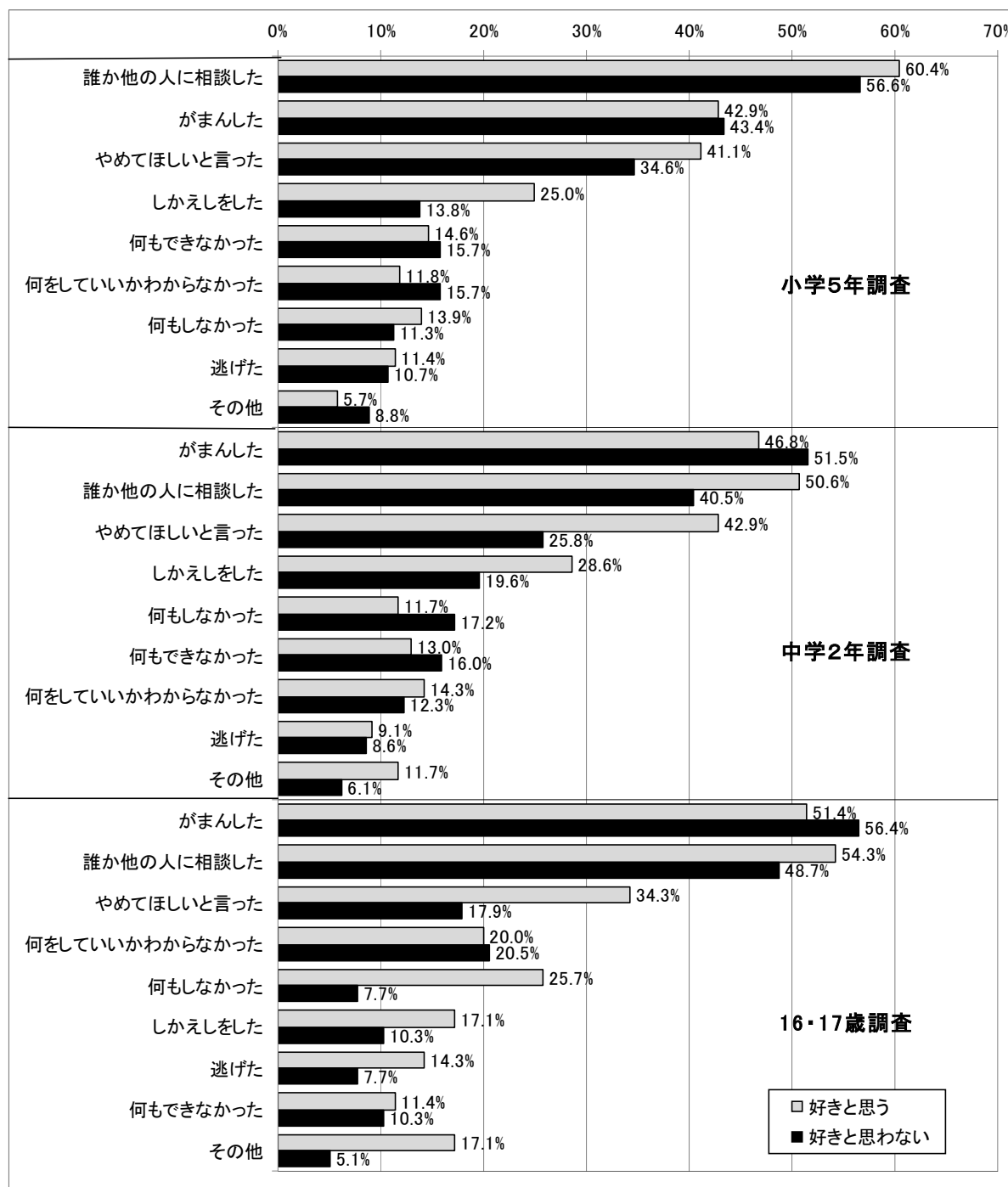
『小学5年調査』における「『つらくてどうしようもないこと』をされたときの対応」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」では、『誰か他の人に相談した』・『がまんした』・『やめてほしいと言った』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『誰か他の人に相談した』・『がまんした』・『やめてほしいと言った』の順であった。また、『しかえしをした』(思う:25.0%>思わない:13.8%)では、「自分のことを好きと思う」が「自分のことを好きと思わない」よりも割合が高かった。

『中学2年調査』における「『つらくてどうしようもないこと』をされたときの対応」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」では、『がまんした』・『誰か他の人に相談した』・『やめてほしいと言った』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『誰か他の人に相談した』・『がまんした』・『やめてほしいと言った』の順であった。また、『がまんした』(思う:50.6%>思わない:40.5%)・『やめてほしいと言った』(思う:42.9%>思わない:25.8%)では、「自分のことを好きと思う」が「自分のことを好きと思わない」よりも割合が高かった。

『16・17歳調査』における「『つらくてどうしようもないこと』をされたときの対応」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」では、『がまんした』・『誰か他の人に相談した』・『やめてほしいと言った』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『誰か他の人に相談した』・『がまんした』・『し

かえしをした』の順であった。また、『やめてほしいと言った』（思う:34.3%>思わない:17.9%）・『何もできなかった』（思う:25.7%>思わない:7.7%）では、「自分のことを好きと思う」が「自分のことを好きと思わない」よりも割合が高かった。

図表Ⅱ-6-5 自己肯定感(自分のことが好きだ)別の『つらくてどうしようもないこと』をされたときの対応



(3)相談相手・相談場所(小学5年調査(N=264)・中学2年調査(N=107)・16・17歳調査(N=39) [問6-2])

『『つらくてどうしようもないこと』をされたとき、どうしたか』で『誰か他の人に相談した』と回答した対象者に対して、「誰・どこに相談したのか」について複数回答で尋ねた。なお、各調査の項目数は、『小学5年調査』では16項目(欠如項目:『職場の同僚』『職場の上司』)、『中学2年調査』では16項目(欠如項目:『職場の同僚』『職場の上司』)、『16・17歳調査』では19項目である。

◎調査票別

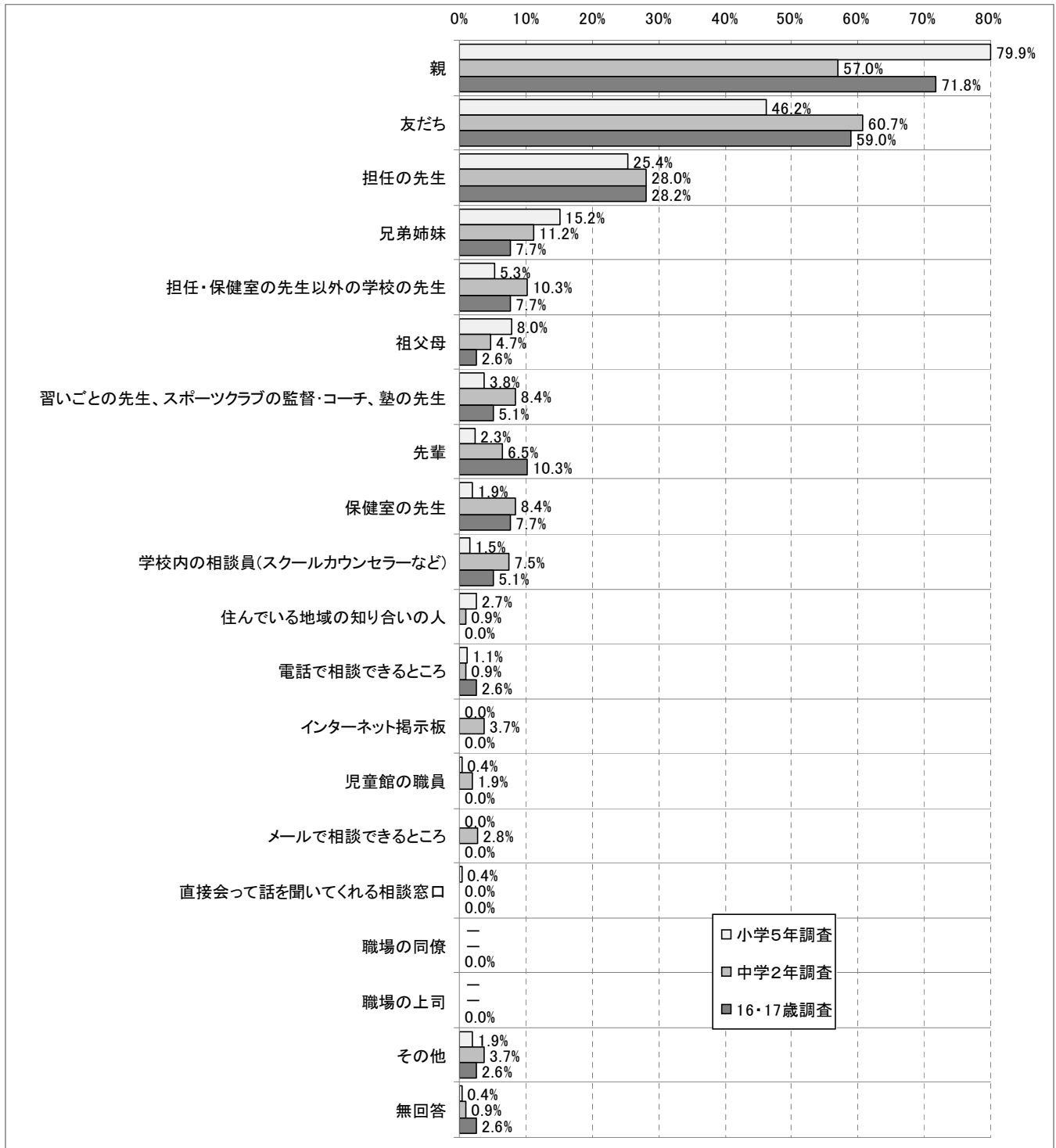
「相談相手・相談場所」について尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-6-6)。

『小学5年調査』における「相談相手・相談場所」の上位3位は、『親』・『友だち』・『担任の先生』の順であった。なお、『インターネット掲示板』・『メールで相談できるところ』が、0.0%であった。

『中学2年調査』における「相談相手・相談場所」の上位3位は、『友だち』・『親』・『担任の先生』の順であった。なお、『直接会って話を聞いてくれる相談窓口』が、0.0%であった。

『16・17歳調査』における「相談相手・相談場所」の上位3位は、『親』・『友だち』・『担任の先生』の順であった。なお、『住んでいる地域の知り合いの人』・『インターネット掲示板』・『児童館の職員』・『メールで相談できるところ』・『直接会って話を聞いてくれる相談窓口』・『職場の同僚』・『職場の上司』が、0.0%であった。

図表Ⅱ-6-6 調査票別の『つらくてどうしようもないこと』をされたときの対応



◎自己肯定感(自分のことが好きだ)別

「相談相手・相談場所」について尋ねた結果の自己肯定感(自分のことが好きだ)別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-6-7)。

『小学5年調査』における「相談相手・相談場所」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」では、『親』・

『友だち』・『担任の先生』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『親』・『友だち』・『担任の先生』の順であった。また、『親』（思う：83.6%＞思わない：72.5%）では、「自分のことを好きと思う」が「自分のことを好きと思わない」より割合が高かった。なお、「自分のことを好きと思う」では『児童館の職員』・『直接会って話を聞いてくれる相談窓口』が、0.0%であった。

『中学2年調査』における「相談相手・相談場所」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」では、『親』・『友だち』・『担任の先生』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『友だち』・『親』・『担任の先生』の順であった。また、『親』（思う：66.7%＞思わない：51.5%）では、「自分のことを好きと思う」が「自分のことを好きと思わない」より割合が高かった。逆に、『保健室の先生』（思わない：12.1%＞思う：0.0%）では、「自分のことを好きと思わない」が「自分のことを好きと思う」より割合が高かった。なお、「自分のことを好きと思う」では『保健室の先生』・『住んでいる地域の知り合いの人』・『児童館の職員』が、「自分のことを好きと思わない」では『電話で相談できる場所』が、0.0%であった。

『16・17歳調査』における「相談相手・相談場所」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」では、『親』・『友だち』・『担任の先生』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『友だち』・『親』・『担任の先生』の順であった。また、『親』（思う：80.0%＞思わない：63.2%）・『学校内の相談員（スクールカウンセラーなど）』（思う：10.0%＞思わない：0.0%）では、「自分のことを好きと思う」が「自分のことを好きと思わない」より割合が高かった。逆に、『友だち』（思わない：73.7%＞思う：45.0%）『先輩』（思わない：15.8%＞思う：5.0%）では、「自分のことを好きと思わない」が「自分のことを好きと思う」より割合が高かった。なお、「自分のことを好きと思う」では『祖父母』・『電話で相談できる場所』・『その他』が、「自分のことを好きと思わない」では『学校内の相談員（スクールカウンセラーなど）』が、「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」では『インターネット掲示板』・『職場の同僚』・『職場の上司』が、0.0%であった。

図表Ⅱ-6-7 自己肯定感(自分のことが好きだ)別の『つらくてどうしようもないこと』をされたときの対応

	小学5年調査		中学2年調査		16・17歳調査	
	好きと思う	好きと思わない	好きと思う	好きと思わない	好きと思う	好きと思わない
親	①83.6%	> ①72.5%	①66.7%	> ②51.5%	①80.0%	> ②63.2%
友だち	②46.8%	②45.1%	①66.7%	①57.6%	②45.0%	< ①73.7%
担任の先生	③25.1%	③25.3%	③25.6%	③28.8%	③25.0%	③31.6%
兄弟姉妹	④15.8%	④13.2%	④15.4%	⑤9.1%	④10.0%	5.3%
担任・保健室の先生以外の学校の先生	⑤6.4%	3.3%	⑤10.3%	⑤9.1%	④10.0%	5.3%
祖父母	⑤6.4%	⑤8.8%	5.1%	4.5%	0.0%	5.3%
習いごとの先生、スポーツクラブの監督・コーチ、塾の先生	4.7%	2.2%	7.7%	⑤9.1%	5.0%	5.3%
先輩	2.9%	1.1%	7.7%	6.1%	5.0%	< ④15.8%
保健室の先生	1.2%	3.3%	0.0%	< ④12.1%	5.0%	⑤10.5%
学校内の相談員(スクールカウンセラーなど)	0.6%	3.3%	5.1%	9.1%	④10.0%	> 0.0%
住んでいる地域の知り合いの人	2.3%	3.3%	0.0%	1.5%	—	—
電話で相談できる場所	0.6%	2.2%	2.6%	0.0%	0.0%	5.3%
インターネット掲示板	—	—	2.6%	4.5%	0.0%	0.0%
児童館の職員	0.0%	1.1%	0.0%	3.0%	—	—
メールで相談できる場所	—	—	2.6%	3.0%	—	—
直接会って話を聞いてくれる相談窓口	0.0%	1.1%	—	—	—	—
職場の同僚	—	—	—	—	0.0%	0.0%
職場の上司	—	—	—	—	0.0%	0.0%
その他	1.8%	2.2%	2.6%	4.5%	0.0%	5.3%
総数	171	91	39	66	20	19

(4)相談してよくなったか(小学5年調査(N=264)・中学2年調査(N=107)・16・17歳調査(N=39)[問6-3])

『つらくてどうしようもないこと』をされたとき、どうしたか』で『誰か他の人に相談した』と回答した対象者に対して、「相談してよくなったのか」について、『よくなった』・『少し良くなった』『変わらなかった』・『かえって悪くなった』・『よくなったことも悪くなったことも』・『その他』の6項目で尋ねた。

◎調査票別

「相談してよくなったのか」について尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-6-8)。

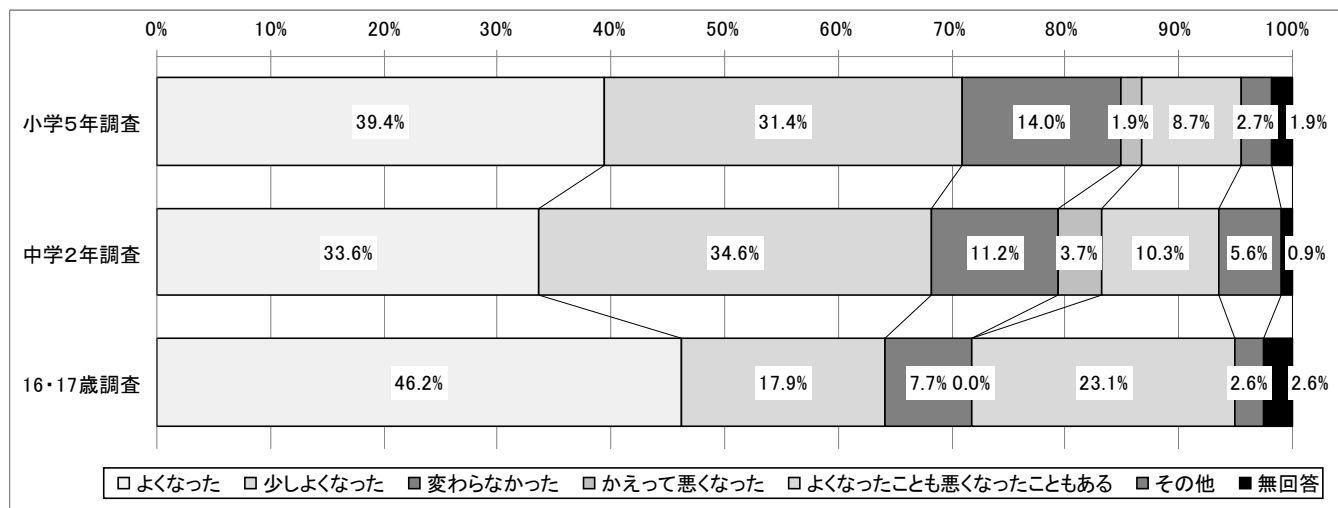
『小学5年調査』では、相談して『よくなった』(39.4%)と『少し良くなった』(31.4%)が70.8%で、相談してよくなったものが多いが、逆に『かえって悪くなった』が1.9%、さらに『変わらなかった』が14.0

、『よくなったことも悪くなったこともある』が8.7%などであった。

『中学2年調査』では、相談して『よくなった』(33.6%)と『少し良くなった』(34.6%)が68.2%で、相談してよくなったものが多いが、逆に『かえって悪くなった』が3.7%、さらに『変わらなかった』が11.2%、『よくなったことも悪くなったこともある』が10.3%などであった。

『16・17歳調査』では、相談して『よくなった』(46.2%)と『少し良くなった』(17.9%)が64.1%で、相談してよくなったものが多いが、逆に『かえって悪くなった』(0.0%)はおらず、さらに『変わらなかった』が7.7%、『よくなったことも悪くなったこともある』が23.1%などであった。なお、『かえって悪くなった』が、0.0%であった。

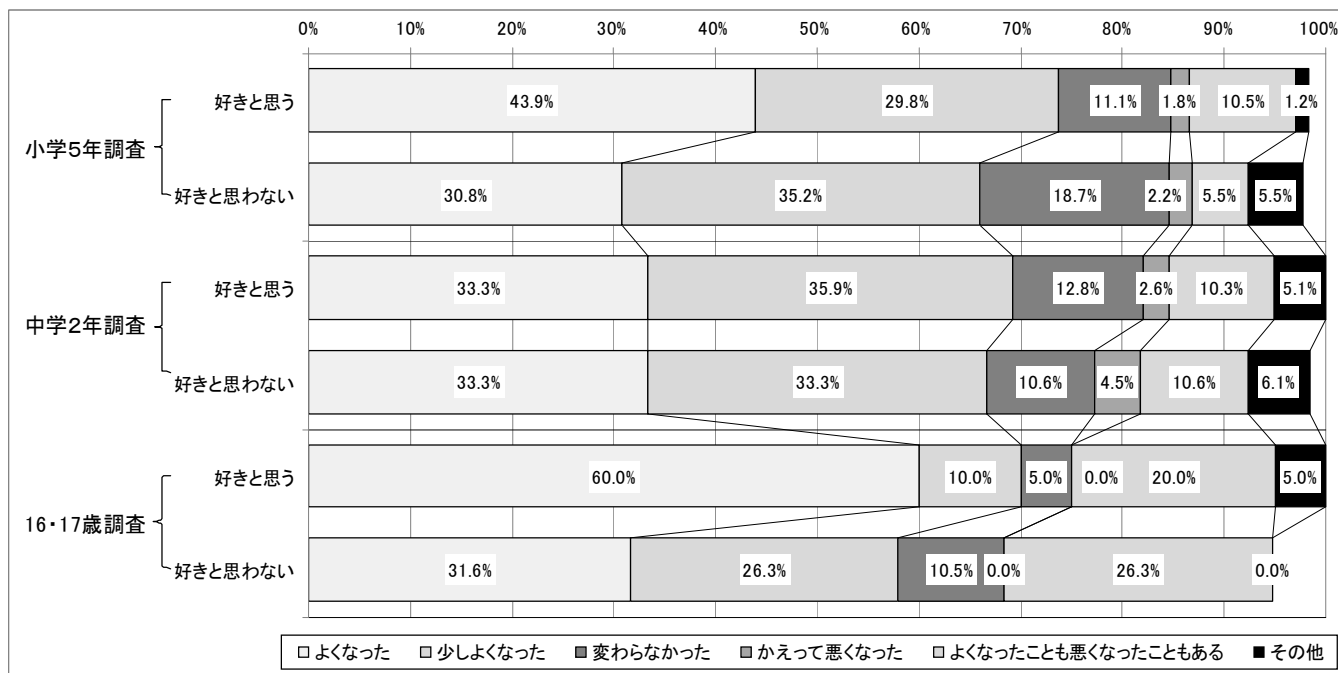
図表Ⅱ-6-8 調査票別の『つらくてどうしようもないこと』をされたときの対応



◎自己肯定感(自分のことが好きだ)別

「相談してよくなったのか」について尋ねた結果の自己肯定感(自分のことが好きだ)別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-6-9)。

図表Ⅱ-6-9 自己肯定感(自分のことが好きだ)別の『つらくてどうしようもないこと』をされたときの対応



『小学5年調査』における「相談してよくなったか」については、「自分のことを好きと思う」では、『よくなった』(43.9%)と『少し良くなった』(29.8%)が73.7%で相談して良かったと思っているものが多いが、逆に『かえって悪くなった』が1.8%、また『変わらなかった』が11.1%、『よくなったことも悪くなったことも』が10.5%などであった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『よくなった』(30.8%)と『少

し良くなった』(35.2%)が66.0%で相談して良かったと思っているのが多いが、逆に『かえって悪くなった』が2.2%、また『変わらなかった』が18.7%、『よくなったことも悪くなったことも』が5.5%などであった。

『中学2年調査』における「相談してよくなったか」については、「自分のことを好きと思う」では、『よくなった』(33.3%)と『少し良くなった』(35.9%)が69.2%で相談して良かったと思っているのが多いが、逆に『かえって悪くなった』が2.6%、また『変わらなかった』が12.8%、『よくなったことも悪くなったことも』が10.3%などであった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『よくなった』(33.3%)と『少し良くなった』(33.3%)が66.6%で相談して良かったと思っているのが多いが、逆に『かえって悪くなった』が4.5%、また『変わらなかった』が10.6%、『よくなったことも悪くなったことも』が10.6%などであった。

『16・17歳調査』における「相談してよくなったか」については、「自分のことを好きと思う」では、『よくなった』(60.0%)と『少し良くなった』(10.0%)が70.0%で相談して良かったと思っているのが多いが、逆に『かえって悪くなった』(0.0%)はおらず、また『変わらなかった』が5.0%、『よくなったことも悪くなったことも』が20.0%などであった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『よくなった』(31.6%)と『少し良くなった』(26.3%)が57.9%で相談して良かったと思っているのが多いが、逆に『かえって悪くなった』(0.0%)はおらず、また『変わらなかった』が10.5%、『よくなったことも悪くなったことも』が26.3%、『その他』が0.0%であった。

以上から、自己肯定感の強い回答者は、全調査で、「心を傷つけられる言葉を言われた」・「無視された、仲間外れにされた」ものも多く、また「されたことはない」ものも多く、自己肯定感の弱い回答者も同様な傾向にあるが、『小学5年調査』では「たたかれたり、けられたり」という暴力をふるわれているものもいた。また、「その時の対応法」については、全調査とも「がまんした」・「誰かに相談した」・「やめてほしいと言った」ものも多く、自己肯定感の弱い回答者も同様な傾向にあるが、『16・17歳調査』では「何をしていたかわからなかった」と混乱してしまったものもいた。さらに、「相談相手・相談場所」については、全調査とも親・友だち・担任の先生に相談したものがほとんどであり、自己肯定感の弱い回答者も同様な傾向であった。相談して、よくなったのが全調査とも過半数を超えていた。

よって、自己肯定感の強い回答者の特徴としては、友だちや先輩などにつらくてどうしようもないことをされたことがないものが多いが、された時には、心を傷つけられる言葉を言われたり、無視されたり、仲間外れにされた経験を持つものが多い。また、された時に、誰かに相談するか、逆にがまんをしてしまうことが多く、やめてほしいと直接言う場合もある。その際の相談相手としては、親・友だち・担任の先生という身近なものも多く、相談した後はよくなった経験を持つものが多いという傾向がみられる。

7. 子どもがおとなからされたことのある「つらくてどうしようもないこと」

(1) つらくてどうしようもないこと

(小学5年調査(N=718)・中学2年調査(N=481)・16・17歳調査(N=177) [問7]; おとな調査(N=870) [問8])

「おとなから『つらくてどうしようもないこと』をされたことがあるか」(小学5年調査・中学2年調査・16・17歳調査)、「子どもがおとなから『つらくてどうしようもないこと』をされたことがあると思うか」(おとな調査)について複数回答で尋ねた。なお、項目数は、「先生(学校や児童福祉施設の先生)」・「親(保護者)」では6項目、「塾や習い事の先生・監督・コーチ」・「その他のおとな」では5項目(欠如項目:『洗濯や食事の世話をしてもらえなかった』)である。

ア. 先生(学校や児童福祉施設の先生)から

◎調査票別

子どもが、「先生(学校や児童福祉施設の先生)から『つらくてどうしようもないこと』をされたことがあるか」について尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-7-1)。

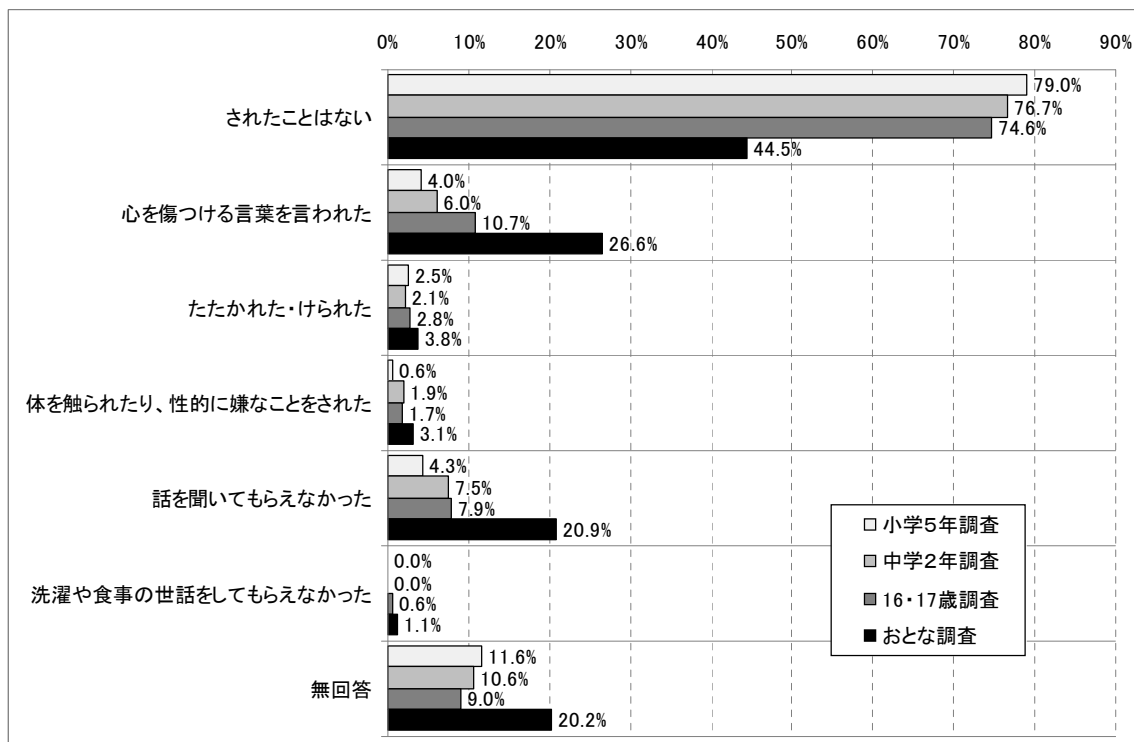
『小学5年調査』における「先生(学校や児童福祉施設の先生)から、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、『されたことはない』・『話を聞いてもらえなかった』・『心を傷つける言葉を言われた』の順であった。なお、『洗濯や食事の世話をしてもらえなかった』が、0.0%であった。

『中学2年調査』における「先生(学校や児童福祉施設の先生)から、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、『されたことはない』・『話を聞いてもらえなかった』・『心を傷つける言葉を言われた』の順であった。なお、『洗濯や食事の世話をしてもらえなかった』が、0.0%であった。

『16・17歳調査』における「先生(学校や児童福祉施設の先生)から、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『話を聞いてもらえなかった』の順であった。

『おとな調査』における「先生(学校や児童福祉施設の先生)から、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『話を聞いてもらえなかった』の順であった。

図表Ⅱ-7-1 調査票別の先生(学校や児童福祉施設の先生)から『つらくてどうしようもないこと』をされたこと



◎自己肯定感(自分のことが好きだ)別

子どもが、「先生(学校や児童福祉施設の先生)から『つらくてどうしようもないこと』をされたことがあるか」について尋ねた結果の自己肯定感(自分のことが好きだ)別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-7-2)。

『小学5年調査』における「先生(学校や児童福祉施設の先生)から、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」「自分のことを好きと思わない」とともに、『されたことは

ない』・『話を聞いてもらえなかった』・『心を傷つけられる言葉を言われた』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とがほぼ同じ割合であった。なお、「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」では『洗濯や食事の世話をしてもらえなかった』が、0.0%であった。

『中学2年調査』における「先生(学校や児童福祉施設の先生)から、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」では、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『話を聞いてもらえなかった』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『されたことはない』・『話を聞いてもらえなかった』・『心を傷つけられる言葉を言われた』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とがほぼ同じ割合であった。なお、「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」では『洗濯や食事の世話をしてもらえなかった』、0.0%であった。

『16・17歳調査』における「先生(学校や児童福祉施設の先生)から、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」では、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『話を聞いてもらえなかった』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた；話を聞いてもらえなかった』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とがほぼ同じ割合であった。なお、「自分のことを好きと思わない」では『体を触られたり、性的に嫌なことをされた』・『洗濯や食事の世話をしてもらえなかった』が、0.0%であった。

『おとな調査』における「先生(学校や児童福祉施設の先生)から、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とともに、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『話を聞いてもらえなかった』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とがほぼ同じ割合であった。

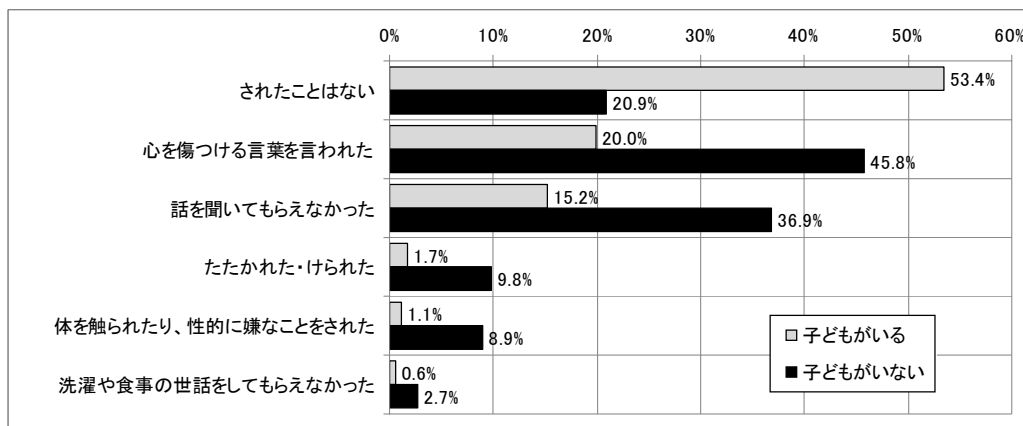
図表Ⅱ-7-2 自己肯定感の(自分のことが好きだ)別先生(学校や児童福祉施設の先生)から『つらくてどうしようもないこと』をされたこと

	小学5年調査		中学2年調査		16・17歳調査		おとな調査	
	好きと思う	好きと思わない	好きと思う	好きと思わない	好きと思う	好きと思わない	好きと思う	好きと思わない
されたことはない	①80.5%	①76.8%	①77.2%	①76.4%	①75.6%	①74.4%	①44.6%	①48.5%
心を傷つける言葉を言われた	③3.6%	③4.6%	②6.0%	③6.0%	②12.8%	②8.9%	②27.2%	②25.4%
たたかれた・けられた	2.8%	1.7%	3.0%	1.7%	3.5%	2.2%	3.8%	4.5%
体を触られたり、性的に嫌なことをされた	0.4%	0.8%	3.0%	1.3%	3.5%	0.0%	3.1%	3.7%
話を聞いてもらえなかった	②4.0%	②5.1%	③4.8%	②9.0%	③7.0%	②8.9%	③21.5%	③20.1%
洗濯や食事の世話をしてもらえなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%	1.3%	0.7%
無回答	10.4%	13.1%	12.6%	9.6%	7.0%	10.0%	18.8%	19.4%
総数	472	237	167	301	86	90	713	134

◎子どもの有無別(『おとな調査』のみ)

子どもが、「先生(学校や児童福祉施設の先生)から『つらくてどうしようもないこと』をされたことがあるか」について尋ねた結果の子どもの有無別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-7-3)。

図表Ⅱ-7-3 子どもの有無別の先生(学校や児童福祉施設の先生)から『つらくてどうしようもないこと』をされたこと



『おとな調査』における「先生(学校や児童福祉施設の先生)から、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、「子どもがいる」「子どもがいる」とともに、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『話を聞いてもらえなかった』の順であった。また、『されたことはない』(いる:53.4%>いない:20.9%)は、「子どもがいる」が「子どもがいない」よりも高い割合であった。逆に、『心を傷つけられる言葉を言われた』(いない:45.8%>いる:20.0%)『話を聞いてもらえなかった』(いない:36.9%>いる:15.2%)は、「子どもがいない」が「子どもがいる」よりも割合が高かった。

イ. 親(保護者)から

◎調査票別

子どもが、「親(保護者)から『つらくてどうしようもないこと』をされたことがあるか」について尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-7-4)。

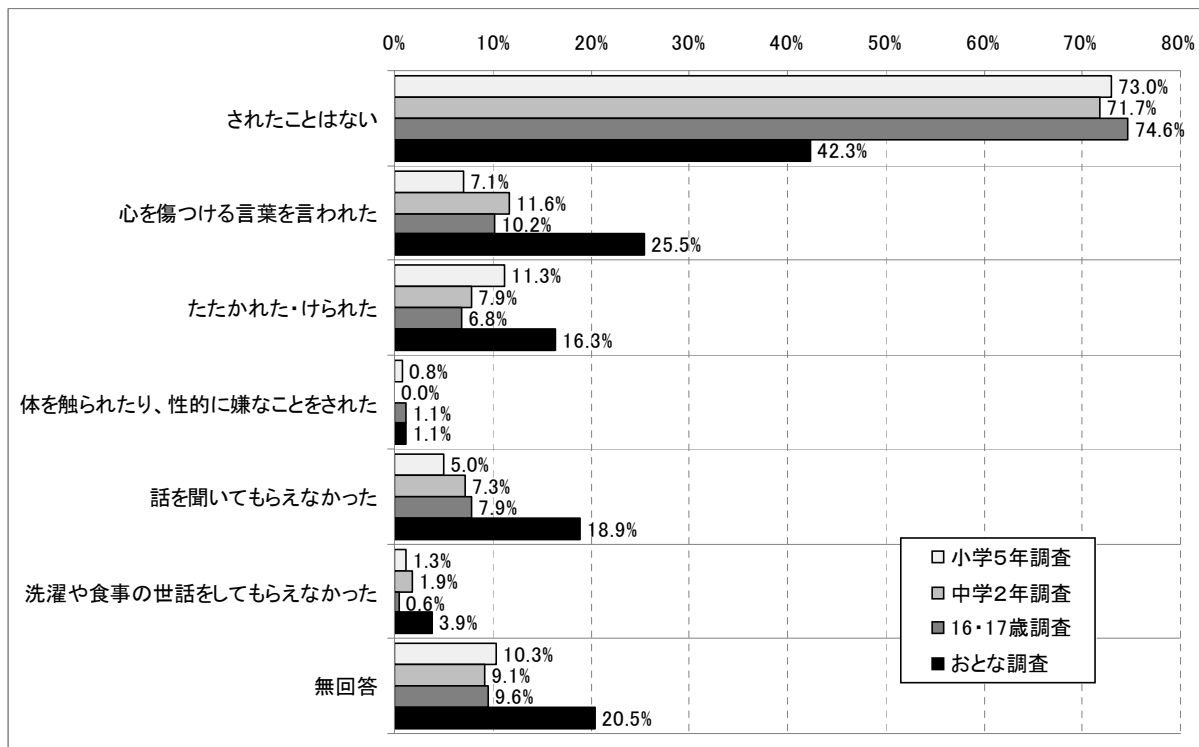
『小学5年調査』における「親(保護者)から、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、『されたことはない』・『たたかれた・けられた』・『話を聞いてもらえなかった』の順であった。

『中学2年調査』における「親(保護者)から、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、『されたことはない』・『心を傷つける言葉を言われた』・『たたかれた・けられた』の順であった。なお、『体を触られたり、性的に嫌なことをされた』が、0.0%であった。

『16・17歳調査』における「親(保護者)から、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、『されたことはない』・『たたかれた・けられた』・『話を聞いてもらえなかった』の順であった。

『おとな調査』における「親(保護者)から、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、『されたことはない』・『たたかれた・けられた』・『話を聞いてもらえなかった』の順であった。

図表Ⅱ-7-4 調査票別の親(保護者)から『つらくてどうしようもないこと』をされたこと



◎自己肯定感(自分のことが好きだ)別

子どもが、「親(保護者)から『つらくてどうしようもないこと』をされたことがあるか」について尋ねた結果の自己肯定感(自分のことが好きだ)別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-7-5)。

『小学5年調査』における「親(保護者)から、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」では、『されたことはない』・『たたかれた・けられた』・『話を聞いてもらえなかった』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では『されたことはない』・『たたかれた・けられた』・『心を傷つけられる言葉を言われた』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とがほぼ同じ割合であった。

『中学2年調査』における「親(保護者)から、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」では、『されたことはない』・『たたかれた・けられた』・『心を傷つけられる言

葉を言われた』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『話を聞いてもらえなかった』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とがほぼ同じ割合であった。なお、「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」では『体を触られたり、性的に嫌なことをされた』が、0.0%であった。

『16・17歳調査』における「親(保護者)から、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」では、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『話を聞いてもらえなかった』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『たたかれた・けられた』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とがほぼ同じ割合であった。なお、「自分のことを好きと思わない」では『洗濯や食事の世話をしてもらえなかった』が、0.0%であった。

『おとな調査』における「親(保護者)から、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」では、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『話を聞いてもらえなかった』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『話を聞いてもらえなかった』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とがほぼ同じ割合であった。

図表Ⅱ-7-5 自己肯定感(自分のことが好きだ)別の親(保護者)から『つらくてどうしようもないこと』をされたこと

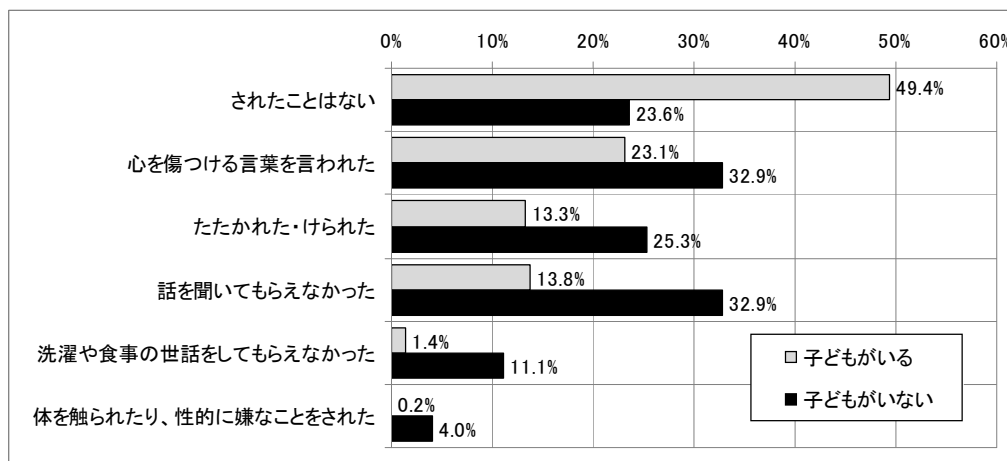
	小学5年調査		中学2年調査		16・17歳調査		おとな調査	
	好きと思う	好きと思わない	好きと思う	好きと思わない	好きと思う	好きと思わない	好きと思う	好きと思わない
されたことはない	①74.8%	①70.0%	①73.1%	①70.8%	①82.6%	①67.8%	①43.1%	①41.8%
心を傷つける言葉を言われた	6.4%	③8.4%	③7.8%	②14.3%	②9.3%	②11.1%	②26.4%	②24.6%
たたかれた・けられた	②10.8%	②11.8%	②8.4%	8.0%	3.5%	③10.0%	16.3%	18.7%
体を触られたり、性的に嫌なことをされた	0.6%	0.8%	0.0%	0.0%	1.2%	1.1%	1.3%	0.7%
話を聞いてもらえなかった	③5.3%	4.2%	3.6%	③9.3%	③8.1%	7.8%	③18.8%	③20.9%
洗濯や食事の世話をしてもらえなかった	1.3%	1.3%	2.4%	1.3%	1.2%	0.0%	3.9%	4.5%
無回答	9.3%	11.8%	10.8%	8.3%	7.0%	11.1%	19.2%	18.7%
総数	472	237	167	301	86	90	713	134

◎子どもの有無別(『おとな調査』のみ)

子どもが、「先生(学校や児童福祉施設の先生)から『つらくてどうしようもないこと』をされたことがあるか」について尋ねた結果の子どもの有無別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-7-6)。

『おとな調査』における「親(保護者)から、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、「子どもがいる」では、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『話を聞いてもらえなかった』の順であった。さらに、「子どもがいる」では、『心を傷つけられる言葉を言われた；話を聞いてもらえなかった』・『たたかれた・けられた』の順であった。また、『されたことはない』(いる:49.4%>いない:23.6%)は、「子どもがいる」が「子どもがいない」よりも高い割合であった。逆に、『心を傷つけられる言葉を言われた』(いない:32.9%>いる:23.1%)・『たたかれた・けられた』(いない:25.3%>いる:13.3%)・『話を聞いてもらえなかった』(いない:32.9%>いる:13.8%)は、「子どもがいない」が「子どもがいる」よりも高い割合であった。

図表Ⅱ-7-6 子どもの有無別の親(保護者)から『つらくてどうしようもないこと』をされたこと



ウ. 塾や習い事の先生・監督・コーチから

◎調査票別

子どもが、「塾や習い事の先生・監督・コーチから『つらくてどうしようもないこと』をされたことがあるか」について尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-7-7)。

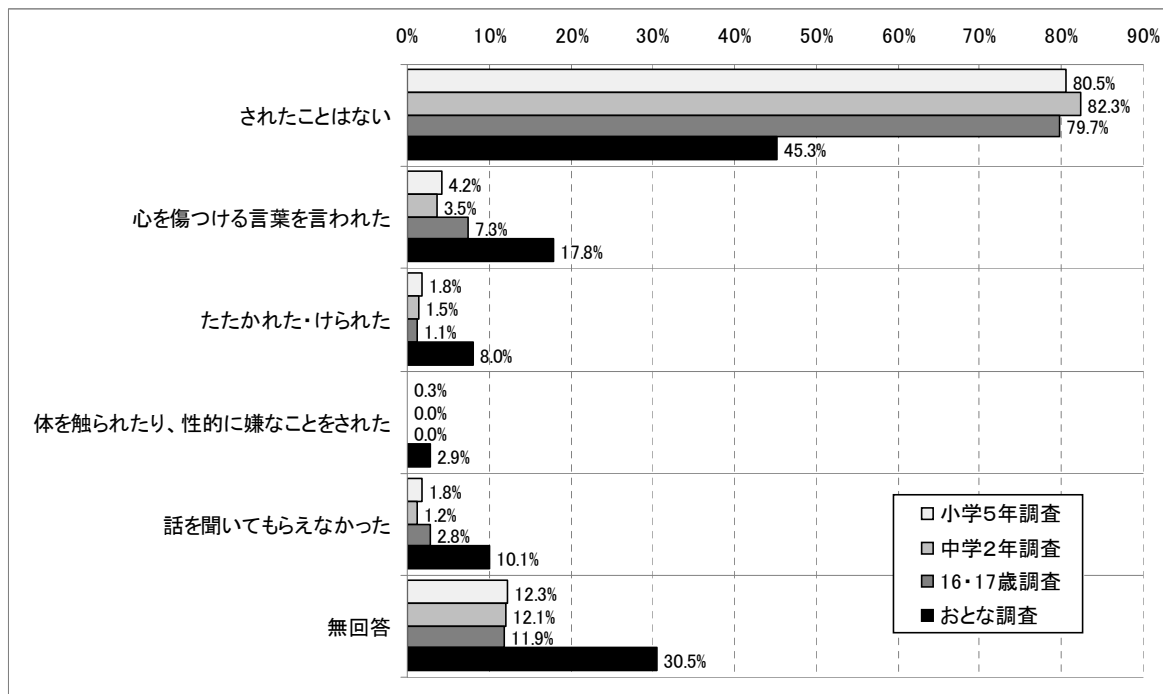
『小学5年調査』における「塾や習い事の先生・監督・コーチから、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、『されたことはない』・『心を傷つける言葉を言われた』・『たたかれた・けられた；話を聞いてもらえなかった』の順であった。

『中学2年調査』における「塾や習い事の先生・監督・コーチから、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、『されたことはない』・『心を傷つける言葉を言われた』・『たたかれた・けられた』の順であった。なお、『体を触られたり、性的に嫌なことをされた』が、0.0%であった。

『16・17歳調査』における「塾や習い事の先生・監督・コーチから、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、『されたことはない』・『心を傷つける言葉を言われた』・『話を聞いてもらえなかった』の順であった。なお、『体を触られたり、性的に嫌なことをされた』が、0.0%であった。

『おとな調査』における「塾や習い事の先生・監督・コーチから、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、『されたことはない』・『心を傷つける言葉を言われた』・『話を聞いてもらえなかった』の順であった。

図表Ⅱ-7-7 調査票別の塾や習い事の先生・監督・コーチから『つらくてどうしようもないこと』をされたこと



◎自己肯定感(自分のことが好きだ)別

子どもが、「塾や習い事の先生・監督・コーチから『つらくてどうしようもないこと』をされたことがあるか」について尋ねた結果の自己肯定感(自分のことが好きだ)別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-7-8)。

『小学5年調査』における「塾や習い事の先生・監督・コーチから、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」では、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『たたかれた・けられた；話を聞いてもらえなかった』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『話を聞いてもらえなかった』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とがほぼ同じ割合であった。

『中学2年調査』における「塾や習い事の先生・監督・コーチから、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」では、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『たたかれた・けられた』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『話を聞いてもらえなかった』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とがほぼ同じ割合であった。なお、「自分のことを好きと思う」では『話を聞いてもらえなかった』が、「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」では『体を触られたり、性的に嫌なことをされた』が、0.0%であった。

『16・17歳調査』における「塾や習い事の先生・監督・コーチから、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とともに、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『たたかれた・けられた』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とがほぼ同じ割合であった。なお、「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」では『体を触られたり、性的に嫌なことをされた』が、0.0%であった。

『おとな調査』における「塾や習い事の先生・監督・コーチから、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とともに、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『話を聞いてもらえなかった』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とがほぼ同じ割合であった。

図表Ⅱ-7-8 自己肯定感(自分のことが好きだ)別の塾や習い事の先生・監督・コーチから『つらくてどうしようもないこと』をされたこと

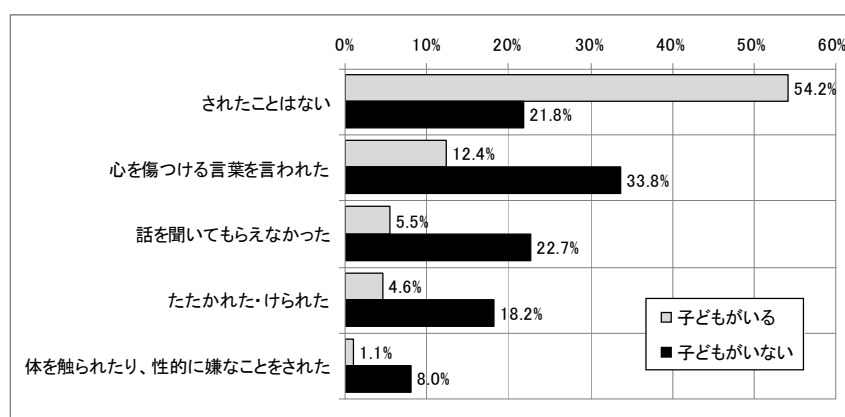
	小学5年調査		中学2年調査		16・17歳調査		おとな調査	
	好きと思う	好きと思わない	好きと思う	好きと思わない	好きと思う	好きと思わない	好きと思う	好きと思わない
されたことはない	①81.4%	①79.7%	①79.6%	①83.4%	①80.2%	①80.0%	①44.9%	①52.2%
心を傷つける言葉を言われた	②4.0%	②4.6%	②4.2%	②3.3%	②7.0%	②7.8%	②18.4%	②15.7%
たたかれた・けられた	③1.5%	2.1%	③1.8%	1.3%	1.2%	1.1%	8.3%	7.5%
体を触られたり、性的に嫌なことをされた	0.2%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	3.0%
話を聞いてもらえなかった	③1.5%	③2.5%	0.0%	③2.0%	③3.5%	③2.2%	③10.2%	③10.4%
無回答	11.7%	12.7%	15.0%	10.6%	11.6%	11.1%	29.7%	27.6%
総数	472	237	167	301	86	90	713	134

◎子どもの有無別(『おとな調査』のみ)

子どもが、「塾や習い事の先生・監督・コーチから『つらくてどうしようもないこと』をされたことがあるか」について尋ねた結果の子どもの有無別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-7-9)。

『おとな調査』における「塾や習い事の先生・監督・コーチから、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、「子どもがいる」では、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『話を聞いてもらえなかった』の順であった。さらに、「子どもがいる」では、『心を傷つけられる言葉を言われた』・『話を聞いてもらえなかった』・『されたことはない』の順であった。また、『されたことはない』(いる:54.2%>いない:21.8%)は、「子どもがいる」が「子どもがいない」よりも高い割合であった。逆に、『心を傷つけられる言葉を言われた』(いない:33.8%>いる:12.4%)・『たたかれた・けられた』(いない:18.2%>いる:4.6%)・『話を聞いてもらえなかった』(いない:22.7%>いる:5.5%)は、「子どもがいない」が「子どもがいる」よりも高い割合であった。

図表Ⅱ-7-9 子どもの有無別の塾や習い事の先生・監督・コーチから『つらくてどうしようもないこと』をされたこと



エ. 其他のおとなから

◎調査票別

子どもが、「其他のおとなから『つらくてどうしようもないこと』をされたことがあるか」について尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-7-10)。

『小学5年調査』における「其他のおとなから、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位

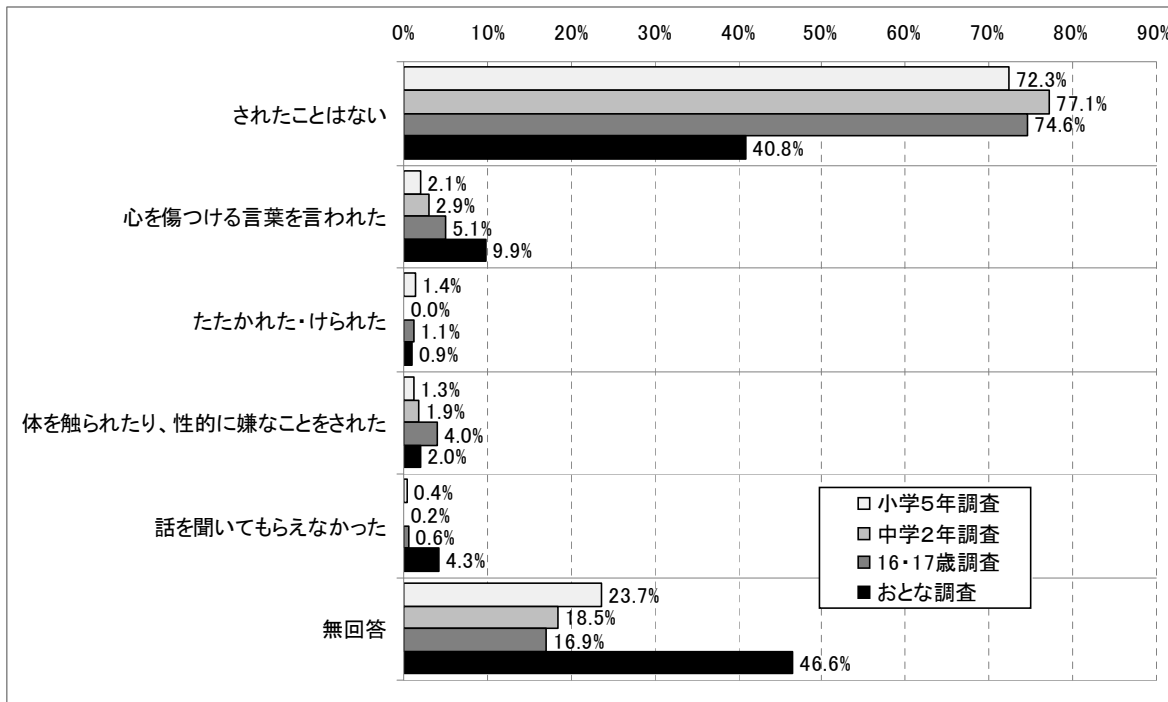
3位は、『されたことはない』・『心を傷つける言葉を言われた』・『たたかれた・けられた；話を聞いてもらえなかった』の順であった。

『中学2年調査』における「その他のおとなから、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、『されたことはない』・『心を傷つける言葉を言われた』・『体を触られたり、性的に嫌なことをされた』の順であった。なお、『たたかれた・けられた』が、0.0%であった。

『16・17歳調査』における「その他のおとなから、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、『されたことはない』・『心を傷つける言葉を言われた』・『体を触られたり、性的に嫌なことをされた』の順であった。

『おとな調査』における「その他のおとなから、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、『されたことはない』・『心を傷つける言葉を言われた』・『話を聞いてもらえなかった』の順であった。

図表Ⅱ-7-10 調査票別のその他のおとなから『つらくてどうしようもないこと』をされたこと



◎自己肯定感(自分のことが好きだ)別

子どもが、「その他のおとなから『つらくてどうしようもないこと』をされたことがあるか」について尋ねた結果の自己肯定感(自分のことが好きだ)別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-7-11)。

『小学5年調査』における「その他のおとなから、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」では、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『体を触られたり、性的に嫌なことをされた』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた；話を聞いてもらえなかった』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とがほぼ同じ割合であった。なお、「自分のことを好きと思わない」では『話を聞いてもらえなかった』が、0.0%であった。

図表Ⅱ-7-11 自己肯定感(自分のことが好きだ)別のその他のおとなから『つらくてどうしようもないこと』をされたこと

	小学5年調査		中学2年調査		16・17歳調査		おとな調査	
	好きと思う	好きと思わない	好きと思う	好きと思わない	好きと思う	好きと思わない	好きと思う	好きと思わない
されたことはない	①73.5%	①70.5%	①77.2%	①77.4%	①74.4%	①75.6%	①41.0%	①44.8%
心を傷つける言葉を言われた	②2.3%	②1.7%	②2.4%	②3.0%	②4.7%	②5.6%	②10.7%	②7.5%
たたかれた・けられた	1.1%	②1.7%	0.0%	0.0%	1.2%	1.1%	0.8%	0.7%
体を触られたり、性的に嫌なことをされた	③1.3%	1.3%	③1.8%	③2.0%	③2.3%	②5.6%	1.7%	③3.7%
話を聞いてもらえなかった	0.6%	0.0%	0.0%	0.3%	1.2%	0.0%	③4.6%	3.0%
無回答	22.7%	25.3%	18.6%	18.3%	18.6%	14.4%	46.0%	43.3%
総数	472	237	167	301	86	90	713	134

『中学2年調査』における「その他のおとなから、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」ともに、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『体を触られたり、性的に嫌なことをされた』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とがほぼ同じ割合であった。なお、「自分のことを好きと思わない」では『話を聞いてもらえなかった』が、「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」では『たたかれた・けられた』が、0.0%であった。

『16・17歳調査』における「その他のおとなから、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」では、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『体を触られたり、性的に嫌なことをされた』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『話を聞いてもらえなかった』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とがほぼ同じ割合であった。なお、「自分のことを好きと思わない」では『話を聞いてもらえなかった』が、0.0%であった。

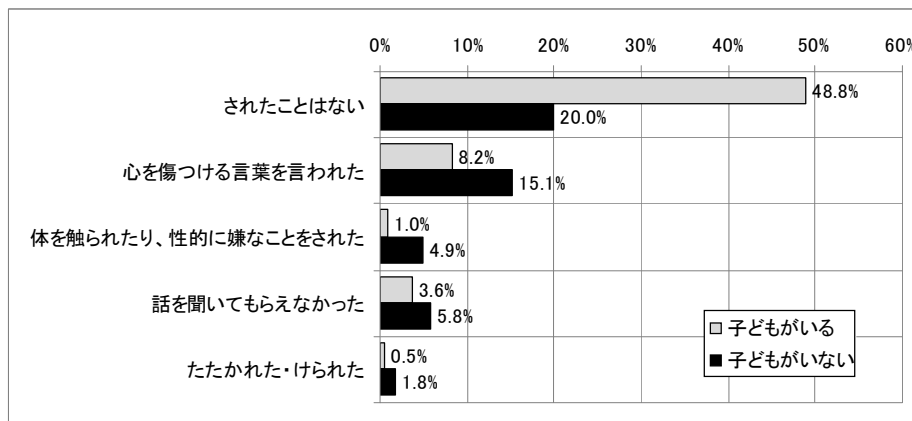
『おとな調査』における「その他のおとなから、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」では、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『話を聞いてもらえなかった』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『体を触られたり、性的に嫌なことをされた』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とがほぼ同じ割合であった。

◎子どもの有無別(『おとな調査』のみ)

子どもが、「その他のおとなから『つらくてどうしようもないこと』をされたことがあるか」について尋ねた結果の子どもの有無別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-7-12)。

『おとな調査』における「その他のおとなから、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、「子どもがいる」と「子どもがいる」ともに、『されたことはない』・『心を傷つけられる言葉を言われた』・『話を聞いてもらえなかった』の順であった。また、『されたことはない』(いる:48.8%>いない:20.0%)は、「子どもがいる」が「子どもがいない」よりも高い割合であった。逆に、『心を傷つけられる言葉を言われた』(いない:15.1%>いる:8.2%)は、「子どもがいない」が「子どもがいる」よりも高い割合であった。

図表Ⅱ-7-12 子どもの有無別のその他のおとなから『つらくてどうしようもないこと』をされたこと



以上から、自己肯定感の強い回答者は、全調査で、どのようなおとなからもつらくてどうしようもないことをされたことはないものが多かった。どうしようもないことをされた場合、『小学5年調査』の自己肯定感の強い回答者は、先生(学校や児童福祉施設の先生)から『話を聞いてもらえなかった』、親(保護者)から『たたかれた・けられた』・『心を傷つける言葉を言われた』・『話を聞いてもらえなかった』、塾や習い事の先生・監督・コーチ、その他のおとなから『心を傷つける言葉を言われた』が多く、自己肯定感の弱い回答者もほぼ同様な傾向であった。『中学2年調査』の自己肯定感の強い回答者は、先生(学校や児童福祉施設の先生)、塾や習い事の先生・監督・コーチ、その他のおとなから『心を傷つける言葉を言われた』、親(保護者)から『心を傷つける言葉を言われた』・『たたかれた・けられた』が多く、また、自己肯定感の弱い回答者では、先生(学校や児童福祉施設の先生)から『話を聞いてもらえなかった』・『心を傷つける言葉を言われた』、親(保護者)から『心を傷つける言葉を言われた』・『話を聞いてもらえなかった』・『たたかれた・けられた』が多く、それ以外からのおとなからは自己肯定感の強い回答者と同様な傾向であった。『16・17歳調査』の自己肯定感の強い回答者は、先生(学校や児童福祉施設の先生)・親(保護者)から『心を傷つける言葉を言われた』・『話を聞いてもらえなかった』、塾や習い事の先生・監督・コーチ、その他のおとなから『心を傷つける言葉を言われた』が多く、また、自己肯定感の弱

い回答者では、親(保護者)から『心を傷つける言葉を言われた』・『話を聞いてもらえなかった』・『たたかれた・けられた』が多く、それ以外からのおとなからは自己肯定感の強い回答者とほぼ同様な傾向であった。『おとな調査』の自己肯定感の強い回答者は、先生(学校や児童福祉施設の先生)から『心を傷つける言葉を言われた』・『話を聞いてもらえなかった』、親(保護者、)塾や習い事の先生・監督・コーチから『心を傷つける言葉を言われた』・『話を聞いてもらえなかった』・『たたかれた・けられた』、その他のおとなから『心を傷つける言葉を言われた』が多く、また、自己肯定感の弱い回答者は、自己肯定感の強い回答者と同様な傾向であった。

よって、自己肯定感の強い回答者の特徴としては、どのようなおとなからもつらくてどうしようもないことをされたことはないが、された場合には、心を傷つける言葉を言われたり、話を聞いてもらえなかったりされることが多く、特に、親(保護者)からは、たたかれた・けられたりという暴力を受けている傾向があった。

(2) 『つらくてどうしようもないこと』をされたときの対応法

(小学5年調査(N=195)・中学2年調査(N=138)・16・17歳調査(N=52) [問7-1])

おとなから『つらくてどうしようもないこと』をされたと回答した対象者に、「『つらくてどうしようもないこと』をされたとき、どうしたか(対応法)」について、複数回答で尋ねた結果、以下のとおりであった。

なお、各調査の項目数は、『小学5年調査』、『中学2年調査』、『16・17歳調査』とも9項目。

◎調査票別

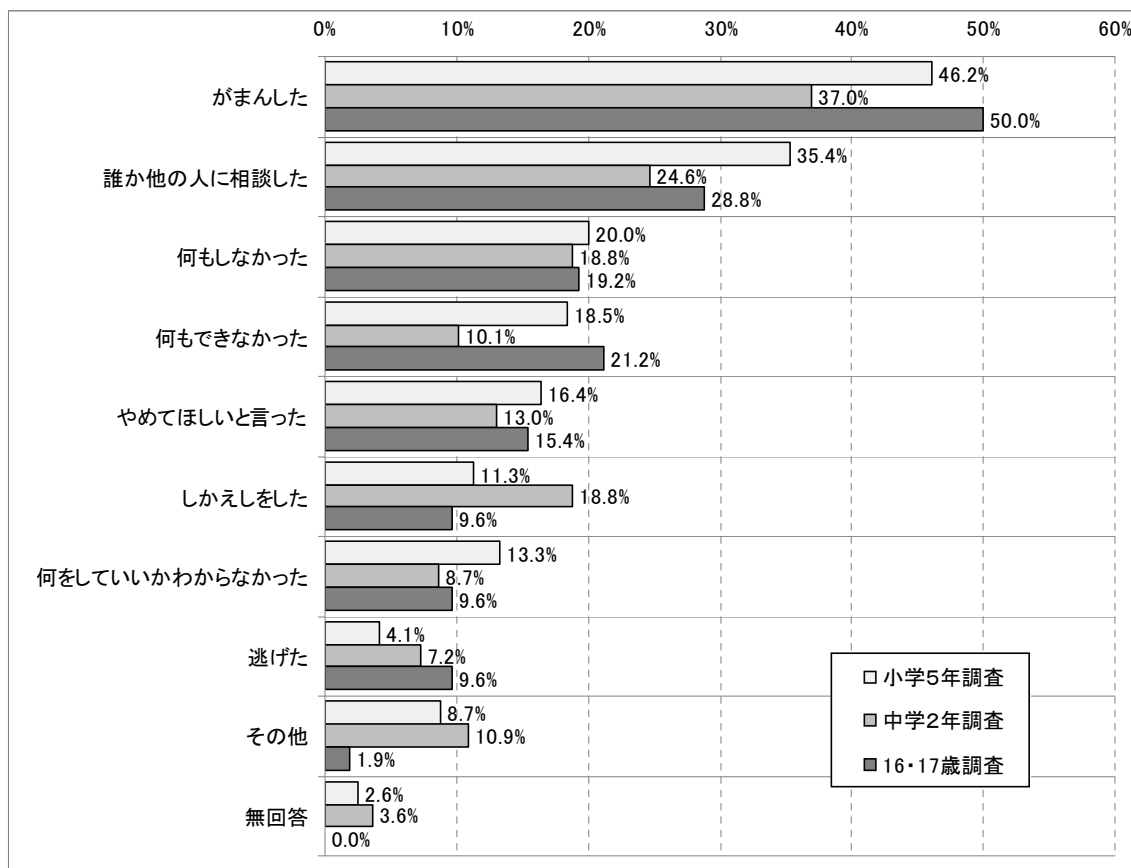
「『つらくてどうしようもないこと』をされたときの対応法」について尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-7-13)。

『小学5年調査』における「『つらくてどうしようもないこと』をされたときの対応法」の上位3位は、『がまんした』・『誰か他の人に相談した』・『何もしなかった』の順であった。

『中学2年調査』における「そのおとなから、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、『がまんした』・『誰か他の人に相談した』・『何もしなかった；しかえしをした』の順であった。

『16・17歳調査』における「そのおとなから、『つらくてどうしようもないこと』をされたこと」の上位3位は、『がまんした』・『誰か他の人に相談した』・『何もできなかった』の順であった。

Ⅱ-7-13 調査票別の『つらくてどうしようもないこと』をされたときの対応法

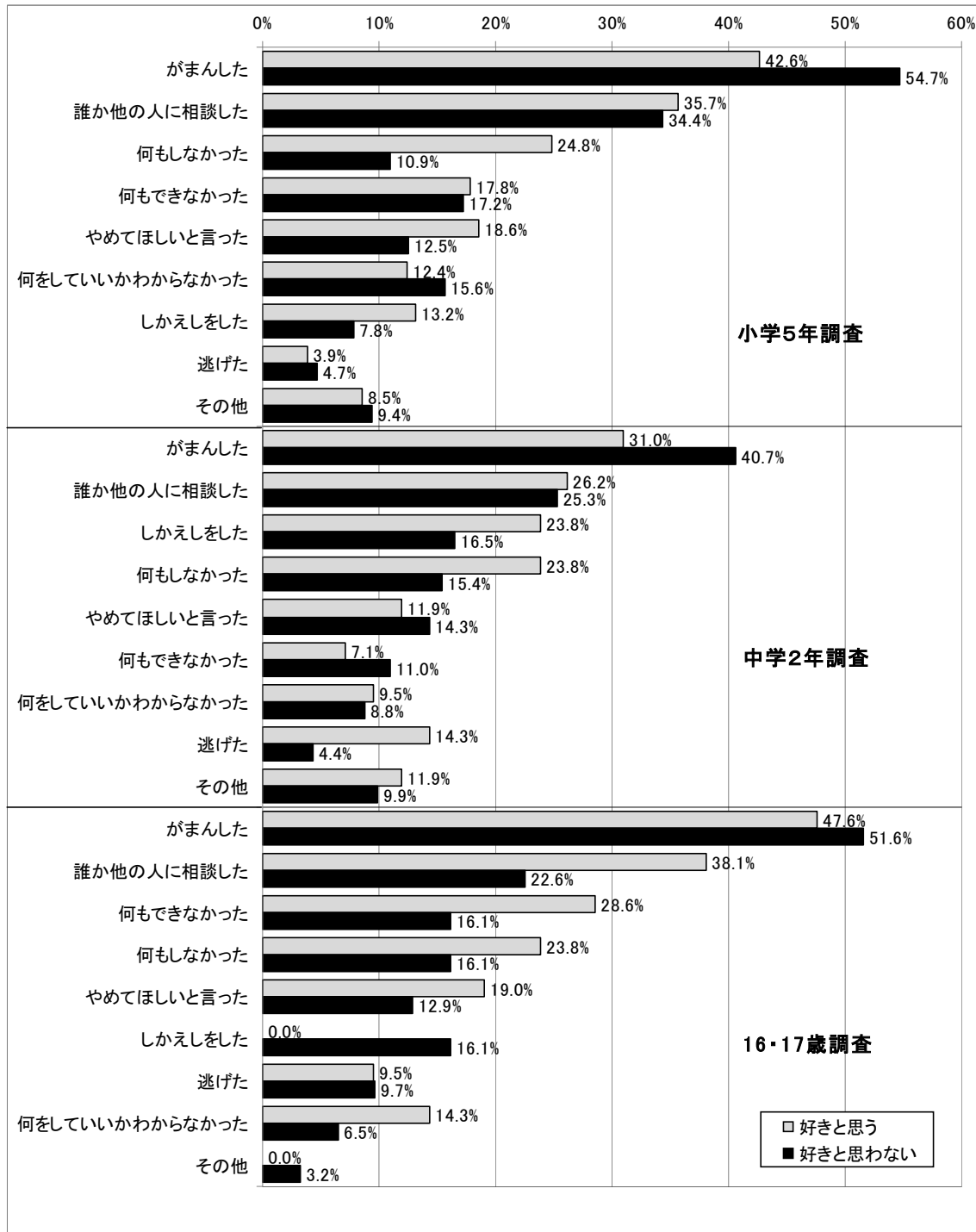


◎自己肯定感(自分のことが好きだ)別

「『つらくてどうしようもないこと』をされたときの対応法」について尋ねた結果の自己肯定感(自分のことが好きだ)別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-7-14)。

『小学5年調査』における「『つらくてどうしようもないこと』をされたときの対応法」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」では、『がまんした』・『誰か他の人に相談した』・『何もしなかった』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『がまんした』・『何もできなかった』・『何をしていたかわからなかった』の順であった。また、『何もしなかった』(思う:24.8%>思わない:10.9%)では、「自分のことを好きと思う」が「自分のことを好きと思わない」より割合が高かった。逆に、『がまんした』(思わない:54.7%>思う:42.6%)では、「自分のことを好きと思わない」が「自分のことを好きと思う」よりも割合が高かった。

Ⅱ-7-14 自己肯定感(自分のことが好きだ)別別の『つらくてどうしようもないこと』をされたときの対応法



『中学2年調査』における「『つらくてどうしようもないこと』をされたときの対応法」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」では、『がまんした』・『誰か他の人に相談した』・『しかえしをした』・『何もし

なかった』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『がまんした』・『誰か他の人に相談した』・『しかえしをした』の順であった。また、『がまんした』（思わない:40.7%>思う:31.0%）では、「自分のことを好きと思わない」が「自分のことを好きと思う」よりも割合が高かった。

『16・17歳調査』における「『つらくてどうしようもないこと』をされたときの対応法」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」では、『がまんした』・『誰か他の人に相談した』・『何もできなかった』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『がまんした』・『誰か他の人に相談した』・『しかえしをした・何もしなかった・何もできなかった』の順であった。また、『誰か他の人に相談した』（思う:38.1%>思わない:22.6%）・『何もできなかった』（思う:28.6%>思わない:16.1%）では、「自分のことを好きと思う」が「自分のことを好きと思わない」よりも割合が高かった。逆に、『がまんした』（思わない:51.6%>思う:47.6%）・『しかえしをした』（思わない:16.1%>思う:0.0%）では、「自分のことを好きと思わない」が「自分のことを好きと思う」よりも割合が高かった。なお、「自分のことを好きと思う」では『しかえしをした』・『その他』が、0.0%であった。

以上から、自己肯定感の強い回答者としては、全調査ともつらくてどうしようもないことをされたときの対応法として「がまんした」・「誰か他の人に相談した」が多く、自己肯定感の弱い回答者も同じ傾向であった。それ以外の対応法では、『小学5年調査』では、自己肯定感の強い回答者では「何もしなかった」、自己肯定感の弱い回答者では「何もできなかった」が多く、『中学2年調査』では、「しかえしをした」がどちらの回答者にも多く、自己肯定感の強い回答では「何もしなかった」が多く、『16・17歳調査』、「何もできなかった」がどちらの回答者にも多く、自己肯定感の弱い回答では「何もしなかった」・「しかえしをした」が多かった。

よって、自己肯定感の強い回答者の特徴としては、つらくてどうしようもないことをされたときに、がまんしたか、誰か他の人に相談したものが多く、それ以外では何もできなったり、何もしなかったりという消極的対応法をとつたり、しかえしをするという対応法をとるものもいる。

(3)相談相手・相談場所(小学5年調査(N=69)・中学2年調査(N=34)・16・17歳調査(N=15) [問7-2])

おとなから『つらくてどうしようもないこと』をされたときに、誰か他の人に相談したと回答した対象者に、「誰に・どこに相談したか」について、複数回答で尋ねた。なお、各調査の項目数は、『小学5年調査』では16項目(欠如項目:『職場の同僚』『職場の上司』)、『中学2年調査』では16項目(欠如項目:『職場の同僚』『職場の上司』)、『16・17歳調査』では19項目である。

◎調査票別

「相談相手・相談場所」について尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-7-15)。

『小学5年調査』における「相談相手・相談場所」の上位5位は、『親』・『友達』・『祖父母』・『兄弟姉妹』・『担任の先生』の順であった。なお、『保健室の先生』・『メールで相談できる場所』・『学校・職場内の相談員(スクールカウンセラーなど)』が、0.0%であった。

『中学2年調査』における「相談相手・相談場所」の上位5位は、『友達』・『親』・『兄弟姉妹』・『祖父母・担任の先生;先輩;習いごとの先生、スポーツクラブの監督・コーチ、塾の先生』の順であった。なお、『住んでいる地域の知り合いの人』・『児童館の職員』・『電話で相談できる場所』・『直接会って話を聞いてくれる相談窓口』・『学校・職場内の相談員(スクールカウンセラーなど)』が、0.0%であった。

『16・17歳調査』における「相談相手・相談場所」の上位5位は、『友達』・『親』・『インターネット掲示板;保健室の先生;その他』の順であった。なお、『習いごとの先生、スポーツクラブの監督・コーチ、塾の先生』・『住んでいる地域の知り合いの人』・『児童館の職員』・『電話で相談できる場所』・『直接会って話を聞いてくれる相談窓口』・『学校・職場内の相談員(スクールカウンセラーなど)』・『職場の同僚』・『職場の上司』が、0.0%であった。

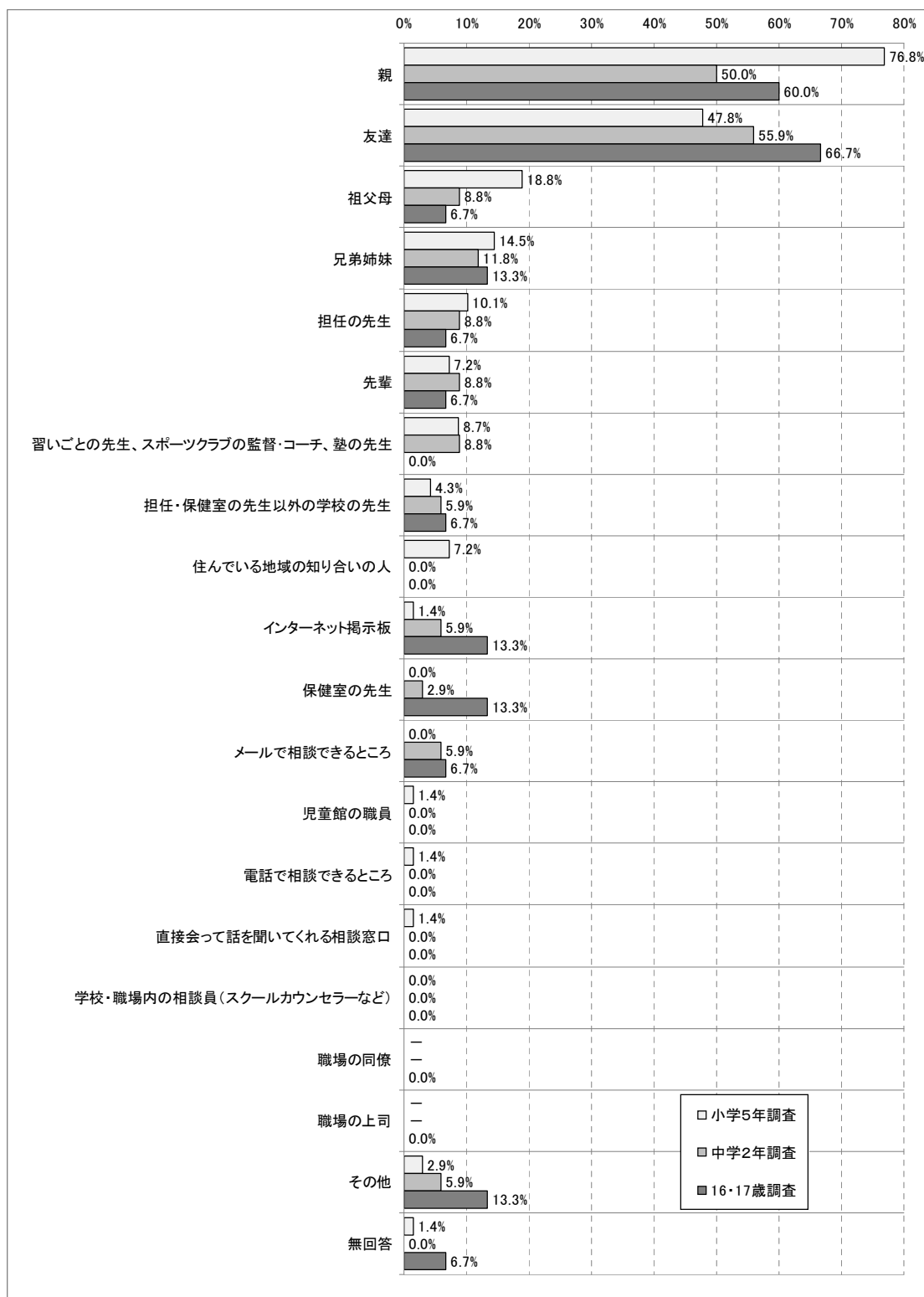
◎自己肯定感(自分のことが好きだ)別

「相談相手・相談場所」について尋ねた結果の自己肯定感(自分のことが好きだ)別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-7-16)。

『小学5年調査』における「相談相手・相談場所」の上位5位は、「自分のことを好きと思う」では、『親』・『友達』・『祖父母』・『兄弟姉妹;担任の先生』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『親』・『友達』・『兄弟姉妹』・『祖父母』・『先輩』の順であった。また、『親』（思う:82.6%>思わない:68.2%）・『友達』（思う:54.3%>思わない:36.4%）では、「自分のことを好きと思う」が「自分のことを好きと思わない」よりも割合が高かった。逆に、『兄弟姉妹』（思わない:22.7%>思う:10.9%）では、「自分のことを好きと思わない」が「自分のことを好きと思う」よりも割合が高かった。なお、「自分のことを

好きと思う」では『電話で相談できるところ』・『その他』が、「自分のことを好きと思わない」では『担任・保健室の先生以外の学校の先生』・『インターネット掲示板』・『児童館の職員』・『直接会って話を聞いてくれる相談窓口』が、「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」では『保健室の先生』・『学校・職場内の相談員(スクールカウンセラーなど)』が、0.0%であった。

Ⅱ-7-15 調査票別の相談相手・相談場所



『中学2年調査』における「相談相手・相談場所」の上位5位は、「自分のことを好きと思う」では、『親』・『友達』・『祖父母；兄弟姉妹；先輩』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『友達』・『親』・『担任の先生』・『兄弟姉妹；習いごとの先生、スポーツクラブの監督・コーチ、塾の先生；担任・保健室の先生以外の学校の先生；インターネット掲示板；メールで相談できるところ』の順であった。また、『親』（思う：72.7%>思わない：39.1%）・『祖父母』（思う：18.2%>思わない：4.3%）・『先輩』（思う：18.2%>思わない：4.3%）

では、「自分のことを好きと思う」が「自分のことを好きと思わない」よりも割合が高かった。逆に、『友達』（思わない:60.9%>思う:45.5%）『担任の先生』（思わない:13.0%>思う:0.0%）では、「自分のことを好きと思わない」が「自分のことを好きと思う」よりも割合が高かった。なお、「自分のことを好きと思う」では『担任の先生』・『担任・保健室の先生以外の学校の先生』・『インターネット掲示板』・『保健室の先生』・『メールで相談できる場所』が、「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」では『住んでいる地域の知り合いの人』・『児童館の職員』・『電話で相談できる場所』・『直接会って話を聞いてくれる相談窓口』・『学校・職場内の相談員（スクールカウンセラーなど）』が、0.0%であった。

『16・17歳調査』における「相談相手・相談場所」の上位5位は、「自分のことを好きと思う」では、『親』・『友達』・『インターネット掲示板』・『祖父母；担任・保健室の先生以外の学校の先生；保健室の先生；メールで相談できる場所；その他』の順であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『友達』・『親』・『兄弟姉妹』・『担任の先生；先輩；保健室の先生；その他』の順であった。また、『親』（思う:75.0%>思わない:42.9%）・『インターネット掲示板』（思う:25.0%>思わない:0.0%）・『祖父母』（思う:12.5%>思わない:0.0%）・『担任・保健室の先生以外の学校の先生』（思う:12.5%>思わない:0.0%）・『メールで相談できる場所』（思う:12.5%>思わない:0.0%）では、「自分のことを好きと思う」が「自分のことを好きと思わない」よりも割合が高かった。逆に、『友達』（思わない:85.7%>思う:50.0%）・『兄弟姉妹』（思わない:28.6%>思う:0.0%）・『担任の先生』（思わない:14.3%>思う:0.0%）・『先輩』（思わない:14.3%>思う:0.0%）では、「自分のことを好きと思わない」が「自分のことを好きと思う」よりも割合が高かった。なお、「自分のことを好きと思う」では『兄弟姉妹』・『担任の先生』・『先輩』が、「自分のことを好きと思わない」では『祖父母』・『担任・保健室の先生以外の学校の先生』・『インターネット掲示板』・『メールで相談できる場所』が、「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」では『習いごとの先生、スポーツクラブの監督・コーチ、塾の先生』・『住んでいる地域の知り合いの人』・『児童館の職員』・『電話で相談できる場所』・『直接会って話を聞いてくれる相談窓口』・『学校・職場内の相談員（スクールカウンセラーなど）』・『職場の同僚』・『職場の上司』が、0.0%であった。

Ⅱ-7-16 自己肯定感(自分のことが好きだ)別の相談相手・相談場所

	小学5年調査		中学2年調査		16・17歳調査	
	好きと思う	好きと思わない	好きと思う	好きと思わない	好きと思う	好きと思わない
親	①82.6%	> ①68.2%	①72.7%	> ②39.1%	①75.0%	> ②42.9%
友達	②54.3%	> ②36.4%	②45.5%	< ①60.9%	②50.0%	< ①85.7%
祖父母	③17.4%	④18.2%	③18.2%	> 4.3%	④12.5%	> 0.0%
兄弟姉妹	④10.9%	< ③22.7%	③18.2%	④8.7%	0.0%	< ③28.6%
担任の先生	④10.9%	9.1%	0.0%	< ③13.0%	0.0%	< ④14.3%
先輩	4.3%	⑤13.6%	③18.2%	> 4.3%	0.0%	< ④14.3%
習いごとの先生、スポーツクラブの監督・コーチ、塾の先生	8.7%	9.1%	9.1%	④8.7%	0.0%	0.0%
担任・保健室の先生以外の学校の先生	6.5%	0.0%	0.0%	④8.7%	④12.5%	> 0.0%
インターネット掲示板	2.2%	0.0%	0.0%	④8.7%	③25.0%	> 0.0%
住んでいる地域の知り合いの人	6.5%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
保健室の先生	0.0%	0.0%	0.0%	4.3%	④12.5%	④14.3%
メールで相談できる場所			0.0%	④8.7%	④12.5%	> 0.0%
児童館の職員	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
学校・職場内の相談員（スクールカウンセラーなど）	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
電話で相談できる場所	0.0%	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
直接会って話を聞いてくれる相談窓口	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
職場の同僚	-	-	-	-	0.0%	0.0%
職場の上司	-	-	-	-	0.0%	0.0%
その他	0.0%	9.1%	9.1%	4.3%	④12.5%	④14.3%
総数	46	22	11	23	8	7

以上から、自己肯定感の強い回答者は、全調査とも、相談相手・相談場所として「親」・「友だち」とするものが多く、自己肯定感の弱い回答者も同じ傾向であった。それ以外の相談相手・相談場所としては、『小学5年調査』の自己肯定感の強い回答者では「祖父母」、自己肯定感の弱い回答者では「兄弟姉妹」が多く、『中学2年調査』の自己肯定感の強い回答者では「祖父母」・「兄弟姉妹」・「先輩」、自己肯定感の弱い回答者では「兄弟姉妹」が多く、『16・17歳調査』の自己肯定感の強い回答者では「インターネット掲示板」、自己肯定感の弱い回答者では「兄弟姉妹」が多かった。

よって、相談相手・相談場所の自己肯定感の強い回答者の特徴としては、親や友人が基本で、祖父母や兄弟姉妹などの家族、さらに、年齢を経るとインターネットの掲示板へと変わってくる傾向がみられる。

(4)相談してよくなったか(小学5年調査(N=69)・中学2年調査(N=34)・16・17歳調査(N=15) [問7-3])

おとなから『つらくてどうしようもないこと』をされたときに、誰か他の人に相談したと回答した対象者に、「相談してよくなったのか」について、『よくなった』・『少し良くなった』・『変わらなかった』・『かえって悪くなった』・『よくなったことも悪くなったこともある』・『その他』の6項目で尋ねた。

◎調査票別

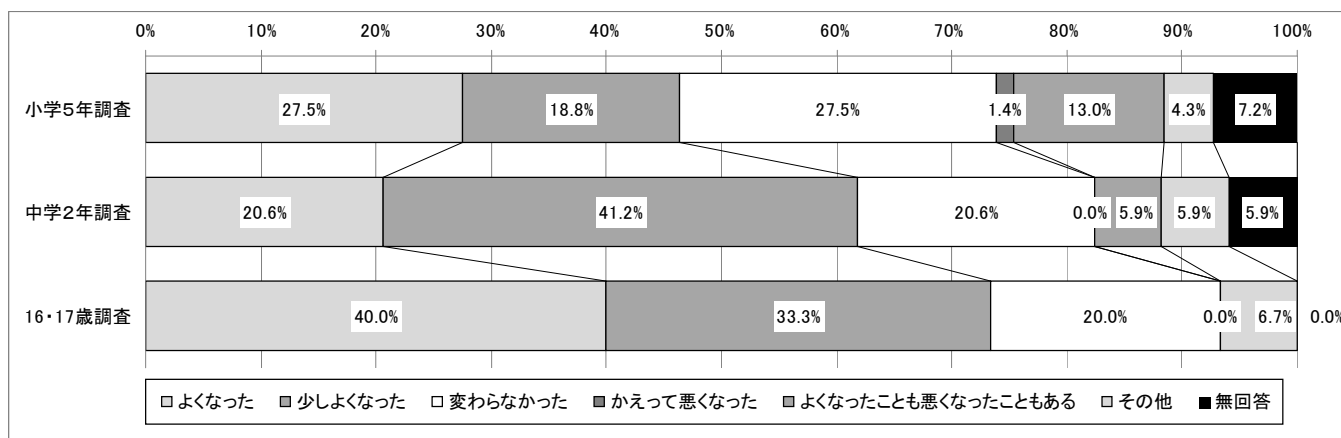
「相談してよくなったか」について尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-7-17)。

『小学5年調査』では、相談して『よくなった』(27.5%)と『少し良くなった』(18.8%)が46.3%で、相談してよくなった割合が高いが、逆に『かえって悪くなった』が1.4%、さらに『変わらなかった』が27.5%、『よくなったことも悪くなったこともある』が13.0%などであった。

『中学2年調査』では、相談して『よくなった』(20.6%)と『少し良くなった』(41.2%)が61.8%で、相談してよくなった割合が高いが、逆に『かえって悪くなった』が1.4%、さらに『変わらなかった』が20.6%、『よくなったことも悪くなったこともある』が13.0%などであった。なお、『かえって悪くなった』が、0.0%であった。

『16・17歳調査』では、相談して『よくなった』(40.0%)と『少し良くなった』(33.3%)が73.3%で、相談してよくなった割合が高いが、逆に『かえって悪くなった』(0.0%)はおらず、さらに『変わらなかった』が20.0%、『よくなったことも悪くなったこともある』が0.0%などであった。なお、『かえって悪くなった』・『よくなったことも悪くなったこともある』が、0.0%であった。

Ⅱ-7-17 調査票別の相談してよくなったか



◎自己肯定感(自分のことが好きだ)別

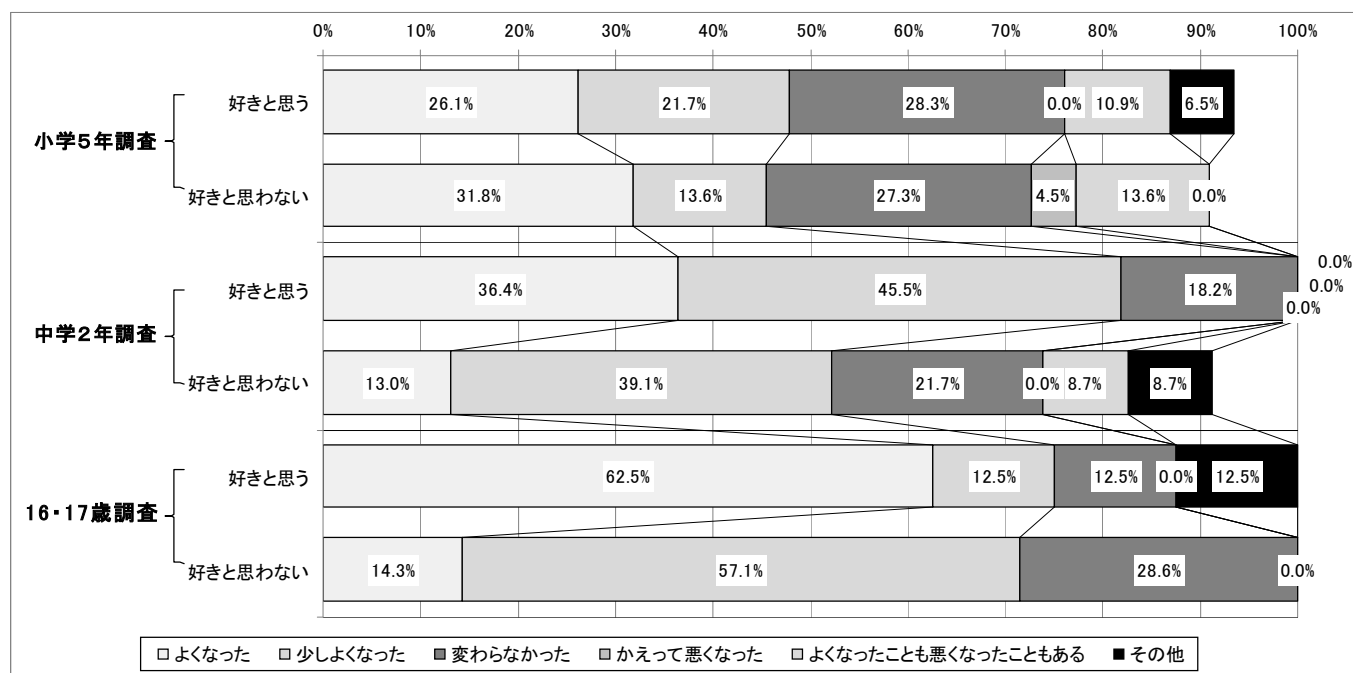
「相談してよくなったか」について尋ねた結果の自己肯定感(自分のことが好きだ)別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-7-18)。

『小学5年調査』における「相談してよくなったか」については、「自分のことを好きと思う」では、『よくなった』(26.1%)と『少し良くなった』(21.7%)が47.8%で相談して良かったと思う割合が高いが、逆に『かえって悪くなった』(0.0%)はおらず、また『変わらなかった』が28.3%、『よくなったことも悪くなったことも』が10.9%などであった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『よくなった』(31.8%)と『少し良くなった』(13.6%)が45.4%で相談して良かったと思う割合が高いが、逆に『かえって悪くなった』が4.5%、また『変わらなかった』が27.3%、『よくなったことも悪くなったことも』(0.0%)はいなかった。

『中学2年調査』における「相談してよくなったか」については、「自分のことを好きと思う」では、『よくなった』(36.4%)と『少し良くなった』(45.5%)が81.9%で相談して良かったと思う割合が高いが、逆に『かえって悪くなった』(0.0%)はおらず、また『変わらなかった』が18.2%、『よくなったことも悪くなったことも』(0.0%)はいなかった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『よくなった』(13.0%)と『少し良くなった』(39.1%)が52.1%で相談して良かったと思う割合が高いが、逆に『かえって悪くなった』(0.0%)はおらず、また『変わらなかった』が21.7%、『よくなったことも悪くなったことも』が8.7%などであった。

『16・17歳調査』における「相談してよくなったか」については、「自分のことを好きと思う」では、『よくなった』(62.5%)と『少し良くなった』(12.5%)が75.0%で相談して良かったと思う割合が高いが、逆に『かえって悪くなった』(0.0%)はおらず、また『変わらなかった』が12.5%、『よくなったことも悪くなったことも』(0.0%)はいなかった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『よくなった』(14.3%)と『少し良くなった』(57.1%)が71.4%で相談して良かったと思う割合が高いが、逆に『かえって悪くなった』(0.0%)はおらず、また『変わらなかった』が28.6%、『よくなったことも悪くなったことも』(0.0%)はいなかった。

Ⅱ-7-18 自己肯定感(自分のことが好きだ)別の相談してよくなったか



以上から、自己肯定感の強い回答者は、全調査とも、相談してよくなったが最も多いが、相談しても変わらなかったものも多く、この傾向は、自己肯定感の弱い回答者でも同じであった。

これらのことから、自己肯定感の強い回答者の特徴としては、おとなからもつらくてどうしようもないことをされたことは少なく、された場合には、心を傷つける言葉を言われたり、話を聞いてもらえなかったりされ、ときには、親(保護者)からたたかれた・けられたりという暴力を受けている。そのときの対応法として、がまんするか、誰か他の人に相談もしてはいるが、何もできなかつたり、何もしなかつたりという消極的対応法をとるものもあり、またしかえしをするものもいる。さらに、相談相手・相談場所としては、親や友人が基本で、年齢を経ると祖父母や兄弟姉妹などの家族、インターネットの掲示板へと変わってくる。相談してよくなったと感じているが、なかには、相談しても変わらなかったものもいる。

8. 子どもをたたくことがあるか

(1)子どもをたたいたことの有無(おとな調査(N=870) [問9])

「子どもをたたくことがあるか」の有無について『よくある』・『たまにある』・『ない』の3段階で『おとな調査』のみで尋ねた。

◎調査票別

「子どもをたたくことがあるか」について尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-8-1)。

『おとな調査』における「子どもをたたくことがあるか」の有無は、『よくある』が1.0%、『たまにある』が29.4%で、30.4%が子どもをたたくことがあり、『ない』が63.0%であった。

◎自己肯定感(自分のことが好きだ)別

「子どもをたたくことがあるか」について尋ねた結果の自己肯定感(自分のことが好きだ)別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-8-1)。

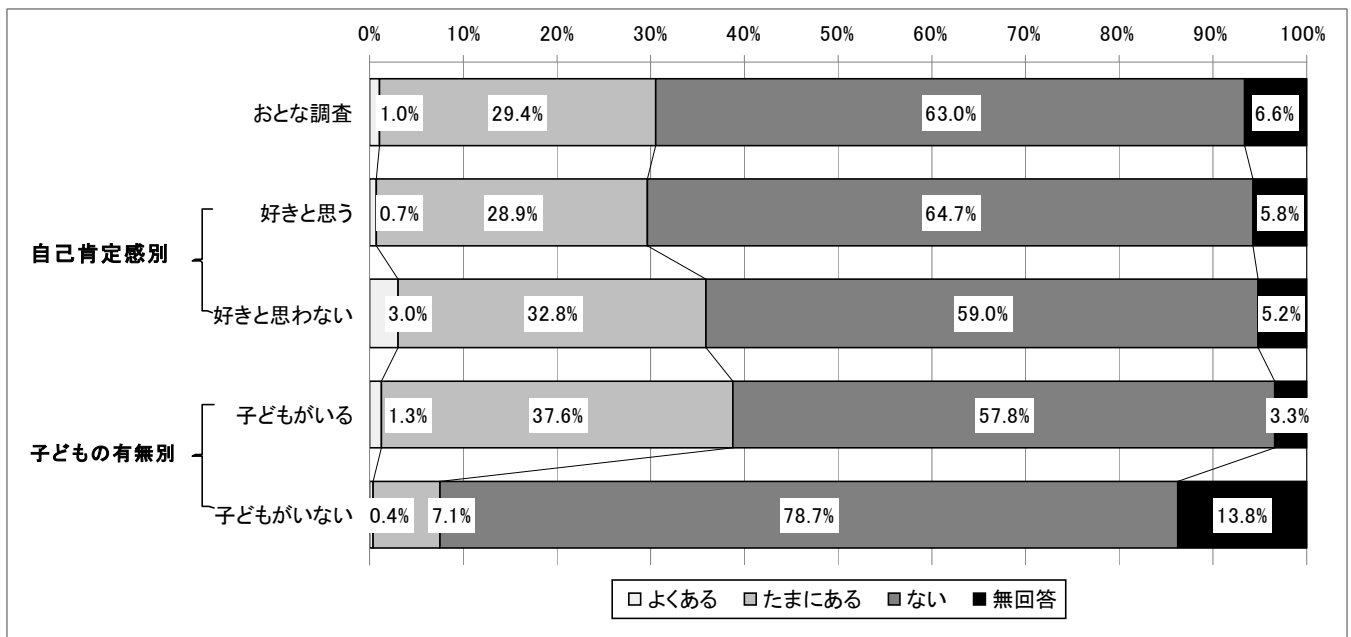
『おとな調査』における「子どもをたたくことがあるか」の有無については、「自分のことを好きと思う」では、『よくある』(0.7%)と『たまにある』(28.9%)が29.6%子どもをたたくことがあり、『ない』が64.7%であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『よくある』(3.0%)と『たまにある』(32.8%)が35.8%子どもをたたくことがあり、『ない』が59.0%であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とがほぼ同じ割合であった。

◎子どもの有無別(『おとな調査』のみ)

「子どもをたたくことがあるか」について尋ねた結果の子どもの有無別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-8-1)。

『おとな調査』における「子どもをたたくことがあるか」の有無については、「子どもがいる」では、『よくある』(1.3%)と『たまにある』(37.6%)が38.9%子どもをたたくことがあり、『ない』が57.8%であった。さらに、「子どもがいない」では、『よくある』(0.4%)と『たまにある』(7.1%)が7.5%子どもをたたくことがあり、『ない』が78.7%であった。

図表Ⅱ-8-1 調査票別・自己肯定感(自分のことが好きだ)別・子どもの有無別の子どもをたたいたことの有無



(2) たたく理由(おとな調査(N=265) [問9-1])

「子どもをたたくことがある」と回答した対象者に、「子どもをたたく理由」(9項目)について複数回答で尋ねた。

◎調査票別

「子どもをたたく理由」について尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-8-2)。

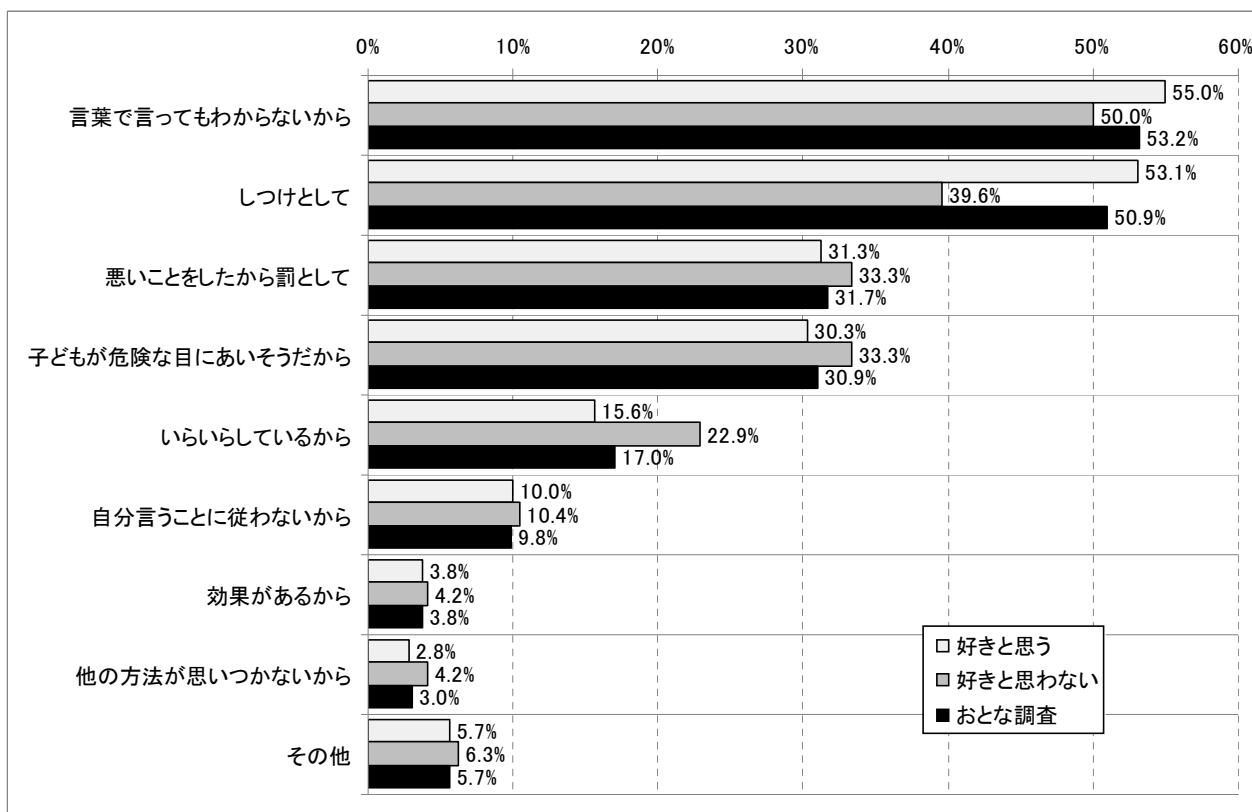
『おとな調査』における「子どもをたたく理由」の上位3位は、『言葉で言ってもわからないから』・『しつけとして』・『悪いことをしたから罰として』の順であった。

◎自己肯定感(自分のことが好きだ)別

「子どもをたたく理由」について尋ねた結果の自己肯定感(自分のことが好きだ)別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-8-2)。

『おとな調査』における「子どもをたたく理由」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とともに、『言葉で言ってもわからないから』・『しつけとして』・『悪いことをしたから罰として』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とがほぼ同じ割合であった。

図表Ⅱ-8-2 調査票・自己肯定感(自分のことが好きだ)別の子どもをたたく理由

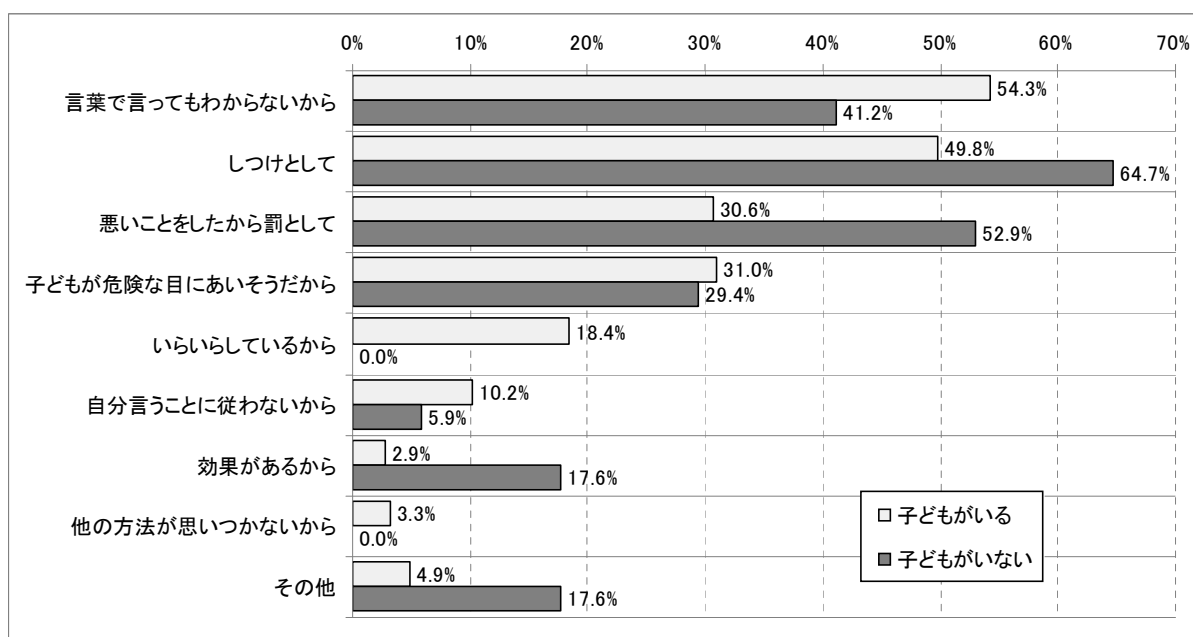


◎子どもの有無別(『おとな調査』のみ)

「子どもをたたく理由」について尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-8-3)。

『おとな調査』における「子どもをたたく理由」の上位3位は、「子どもがいる」では、『言葉で言ってもわからないから』・『しつけとして』・『悪いことをしたから罰として』の順であった。さらに、「子どもがいる」では、『しつけとして』・『悪いことをしたから罰として』・『言葉で言ってもわからないから』の順であった。また、『言葉で言ってもわからないから』(いる:54.3%>いない:41.2%)・『いらいらしているから』(いる:18.4%>いない:0.0%)は、「子どもがいる」が「子どもがいない」よりも高い割合であった。逆に、『しつけとして』(いない:64.7%>いる:49.8%)・『悪いことをしたから罰として』(いない:52.9%>いる:30.6%)・『効果があるから』(いない:17.6%>いる:2.9%)・『その他』(いない:17.6%>いる:4.9%)は、「子どもがいない」が「子どもがいる」よりも高い割合であった。なお、「子どもがいない」では『いらいらしているから』・『他の方法が思いつかないから』が、0.0%であった。

図表Ⅱ－８－３ 子どもの有無別の子どもをたたく理由



以上から、自己肯定感の強い回答者は、子どもをたたくことがないものが多く、自己概念の弱い回答者も同じ傾向であった。また、子どもをたたく理由としては、自己肯定感の強い回答者も弱い回答者も「言葉で言ってもわからないから」「しつけとして」「悪いことをしたから罰として」が多く、自己肯定感の弱い回答者では、「子どもが危険な目にあいそうだから」が多かった。

よって、自己肯定感の強い回答者の特徴としては、子どもをたたくことは少ないが、言葉で言ってもわからなかったり、しつけのため、悪いことをしたから罰としてたたく傾向が見られる。

9. 子どもを大声でしかるか

(1)大声でしかることの有無(おとな調査(N=870) [問10])

「子どもを大声でしかることがあるか」の有無について『よくある』・『たまにある』・『ない』の3段階で『おとな調査』で尋ねた。

◎調査票別

「子どもを大声でしかることがあるか」について尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-9-1)。

『おとな調査』における「子どもを大声でしかることがあるか」の有無は、『よくある』が8.7%、『たまにある』が49.2%で、58.0%が子どもを大声でしかることがあり、『ない』が35.6%であった。

◎自己肯定感(自分のことが好きだ)別

「子どもを大声でしかることがあるか」について尋ねた結果の自己肯定感(自分のことが好きだ)別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-9-1)。

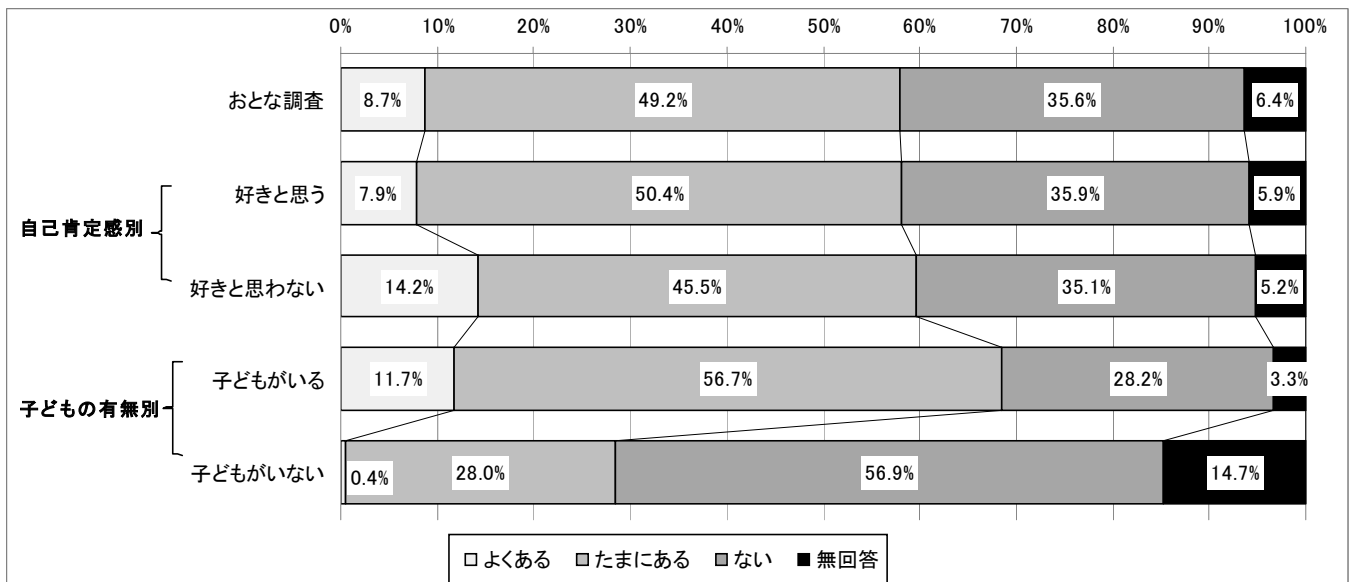
『おとな調査』における「子どもを大声でしかることがあるか」の有無については、「自分のことを好きと思う」では、『よくある』(7.9%)と『たまにある』(50.4%)が58.3%で子どもを大声でしかることがあり、『ない』が35.9%であった。さらに、「自分のことを好きと思わない」では、『よくある』(14.2%)と『たまにある』(45.5%)が59.7%で、子どもを大声でしかることがあり、『ない』が35.1%であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とがほぼ同じ割合であった。

◎子どもの有無別(『おとな調査』のみ)

「子どもを大声でしかることがあるか」について尋ねた結果の子どもの有無別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-9-1)。

『おとな調査』における「子どもを大声でしかることがあるか」の有無については、「子どもがいる」では、『よくある』(11.7%)と『たまにある』(56.7%)が68.4%子どもを大声でしかることがあり、『ない』が28.2%であった。さらに、「子どもがいない」では、『よくある』(0.4%)と『たまにある』(28.0%)が28.4%子どもを大声でしかることがあり、『ない』が56.9%であった。

図表Ⅱ-9-1 調査票別・自己肯定感(自分のことが好きだ)別・子どもの有無別の子どもを大声でしかるものの有無



(2)大声でしかることの理由(おとな調査(N=870) [問10-1])

「子どもを大声でしかることがある」と回答した対象者に、「子どもをたたく理由」(9項目)について複数回答で尋ねた。

◎調査票別

「子どもを大声でしかることがあるか」について尋ねた結果の調査票別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-9-2)。

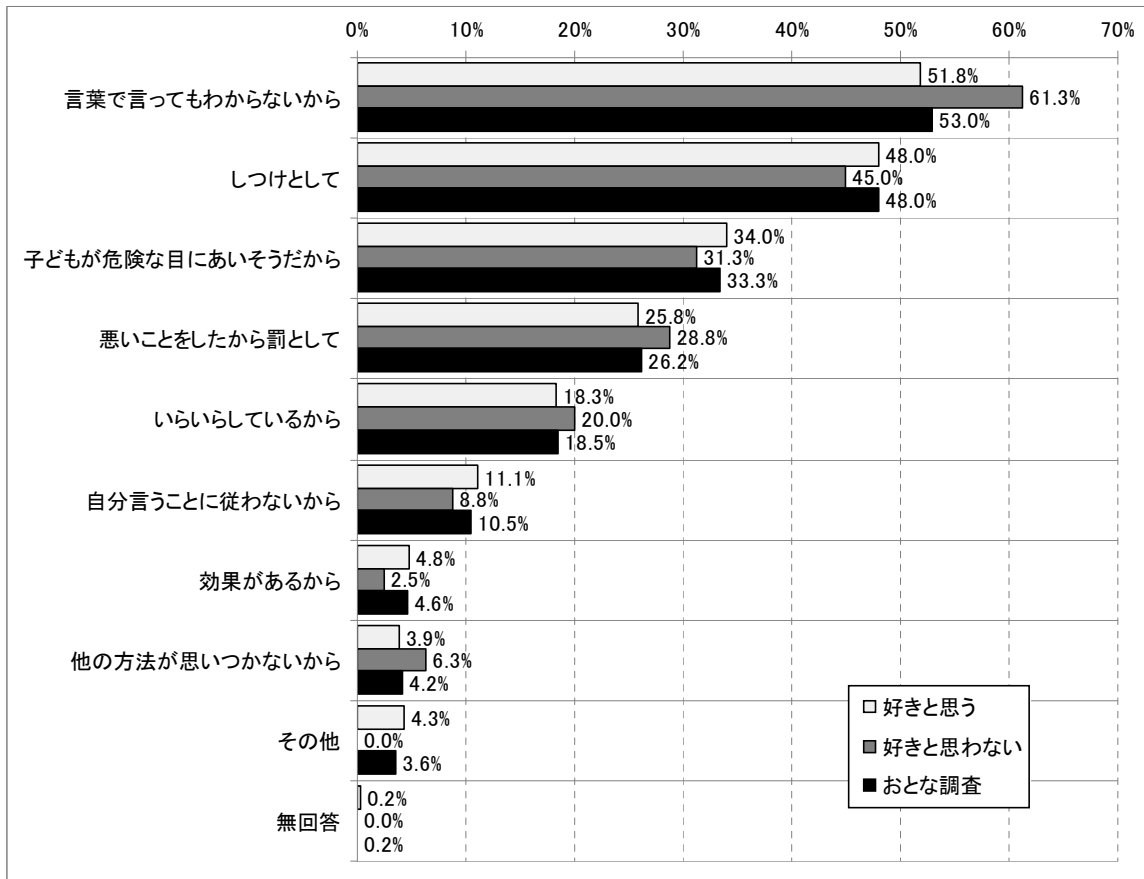
『おとな調査』における「子どもを大声でしかる理由」の上位3位は、『言葉で言ってもわからないから』・『しつけとして』・『子どもが危険な目にあいそうだから』の順であった。

◎自己肯定感(自分のことが好きだ)別

「子どもを大声でしかることがあるか」について尋ねた結果の自己肯定感(自分のことが好きだ)別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-9-2)。

『おとな調査』における「子どもを大声でしかる理由」の上位3位は、「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」ともに、『言葉で言ってもわからないから』・『しつけとして』・『子どもが危険な目にあいそうだから』の順であった。また、全ての項目で「自分のことを好きと思う」と「自分のことを好きと思わない」とがほぼ同じ割合であった。なお、「自分のことを好きと思わない」では『その他』が、0.0%であった。

図表Ⅱ-9-2 調査票別・自己肯定感(自分のことが好きだ)別の子どもを大声でしかる理由

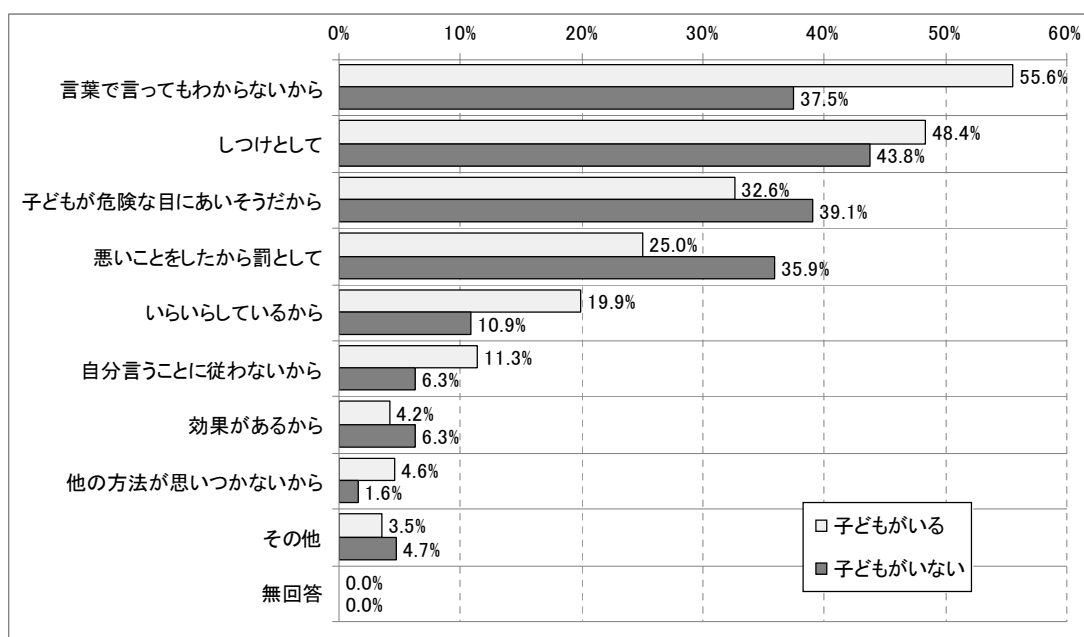


◎子どもの有無別(『おとな調査』のみ)

「子どもを大声でしかることがあるか」について尋ねた結果の子どもの有無別は、以下のとおりであった(図表Ⅱ-9-3)。

『おとな調査』における「子どもを大声でしかる理由」の上位3位は、「子どもがいる」では、『言葉で言ってもわからないから』・『しつけとして』・『子どもが危険な目にあいそうだから』の順であった。さらに、「子どもがいる」では、『しつけとして』・『子どもが危険な目にあいそうだから』・『言葉で言ってもわからないから』の順であった。また、『言葉で言ってもわからないから』(いる:55.6%>いない:37.5%)は、「子どもがいる」が「子どもがいない」よりも高い割合であった。逆に、『悪いことをしたから罰として』(いない:35.9%>いる:25.0%)は、「子どもがいない」が「子どもがいる」よりも高い割合であった。

図表Ⅱ－9－3 子どもの有無別の子どもを大声でしかる理由



以上から、自己肯定感の強い回答者は、子どもを大声でしかるものが多く、その理由としては、「言葉で言ってもわからないから」「しつけとして」「子どもが危険な目にあいそうだから」が多く、この傾向は、自己肯定感の弱い回答者も同じであった。

よって、自己肯定感の強い回答者の特徴としては、子どもを大声でしかり、言葉で言ってもわからなかったり、しつけのため、子どもが危険な目にあいそうだからため大声でしかる傾向が見られる。